

令和7年度
神戸大学附属図書館年次報告

令和8年8月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

＊附属図書館ホームページ掲載＊

<https://lib.kobe-u.ac.jp/about/facts/reports/>

刊行のご挨拶

附属図書館長 近藤 徳彦

本年度の年間総入館者数は58万人を超え、前年度比約1.1倍となりました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた図書館利用は着実に回復を続けており、試験期における開館時間の拡大や自然科学系図書館の日曜開館といった取組の効果もあって、図書館は学生の学修と研究を支える場として活発に利用されています。

このたび、神戸大学附属図書館の年次報告書を刊行する運びとなりました。ここに令和7年度の主な取組をご報告いたします。

学習・教育支援においては、「情報基礎」や各種ガイダンスを通じた情報リテラシー教育の充実に努めるとともに、「読書マラソン」や学生チーム ULiCS の活動を通じて、学生の主体的な学びや読書活動を支援しました。

学術研究支援においては、電子ジャーナルやデータベースをはじめとする教育研究基盤資料の整備を進めるとともに、機関リポジトリ「Kernel」の運用やオープンアクセス推進活動を継続し、研究成果の発信と共有の促進に努めました。厳しい財政環境のもとにあっても、研究活動を支える学術情報基盤の維持・充実に取り組んでいます。

社会連携・情報発信では、資料展「江戸・上方の本屋さん」を開催したほか、震災文庫における資料の収集・保存・公開を継続しました。また、阪神・淡路大震災関連映像の公開や展示を通じて、震災の記録と教訓の継承に努めるとともに、学術資料の電子化やデータ利活用の推進にも取り組みました。

さらに、本年度は共同利用書庫の運用を開始し、資料保存環境の向上と収蔵スペースの確保を進めました。附属図書館は今後も、学修・研究・社会連携を支える知の拠点として、その機能の一層の充実と発展に努めてまいります。

本報告書が、附属図書館の活動への理解を深めていただく一助となれば幸いです。今後とも皆様のご意見を伺いながら、職員一同、より充実した図書館サービスの提供に向けて努めてまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和7年度神戸大学附属図書館年次報告

刊行のご挨拶

<u>1. 令和7年度の取り組みの概要</u>	p. 1
-----------------------------------	------

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス	p. 7
(2) 学生用資料整備	p. 10
(3) 資料提供サービスと利用促進	p. 12
(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス	p. 17
(5) 学生との協働及び学生参加型の取組	p. 18
(6) 情報リテラシー教育の推進支援	p. 19

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備	p. 24
(2) 電子的情報基盤の整備	p. 28
(3) 蔵書目録データベースの整備	p. 32
(4) 資料の保存	p. 33

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催	p. 34
(2) 震災文庫	p. 36
(3) 電子図書館システムによる情報発信	p. 37
(4) 機関リポジトリによる情報発信	p. 39
(5) 国際連携	p. 40

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営	p. 41
(2) 事務組織と人事管理	p. 43
(3) 予算及び財務会計業務	p. 48
(4) 施設整備・システム整備	p. 50
(5) 図書館界での諸活動	p. 52

<付録>

付録1	神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について	p. 55
付録2	KU VISION	p. 58
付録3	達成度評価 令和6事業年度に係る業務の実績(第4期中期目標)	p. 60
付録4	数値結果実績(第3期～第4期)	p. 62
付録5	達成度評価の根拠資料 附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果	p. 64
付録6	附属図書館に関する自己点検・評価結果、 及びそれを踏まえた対応措置	p. 78

基本統計表

付録7	蔵書・受入等の現況(各館室別)	p. 87
付録8	サービス業務の現況(各館室別)	p. 88
付録9	電子的情報サービスの現況	p. 89
付録10	図書館組織図・事務組織図	p. 90
付録11	附属図書館諸会議(議題一覧、委員名簿)	p. 91
付録12	附属図書館予算・決算表(運営経費、資料費)	p. 99
付録13	附属図書館活動日誌	p. 101

1. 本年度の取り組みの概要

◆学習・教育支援

(1) 開館サービス

本年度の年間総入館者数は 589,201 人で、前年度よりの約 1.1 倍と、引き続き増加している。時間外開館については、予算上の制約により前年度と同様に実施時間を全体的に短縮して実施したが、変更点として、自然科学系図書館で授業期・試験期に日曜開館を実施し、各クォーターの 7～8 週目を試験期として土曜・日曜の開館時間を拡大した。自然科学系図書館の日曜開館入館者数は 4,915 人であり、これは前年度からの増加分 8,803 人の約 56% を占め、その効果は如実に表れた。試験期土曜・日曜の開館時間拡大については、1 日あたりの入館者数が土曜・日曜開館全体の 1 日平均より明らかに多く、特に自然科学系図書館と社会科学系図書館では顕著だが、その一方で、試験期であっても閉館時間に近い時間帯の滞在者が多いとは言えない館も見受けられ、数館では土曜・日曜の入館者数 1 日平均が微減している。令和 8 年度の時間外開館は、本年度と同様に試験期の土曜・日曜で開館時間の延長を実施するが、引き続き学生の図書館利用の動向を注視しその把握に努めて、実施内容の適切な判断につなげたいと考える。

(2) 学生用資料整備

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館学生用資料費予算は前年度と同額の 39,045 千円を維持した。また、前年度と同様に外部資金であるネーミングライツ料収入の 1/4 (300 千円) を充てることにより、学生用資料費の確保を図った。

前年度に整備した学生用図書の選定評価を従来どおり実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことを確認した。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、予算規模の維持に向けた取り組みと、より効率的な資料の収集との両面から適切な資料整備を行う必要がある。また、冊子と電子ブックの両方に配慮してコンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するような資料整備を進める必要がある。

(3) 資料提供サービスと利用促進

学部生・院生への貸出冊数は 256,051 冊であり、コロナ禍による大幅減から増加に転じた令和 3 年度以降、初めて前年度より減少した。それでも前々年度より 10% は多く、増加がひと心地ついた感じであるが、次年度以降の推移は注視したい。利用促進においては、本を借りて読むことを促進する来館型のイベント「読書マラソン」を 2 年ぶりに実施した。参加者数と完走者数は前回よりいずれも大幅に増加し、今回特に景品の訴求力の向上による効果が実感された。またそれと共に、「読書のきろく」を書くこと、それを OPAC 書評機能により公開すること、読んだ本の面白さを人に伝えること、これらが投稿の動機となったとうかがえるアンケート回答が前回同様一定数見られ、局所的ではあるが図書館のイベントが学生の読書意欲を喚起しており、「読書推進・貸出促進」という目的の達成に寄与していると言える。

(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス

図書館相互利用 (ILL) について、本年度は前年度に比べ、文献複写の依頼は減少が続き、文献複写の受付、現物貸借の受付・依頼は前年度と同程度の件数を維持した。社会科学系図書館の複写受付件

数は、前年度同様に学内全体の約半数を占め、同館が人文・社会科学系の外国雑誌センター館としての責務を持続的に果たしている証左となっている。

（５）学生との協働及び学生参加型の取組

「附属図書館学生チーム ULiCS（うりくす）」は本年度末時点で 7 名が参加、継続的活動として計 2 回の定例会開催、団体紙『The ULiCS Times』第 16 号の発行・公開、2 回の「ULiCS 文庫」（テーマ本の展示）、3 回の「まごまご読書倶楽部」（学生参加型持ち寄り読書会）等を行った。活動の可視化促進のため、学内学生団体（KooBee）発行サークル図鑑への掲載や X（旧ツイッター）広報も継続して実施している。

（６）情報リテラシー教育の推進支援

図書館員が 1 コマを担当する全学共通授業科目「情報基礎」は、本年度もオンデマンド型遠隔授業として開講され、23 クラス・2,736 人が受講した。授業の理解度テストは、全ての設問で正解率が 9 割以上となった。また各学部専門科目「初年次セミナー」では、図書館ツアーのほか、文献検索ガイダンス等を対面で行った。図書館主催ガイダンスは、ベンダーに講師を依頼したガイダンスを除きオンデマンド型で実施した。オーダーメイドガイダンスやオリエンテーションは、希望に沿って対面・オンライン・オンデマンドに対応した。さらに、パスファインダー「KULiP」の運用と内容更新、チャットによるオンラインレファレンスを継続して行った。

◆学術研究支援

（１）研究用資料の整備

教育研究基盤資料整備費について、本年度は前年度の契約規模を維持することができたが、価格高騰と円安の影響により総額 426,085 千円と、前年度から約 7,128 千円増となった。令和 6 年 5 月 9 日の部局長会議において令和 8 年度以降の整備方針を見直すこととなったが、一部タイトルの契約期間の都合により、令和 7 年 2 月 13 日の部局長会議において改めて令和 9 年度契約分を対象に見直しを行うことが決定され、令和 8 年度の契約規模、パッケージ等は維持することとなっていた。

本年度においては、令和 6 年度に実施した学内アンケートの結果を基に附属図書館運営委員会を中心に協議を続け、まとめた見直し案を各部局においても検討、出された意見を以て執行部と協議した結果、令和 9 年度分までは現契約を維持することとし令和 10 年度分に向けて検討を続けることとなった。

附属図書館運営経費については、本年度当初予算は 241,119 千円で前年度から 5,741 千円減（2.3% 減）となった。大学全体の予算減額措置より大きい割合となっているが、これには神戸大学出版会の当初予算不足分を一時的に立て替えていることが影響している。図書資料費を十分に確保することも困難な状況であるが、本年度は前年度から 242 千円減の 67,499 千円の当初予算を確保した。予算の減額もさることながら、資料本体の値上げ等により全体の購入点数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約 1 割とし、前年度と同額の 24,000 千円を確保した。外国雑誌センター館としての役割を維持するため他機関と調整しながら、近年の予算抑制と円安による価格上昇に対応できるよう購入タイトルの見直しも行っている。

今後も物価の高騰や雇用単価の値上げ等により経費負担が増える見込みのため、引き続き資料費の見直しも行っていかなければならない。

（２）電子的情報基盤の整備

本年度末における電子ジャーナル購読数は 38,586 タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資

料整備事業によるもので約 150 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は前年度の規模を維持している。

円安や原価の上昇によって令和 8 年度の所要見込もタイトル減少の中で高水準を維持しており、今後の購読内容の検討は喫緊の課題である。

一方で、一部の出版社から「転換契約」という新しい契約形態が提案され、本学は、国内 10 大学によるパイロットプロジェクトに参加して令和 5 年 1 月から Springer Nature 社と、令和 6 年 4 月から Elsevier 社と転換契約を開始している。

(3) 蔵書目録データベースの整備

目録遡及入力の本年度実績は、特殊資料（漢籍など）と研究室からの返納図書、製本雑誌等を合わせ 21,416 冊で、全蔵書数約 372 万冊のうち約 341 万冊（約 90%）が OPAC（オンライン目録）で検索できるようになった。引き続き和古書のほか、漢籍、マイクロ資料等の特殊資料の入力を進めている。

(4) 資料の保存

本年度は更に整理作業を進めるべく総合・国際文化学図書館及び人文科学図書館から自然科学系図書館共同利用書庫への資料移管を行い、書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。また、本年 10 月に共同利用書庫の運用を開始した。今後は、共同利用書庫への製本雑誌の移管作業を人間科学図書館で実施し、さらに図書を含めた附属図書館全体及び各館室における体系的な資料整備を進めていく必要がある。

書庫の除湿機設置と適切な運転でのカビ対策を実施しているが、程度の差はあれどの館室でもカビの被害は発生しており、職員がカビ対策の知識及びクリーニング技術を習得することで、日常的に対応できることが必要である。その点でスタッフページにカビ資料クリーニングマニュアルを用意できたことは、必要な時に職員であればいつでもだれでも確認して作業可能になり、大いに評価できる。大量にカビが発生してしまうとその除去には労力も経費も費やすことになる。突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなど想定外の事態に備えて、なお一層の書庫環境の保全維持、資料保存の適切な環境整備に努めていく必要がある。

◆社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

総合・国際文化学図書館と海事科学分館において実施している資料提供サービスについては、総合・国際文化学図書館の貸出冊数が回復傾向を示しており、社会に開かれた図書館としての役割を果たしている。

資料展については、大河ドラマで取り上げられた蔦屋重三郎の出版した図書など、当館としては初出の貴重書を展示した結果、一般の方々の関心も高く、時宜を得たテーマの設定や展示資料の選定など適切に実施することができた。また、毎年運営に携わっている WG メンバーについては経験値も高く、いままでのノウハウなどを有効に活用しつつ、極力省力化を心がけ、準備を行えた。

アンケートからも貴重書の現物を見ることができてよかった、といった感想が多数寄せられ、当館として社会貢献に寄与するためにも、所蔵資料・古文書・普段は見ることのできない特殊な資料の紹介、また地域の歴史などを紹介する資料展は、有意義であると評価できる。

さらに、学内の他組織主催の展示を図書館で開催したことにより、多様かつ専門性の高い展示内容が実現し、利用者の興味・関心の幅を広げる効果が得られた。

(2) 震災文庫

社会科学系図書館にある震災文庫では、新たに 618 件の資料を受け入れ、所蔵資料総数は 58,300 件超に、うちデジタル化された資料は 13,400 件超となった。また、サンテレビジョンから寄贈を受けた阪神・淡路大震災当日の動画 211 件をデジタルアーカイブで公開し、これをもって平成 7 年 1 月 23 日（震災 7 日目）までに撮影された全映像の公開が完了した。本年度の一般利用者数は 301 名、見学・ゼミ利用は 9 件/167 名であった。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

平成 11 年から「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱にデジタルアーカイブ構築を行ってきたが、令和 4 年 9 月の電子図書館システムのリプレイスにより、「震災文庫」「新聞記事文庫」「貴重書・特殊コレクション」「神戸大学学術成果リポジトリ (Kernel)」の 4 コレクションを共通規格に対応した方式で公開している。

令和 5 年度採択された「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」（実施期間：令和 5 年 10 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日）により電子公開の拡充を行い、JDCat(人文学・社会科学総合データカタログ (Japan Data Catalog for the Humanities and Social Sciences)) と連携を開始した。

(4) 機関リポジトリによる情報発信

平成 18 年度に稼働を始めた「神戸大学学術成果リポジトリ (Kernel)」は、本年度は 3,770 件のコンテンツが新規登録され、総コンテンツ数は 45,044 件に達し、順調にコンテンツ数をのばしている。「オープンサイエンス推進 WG」では、本年度も重点的な取組として、神戸大学研究者紹介システム「KUID」に登録された論文情報 2,957 件の各ジャーナルの著作権調査を手分けして実施し、公開可能なもののうち 196 件について著者へ登録依頼し、41 件を登録した。また前年度採択された「オープンアクセス加速化事業」により開発した Kernel 登録申請システムの運用を開始し、あわせて学術論文等の即時オープンアクセス義務化に関する広報活動を継続した。

(5) 国際連携

本年度は、国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）の助成を受け、職員 1 名をドイツ（ハイデルベルク）及びルクセンブルクに派遣した。職員の海外派遣には予算の確保が不可欠であるため、今後とも外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

◆管理運営等

(1) 図書館組織と運営

本年 4 月から近藤徳彦教授（人間発達環境学研究科）が附属図書館長の任に当たっており、3 名の副館長も交代した。附属図書館運営委員会はメール回議 2 回を含む 6 回開催した。教育研究基盤資料の整備が懸案事項となっており、令和 9 年購読分を対象に検討を行った。情報サービス課連絡会議により各館室の問題や状況を共有し、均一のサービス提供や問題点の解決を行った。研究開発室については、電子化部会と教育研究支援部会において、それぞれ室員の教員より意見・助言を得ることができ、設置目的のとおり高度な図書館サービスの実現に寄与している。

(2) 事務組織と人事管理

令和 8 年 3 月時点で、附属図書館事務局は 2 課 2 グループ 11 係、URA を含めて、定員 47 名、非

常勤職員 34 名の 82 名であった。経済経営研究所図書係に定員 3 名、大学文書史料室に定員 3 名、非常勤職員 3 名を配置している。研修及び講演会はハイブリッドまたはオンライン開催が主流となっており、場所・時間の制約なく参加できるという利点から、本年度も積極的に職員が参加した。また、特に専門主題に関わる研修を中心に対面開催の研修について職員派遣を行った。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。図書館環境整備 WG については、引き続き各図書館の環境整備に取り組みつつ、深江キャンパスや他のキャンパスでの改修計画の動向に注視する必要がある。

業務改善については、特にキャッシュレス決済の導入や時間外開館要員の学生アルバイトへの連絡手段に Teams を導入したことはサービス向上及び業務の効率化に大きく貢献している。今後も、継続検討となった課題に新規事項も加え、DX による業務の効率化も視野に入れながら、引き続き取り組んでいく。

(3) 予算及び財務会計業務

経常運営費・経常事業費の当初予算総額は 237,082 千円で、前年度の 240,937 千円より 3,855 千円の減となった。為替相場での円安傾向や物価高などにより、経常運営費及び図書館資料費の執行は大きく影響を受けた。時間外開館についても、利用の多い自然科学系図書館の授業期・試験期日曜開館を復活させるなど限られた経費の中で効果の高い運用を模索しているが、学内の予算措置を受けて実施できている状況である。ゆえに開館時間が予算措置の状況に左右され、年度当初に予定が定まらないという問題が生じていることや、附属図書館利用細則とは違った臨時的運用が続いているなど、適正な開館時間の設定と必要な経費の確保は今後も大きな課題である。

学生用資料費についても、前年度より 1.6% の削減を行っており、学生用資料の選定において、一層学生の教育に適した資料を選定する必要があるとともに、経費の確保が課題である。

本年度、外部資金等による収入として、ネーミングライツ 2 社、「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業委託業務」、学術情報流通活性化経費などを得ることができた。今後も外部資金等の獲得に努めたい。

(4) 施設整備・システム整備

令和 4 年度までに、人文学系図書館・総合・国際文化学図書館・社会科学系図書館・保健科学図書室に、学修支援機能の強化を目的としたラーニングコモンズ (LC) を設置。令和 5 年度には自然科学系図書館に、LC に加え、資料収容力強化を目的とした共同利用書庫の増設を完了した。自然科学系図書館の入館者数は改修前に比べ大幅に増加、共創スペースとして設置した各施設での大学プロジェクト等での利用数は 44 件にのぼり、共創スペースとしての役割を果たしていると評価できる。また、空調機や除湿機の修繕・更新工事を計 4 件行い、各館室の閲覧室や書庫の環境改善に努めた。

システムについては、「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」により機関リポジトリへの外部ハーベスタとの連携強化機能追加を行うことができた。図書館システムは令和 4 年 9 月のリプレイス以降概ね問題なく稼働しており、今後もシステムの安定した運用の維持と、改善を要する点への対応が課題である。令和 8 年度以降は、令和 10 年度に予定する次期図書館システム更新に向けた検討及び対応を行う。また、本年度から対応中のキャンパス情報ネットワークシステム (KHAN2025) への更新、令和 8 年度中に予定されている次期会計業務システムへの更新について、円滑に移行できるよう引き続き対応する。

なお図書館ウェブサイトについては、実施に係る予算要求が採択され学内予算措置されたことに伴い、9 年ぶりとなるリニューアルを令和 8 年度に予定している。

(5) 図書館界での諸活動

本年度は国立大学図書館協会資料委員会作業部会に職員 1 名が参加した。国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業「きみが大学図書館を変えてみないか」(通称:キダカミ)に職員 3 名がワーキングメンバーとして参加した。兵庫県大学図書館協議会では引き続き会長館、事務局として協議会の運営にあたった。オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) で職員 1 名が作業部会員を務めた。他機関・団体等が開催する研修等に、講師や運営等として職員 4 名が携わった。他機関との連携は参加する職員自身の資質向上にもつながるものであり、今後も推進が期待される。

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

《開館状況》

- ・ 本年度の開館時間帯は下表のとおりである。令和 6 年度第 4 回附属図書館運営委員会で承認された時間で実施した。

		総合・国際文化学 図書館	社会科学系 図書館	自然科学系 図書館	人文科学図書館 人間科学図書館 保健科学図書室※ 海事科学分館	医学分館	経済経営研究所 図書館	
授 業 期	平日	8:45-20:00	8:45-20:00	8:45-20:00	8:45-19:00	8:45-20:00	8:45-17:00	
	土曜	11:00-17:00	11:00-17:00	11:00-17:00	11:00-17:00	11:00-17:00	休館	
	日曜	休館	11:00-17:00	11:00-17:00	休館	休館	休館	
試 験 期	平日	授業期と同じ					授業期と同じ	授業期と同じ
	土曜	11:00-18:00	11:00-19:00	11:00-18:00	11:00-18:00			
	日曜	休館	11:00-19:00	11:00-18:00	休館			
休 業 期	平日	8:45-17:00	授業期と同じ	8:45-17:00	8:45-17:00	授業期と同じ	授業期と同じ	
	土曜	休館		休館	休館			
	日曜	休館		休館	休館			

注)祝日は休館

※保健科学図書室の試験期開館時間延長は第 2・第 4 クォーターのみ実施

- ・ 時間外開館については、引き続き光熱水費の高騰等に対応するため、前年度と同様に実施時間を全体的に短縮して実施した。ただし令和 5 年 4 月のリニューアルオープン以降入館者の増加が顕著な自然科学系図書館については、前年度の内容に加えて、授業期と試験期の日曜開館を実施した。
- ・ 各クォーターの 7～8 週目を試験期とし、土日の開館時間を拡大した（医学は授業期と試験期の区別なし、保健は第 2・第 4 クォーターのみ実施）。
- ・ 図書館利用証（学生証）の代わりに、スマートフォン上に表示させた利用者バーコードを読み取らせて入館ゲートを通過する「スマホ入館」を、本年度より医学分館を加えて、経済経営研究所図書館を除いた 8 館室で運用した。

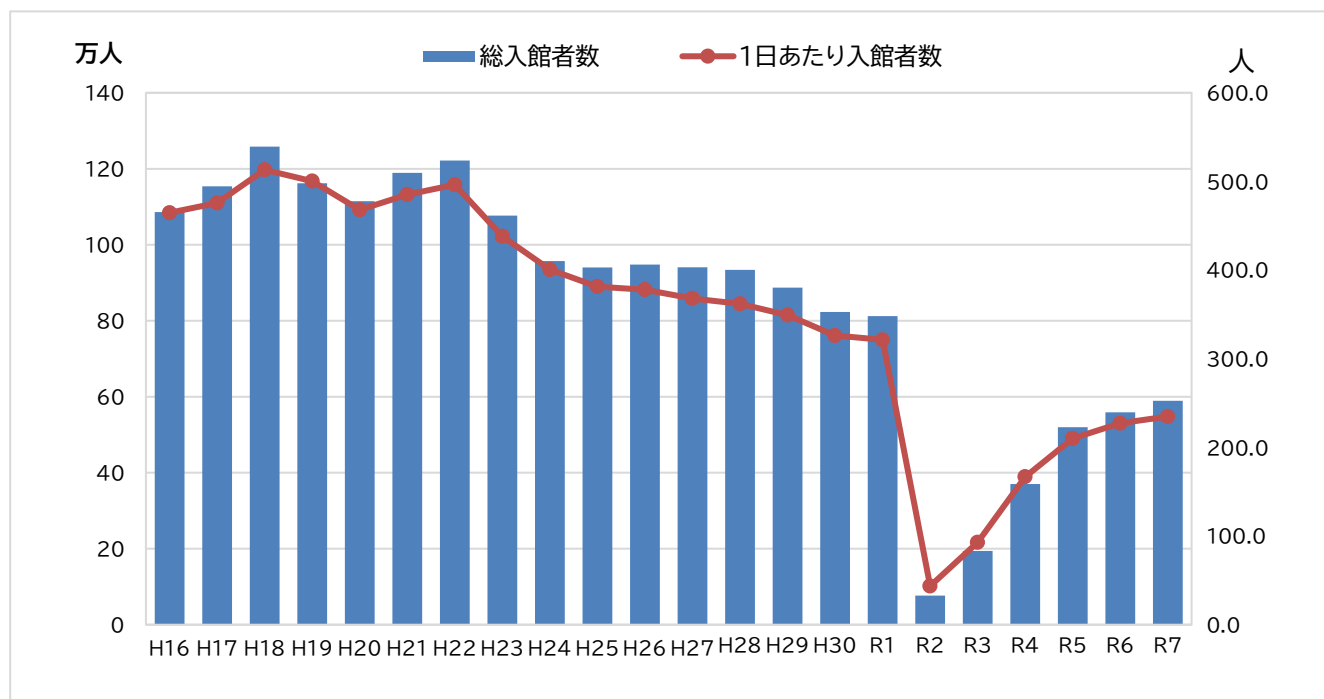
《入館状況》

<入館者数経年推移>

- ・ 平成 16 年度以降の年間総入館者数及び 1 日あたりの入館者数の経年推移を次に掲げる。
- ・ 改修工事（平成 20 年度総合・国際、平成 25 年度社会系）及び入退館管理システム導入（平成 23・24 年度）があった年に入館者数が減少し、平成 26 年度以降も緩やかに減少傾向であった。
- ・ 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策による休館、開館時間短縮、学生の入構制限などを反映し、令和元年度の 1 割程度に利用が減少した。そこから令和 3 年度は前年度比約 2.5 倍（令和元年度の約 24%）、令和 4 年度は同 1.9 倍（令和元年度の約 46%）、令和 5 年度には自然科学系図書館が改修を終えて 4 月当初よりリニューアルオープンしたこともあり同 1.4 倍（令和元年度の約 64%）になった。

- ・ 本年度は令和 6 年度より 1.1 倍弱の増加であり、これは令和元年度の 73%で、コロナ禍の初年度から 6 年が経過して、入館者数の回復が 7 割を超えた。

<入館者数の推移>



<全館入館者数>

	年間のべ 開館日数	年間総入館者数	1日あたり入館者数
R7/R6	1.02	1.05	1.03
R7/R1	0.99	0.73	0.73
R1 年度	2,528	812,400	321.4
R6 年度	2,460	559,111	227.3
R7 年度	2,509	589,201	234.8

- ・ 表は、本年度の全館入館者数を前年度及び令和元年度と比較したものである。

<通常開館>

平日（17:00 まで）の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R7/R6	1.01	1.10	1.03	0.98	1.06	1.10	1.17	0.97	0.92	1.04
R7/R1	0.62	0.84	1.69	0.77	0.59	0.32	0.54	0.88	0.44	0.79
R1 年度	858.8	525.7	317.5	229.3	194.6	12.4	266.4	135.6	181.9	302.6
R6 年度	523.4	402.8	523.0	181.9	107.0	3.6	124.2	123.4	87.1	230.1
R7 年度	531.2	442.0	537.7	177.6	113.9	4.0	144.8	119.1	80.3	238.7

- ・ 館によって 1 割程度の範囲で増減のばらつきはあるが、全体としては、前年度と比較して増加している館が多い。令和元年度と比較すると 8 割弱である。自然科学系図書館についてはリニューアル後の令和 5 年度以降増加が続いている。

<夜間開館>

平日夜間（17:00～）時間帯の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R7/R6	0.91	1.28	0.99	1.01	1.04	-	1.07	1.11	0.88	1.04
R7/R1	0.25	0.51	1.11	0.47	0.43	-	0.33	0.45	0.16	0.46
R1 年度	160.4	83.2	83.5	56.6	28.2	-	63	22.7	41.1	67.8
R6 年度	44.8	33.1	93.0	26.1	11.6	-	19.1	9.3	7.4	30.1
R7 年度	40.7	42.4	92.4	26.4	12.2	-	20.5	10.3	6.6	31.4

- ・ 前年度と比較して、全体としては約 1.04 倍で微増、社会科学系の増加と総合・国際と海事の減少がやや目立つ。令和元年度と比較すると、実施時間の短縮があるにせよ全体としては 5 割弱である。

<土曜・日曜開館>

土曜・日曜の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R7/R6	1.03	1.23	1.10	0.92	0.95	-	1.11	1.00	2.07	1.32
R7/R1	0.19	0.37	1.11	0.36	0.40	-	0.40	0.35	0.66	0.56
R1 年度	204.3	259.3	137.4	86	38.3	-	85.2	36.5	71	134
R6 年度	37.1	97.2	137.8	33.3	15.9	-	30.6	12.8	22.7	56.4
R7 年度	38.2	119.8	151.8	30.7	15.1	-	33.8	12.7	47.1	74.3

- ・ 前年度と比較して全体としては約 1.3 倍、海事での倍増が目立つがこの大半は学生自習室の利用者であり特定事情の反映である。令和元年度と比較すると全体でようやく 5 割を超えた。自然科学系図書館は前年度に続いて令和元年度と同程度以上の入館者を集めている。

<試験期開館時間延長>

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	保健	海事	合計
実施日数	8	16	16	8	8	4	8	68
延長時間	8	32	16	8	8	4	8	84
入館者数合計	452	3,502	5,155	343	169	71	144	9,836
1 日あたり入館者数(A)	56.5	218.9	322.2	42.9	21.1	17.8	18.0	144.6
土日の 1 日入館者数平均(B)	38.2	119.8	151.8	30.7	15.1	12.7	47.1	80.4
(A)/(B)	1.48	1.83	2.12	1.40	1.40	1.40	0.38	1.80
通常閉館時刻 30 分前滞在者数合計(1 日あたり)	173 (21.6)	1,391 (86.9)	2,469 (154.3)	84 (10.5)	32 (4)	26 (6.5)	77 (9.6)	4,252 (62.5)
延長閉館時刻 30 分前滞在者数合計(1 日あたり)	118 (14.8)	951 (59.4)	1,910 (119.4)	64 (8)	23 (2.9)	18 (4.5)	61 (7.6)	3,145 (46.3)

- ・ 本節冒頭の「開館状況」で記したとおり、各クォーターの7～8週目を試験期とし、7館室で土日の開館時間を拡大した（保健科学図書室は第2・第4クォーターのみ実施）。
- ・ 各館室1日あたりの入館者数を、ひとつ前に掲げた「土曜・日曜開館」の入館者数と比較すると、1日あたり開館時間が1ないし2時間長いにせよ、海事を除いていずれの実施館でも明らかに多い。土曜・日曜開館全体の1日平均より、海事を除き40%以上多く、1日あたりの開館時間の増加割合（1時間延長だと17%増、2時間延長だと33%増）を上回っている。

＜閉館時無人開館＝時間外特別利用＞

- ・ 医学分館で、医学部・医学研究科・保健学研究科・附属病院所属者を主対象として、平成9年度から24時間開館を実施していたが、新型コロナウイルス感染症対応のため令和2年4月8日から令和6年度末まで休止した。この間に実施内容を見直し、時間を短縮して（開館日は閉館時間から24時まで、休館日は11時から24時までに改める）、深夜と早朝に門衛所の警備員による館内巡回を導入し、「時間外特別利用」として、令和7年5月1日から再開した。本年度は269名の利用申請（新規186名、更新83名）があり、5,203名の入館者があった。

◆評価と課題

本年度の年間総入館者数は589,201人で、前年度よりの約1.1倍と、引き続き増加している。特記事項としては2つ、まずは自然科学系図書館での授業期・試験期の日曜開館の実施が挙げられる。当該館の日曜開館入館者数は4,915人であり、これは前年度からの増加分8,803人の約56%を占め、その効果が大きく表れる結果となった。もう一つは試験期土曜・日曜の開館時間延長であり、実施館においては1日あたりの入館者数が土曜・日曜開館全体の1日平均より明らかに多く、実施の効果ができていると判断される。特に自然科学系図書館と社会科学系図書館では数値実績が高い。その一方で、試験期であっても閉館時間に近い時間帯の滞在者が多いとは言えない館も見受けられ、数館で土曜・日曜の入館者数1日平均が前年度より微減している。

令和8年度の時間外開館は、本年度と同様に試験期の土曜・日曜で開館時間の延長を実施することにしており、引き続き学生の図書館利用の動向を注視しその把握に努めて、実施内容の適切な判断につなげたいと考える。

（2）学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計のとおりである。

＜資料費予算と重点整備＞

- ・ 各館室の学生用資料の整備は、図書館予算（図書館セグメント）から各館室に配分した経費と、各館室のサービス対象部局から拠出された経費（部局セグメント）を合わせて実施することとなっている。
- ・ 本年度の図書館学生用資料費予算は前年度と同額の39,045千円を維持した。また、前年度と同様に外部資金であるネーミングライツ料収入の1/4（300千円）を充てることにより、学生用資料費の確保を図った。
- ・ 平成28年度からE-Study事業費は独立した予算項目とした。利用実績を基に1タイトルを中止したことにより、本年度予算は4,159千円となり、前年度（4,396千円）よりも経費削減となった。
- ・ 平成18年度から震災文庫資料費（295千円）は独立した予算項目となっている。
- ・ 平成16年度から装備付納品を実施しているが、装備に要する価格が上昇した影響により、令和6年度からは社会科学系図書館（36冊）でのみ実施し、従来実施していた総合・国際文化学図書館では

実施しないこととした。なお、保健科学図書室については平成 29 年度から、自然科学系図書館と人間科学図書館については令和 5 年度から装備付納品を中止している。

<各館室の整備状況>

R7 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	1,825	258	1,608	976	365	456	35	530	380	614	7,047
雑誌種数	63	13	6	99	19	64	0	88	46	50	448

- 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

<選書体制と収集方針>

- 平成 16 年度に策定した「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき、各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画を立て、資料整備を行った。
- 総合図書館では、「総合図書館学生用資料整備計画」（附属図書館運営委員会決定）に基づき学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を組織し、具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。
- 総合図書館では、学生の声を資料選定に反映させるための試みとして、「学生選書ツアー」（学生が図書館に置いてほしい図書を、書店の店頭で直接手にとって内容を確認しながら選定するというもの）を平成 22 年度から実施している。本年度はジュンク堂書店三宮店において 11 月 7 日に店頭選書を実施した。合わせて 15 名の学生（学部生 12 名、院生等 3 名）が参加して選書を行い、179 冊を購入した。学生が必要とする資料の一層の充実を図るため、今後も、こうした取組を継続する方針である。

<選書評価>

- 平成 18 年度から、前の年度に整備した学生用図書について、利用状況の分析等による収集資料の評価を開始し、平成 21 年度からは、各館室とも共通したフォーマットによる選定評価を行っている。本年度末には、令和 6 年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことを確認した。（令和 7 年度第 6 回附属図書館運営委員会で報告）

<電子ブックの整備と利用結果>

- 日本語の学術図書を中心に電子ブックを提供する Maruzen eBook Library の購入数（雑誌はタイトル数）と利用状況を下に示す。本年度は、前年度より購入数、利用数ともに増加している。

	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
購入数	249	209	593	839	229	230	155	240
（うち雑誌(誌数)）	2	1	3	3	3	3	3	2
利用数	1,765	3,005	15,126	33,133	31,763	27,009	31,232	34,816

R2 年度、R3 年度の利用数には電子ブッククリックエストキャンペーンの試読含む

◆評価と課題

学生用資料費予算については、運営費交付金の削減の影響を避けられず、今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、ネーミングライツ料の充当のような予算規模の維持に向けた取り組みと、より効率的な資料の収集との両面から、適切な資料整備を行っていく必要がある。

資料の選定については、選定評価の実施により適切に行われていることを確認しているところだが、

電子ブックの利用が定着してきた現状を踏まえ、冊子と電子ブックの両方に配慮した選定を行い、コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するような資料整備を引き続き進める必要がある。

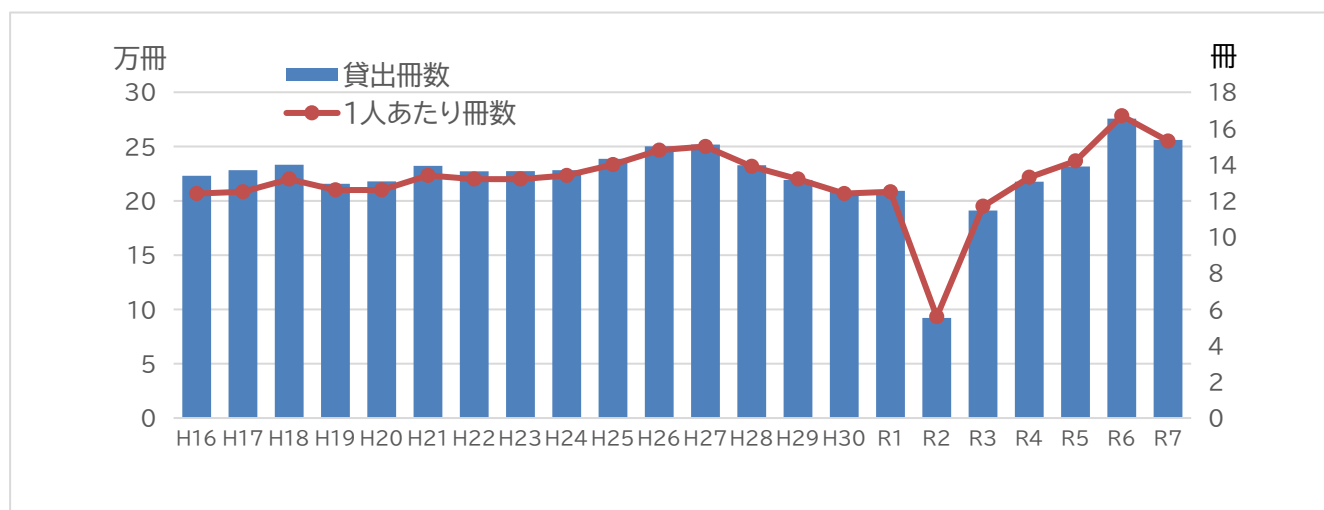
（３）資料提供サービスと利用促進

貸出及びデリバリーサービス（＝図書配送）冊数等の詳細は、＜付録＞基本統計表のとおりである。相互利用サービスについては、２（４）に後述する。

＜貸出サービス＞

平成 26 年 10 月から、対面による貸出の延長回数を無制限としているが、令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症対策の一環として、Web サイトの「アカウントサービス」からの延長も無制限とし、以降通常サービスの一部として実施している。

＜貸出冊数（学部生・院生）経年推移＞



平成 16～令和 7 年度の経年推移を上に掲げた。

- ・ 本年度の学部生・院生への貸出冊数は 256,051 冊であり、前年度の 275,731 冊より約 7%減少した。
- ・ 学生 1 人当たりの貸出冊数は 15.3 冊（前年度：16.7 冊）であった。
- ・ 学部生の貸出数は 131,031 冊、1 人あたりの貸出冊数は 11.2 冊（前年度より約 14%減）、大学院生の貸出数は 125,020 冊、1 人あたりの貸出冊数は 25.2 冊（同約 2%減）であった。

＜館別学部生・院生貸出冊数＞

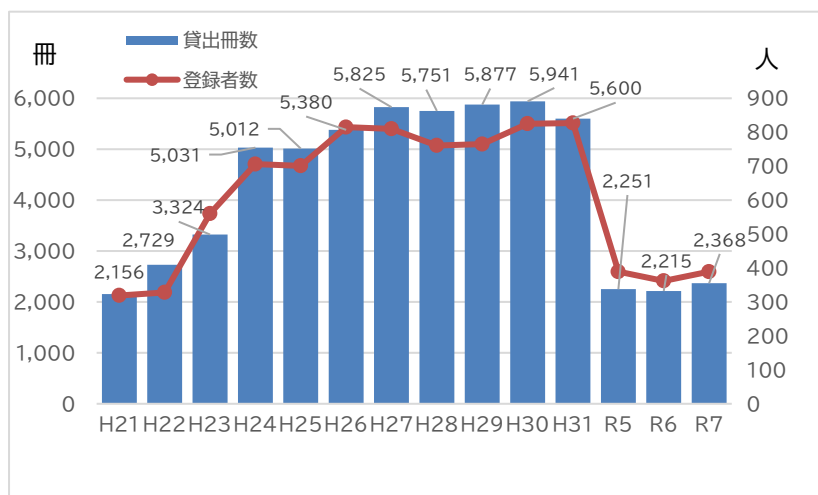
	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R7/R6	0.97	0.95	0.93	0.93	0.88	0.87	0.93	0.92	0.81	0.93
R6 年度	66,424	58,609	48,939	27,853	28,002	2,120	8,724	14,371	20,689	275,731
R7 年度	64,375	55,886	45,533	25,797	24,556	1,838	8,110	13,270	16,686	256,051

- ・ 館別の貸出数を前年度と比較した結果、貸出冊数の多い総合・国際と社会科学系での減少幅が 3%、5%で低い一方、より減少幅の大きい館もあり、結果として全体で 7%の減少となっている。海事の 20%弱の減少は目立つ。

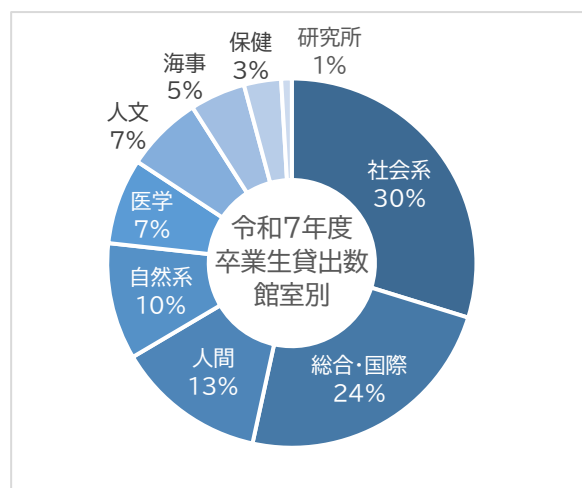
<卒業生及び修了者に対する貸出>

本学卒業生及び修了者への貸出サービスは、平成 21 年 3 月に始まった。令和 2 年 4 月 9 日の臨時休館以降、在籍者以外の利用を停止していたが、令和 5 年 2 月 13 日から入館と貸出を再開した。本年度の登録者数は 389 名、貸出冊数は 2,368 冊と、前年度の 362 名・2,215 冊からいずれもやや増加した。サービス停止前の令和元年度と比較して、登録数は 47%、貸出冊数は 43%となっている。

<卒業生貸出の推移>



<卒業生館室別貸出冊数>



《デリバリーサービス》

<デリバリーサービスの推移>

デリバリーサービスは、学内の図書館にある資料を最寄りの図書館に取り寄せるサービスであり、平成 12 年度後期に院生、教職員（異キャンパス間は学部学生も）を対象に始まった。平成 23 年度から六甲台キャンパス内の学部学生にサービスを拡大した。平成 27 年度には経済経営研究所図書館が加わり、全館でサービスを利用できる体制が整った。

<デリバリーサービス貸出冊数推移>



<館別デリバリーサービス取扱冊数>

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R7/R6	0.94	0.95	0.87	0.90	0.83	1.03	1.23	0.83	0.81	0.91
R6 年度	12,314	7,931	6,302	11,954	5,874	635	1524	1415	3,091	51,040
R7 年度	11,568	7,558	5,476	10,748	4,878	651	1871	1170	2,498	46,418

- ・ 上の表は、館別に本年度の発送冊数と受取冊数を合算し、前年度と比較したものである。
- ・ 発送冊数と受取冊数を合算しているため、貸出冊数の2倍の数値になっている。
- ・ 本年度は、前年度から約9%減少した。多くの館で減少する中、医学分館は前年度に続き増加がやや多く目立つ。

<附属中等教育学校への図書貸出サービス>

附属中等教育学校に対する図書貸出サービスは、平成24～28年度の間、総合・国際文化学図書館と人間科学図書館の2館が所蔵する図書について「中等教育学校図書室」に後期課程生徒（高校生）向け図書の整備ができるまでの5年間限りの特別措置として始まった。その後これを継承するものとして、平成29年3月「附属中等教育学校への図書の貸出サービスに関する申し合わせ」が附属学校部長と附属図書館長の間で締結され、平成29年度からは、配送による貸出サービスに加え、中等教育学校生徒が総合・国際文化学図書館と人間科学図書館に直接来館して貸出を受けることができるようになり、デリバリーサービスの集配場所に附属中等教育学校図書室を加えることで手続きの簡素化を図った。令和2年度からは試行として、前期課程3年次生（中学3年生）から利用可とするとともに、社会科学系図書館、自然科学系図書館の所蔵資料を配送貸出により利用可とし、令和3年10月からは試行として全館室の所蔵資料を配送貸出により利用可とした。この経緯を踏まえて、令和4年8月に「附属中等教育学校への図書の貸出サービスに関する申し合わせ」を改めて締結し、令和2年度以降の試行内容を令和6年度から正式サービスとした。

令和2年3月以降は学外者同様、来館利用を停止していたが、令和5年2月13日から再開した。

<貸出冊数>

カッコ内は直接来館による貸出数(内数)

館室名 /年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
総・国	92(37)	20(17)	264(261)	15	0	161(123)	232(179)	169(141)	77(64)
人間	3(3)	8(8)	3(3)	4	0	12	16(7)	7(2)	8(7)
社会系	-	-	-	4	2	19	18	7	1
自然系	-	-	-	0	3	13	0	17	19
その他の 館室	-	-	-	-	-	6	14	7	2
合計	95(40)	28(25)	267(264)	23	5	211(123)	280(186)	207(143)	107(71)

※本年度の総合・国際における直接来館貸出数の大部分は、授業において教員引率のうえ見学で来館した際に貸出

※本年度のその他の館室貸出数の内訳：人文2

- ・ 本年度の貸出数は前年度5割強に減少した。

《利用促進》

<テーマ図書展示>

平成26年度から全館で共通テーマを設定して、所蔵図書館からテーマに沿った図書を館員が選び、

期間を決めて展示する取組を実施している。

共通テーマ展示としては、従来と同様「レポート・論文の書き方」をテーマに設定し、複数館で実施した。各館で設定するテーマについても、専門とする分野の特徴を生かすよう留意しつつ、放映中の大河ドラマに因んだり、附属図書館の資料展や図書館の近隣で開催した展示会やイベント等に関連させたりするなど、工夫して実施した。

展示の種類	テーマ	実施館	実施開始月
共通テーマ展示	レポート・論文の書き方	総合・国際文化学図書館	4 月
		社会科学系図書館	4 月
		人文科学図書館	4 月
		人間科学図書館	4 月
		経済経営研究所図書館	4 月
		医学分館	5 月
		保健科学図書室	4 月
		海事科学分館	4 月
テーマ展示	夏の「恐怖」特集	総合・国際文化学図書館	7 月
	人工知能と社会科学	社会科学系図書館	7 月
	SF の夏	人文科学図書館	7 月
	誰かの心を守る本	人間科学図書館	7 月
	戦争－経済的側面を中心に－	経済経営研究所図書館	7 月
	読む神戸	海事科学分館	7 月
	医療機器開発の世界	医学分館	8 月
	アルバイト学生のおすすめ本	自然科学系図書館	9 月
	こども×コメディカル	保健科学図書室	9 月
	2025 年ノーベル経済学賞とその周辺	社会科学系図書館	10 月
	ファッションのことがもっとわかる本	人間科学図書館	10 月
	Countries & regions×経済・経営	経済経営研究所図書館	10 月
	やさしい本	海事科学分館	10 月
	医学の歴史を旅する	医学分館	11 月
	冬の本	総合・国際文化学図書館	1 月
	アニマルマニア	人文科学図書館	1 月
	「食」に関する本	人間科学図書館	1 月
	伝記・評伝×経済・経営	経済経営研究所図書館	1 月
	教員推薦図書	海事科学分館	1 月
	電子ブックを使ってみよう！	医学分館	2 月
資料展等の関連企画・関連テーマ展示	「文学・表現と戦争の関わり」(山口誓子特別展「誓子と戦争」関連図書展示)	人文科学図書館	9 月
	江戸の出版文化(附属図書館資料展「江戸・上方の本屋さん」関連展示)	総合・国際文化学図書館	10 月
	江戸時代の読む・書く・描く(附属図書館資料展「江戸・上方の本屋さん」関連展示)	人文科学図書館	10 月
	「戦争と文学、学生のまなざし」(神戸大学史特別	人文科学図書館	11 月

展「戦場に行った神戸大学の学生たち-戦後 80 年-」関連展示)		
「戦争と文学、学生のまなざし」(海事博物館巡回展「太平洋戦争時の日本商船」関連企画展示)	人文科学図書館	1 月

<テーマ図書展示実施回数>

H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
31	37	44	49	47	50	12	37	36	38	34	33

<イベント>

・読書マラソン

読書推進及び図書館利用・貸出促進のための企画として、前年度は初めて「シェア本棚」を開催したが、本年度は、一昨年までに 4 回開催していた「読書マラソン」を 2 年ぶりに開催した。エントリーして図書館の本を読み、内容や感想を「読書のきろく」専用フォームから投稿するとポイントを獲得でき、そのポイント数によって図書館オリジナルグッズが貰えるというもの。投稿された「読書のきろく」の内容は、蔵書検索 (OPAC) の書評機能を使用し検索結果詳細画面の書評欄に表示される (投稿内容の広報利用を承諾した参加者に適用)。期間は 11 月 11 日～1 月 29 日。



令和 5 年度に実施した実績を踏まえ、以下のようにいくつかの変更や新規取組を加えた。

- ・参加のしおりは PDF ファイルのオンライン掲載 (HP、LINE) のみで、紙媒体での配布は廃止
- ・景品獲得条件を 1,4,7,10 冊達成から 3,6,10 冊達成に変更 (前々回の条件に戻した)
- ・新デザインの景品を用意、また実施館における景品見本の展示を含めた広報ディスプレイを工夫
- ・感想を 1 冊以上提出しアンケート回答した参加者の中から抽選で 5 名にキーホルダーを進呈
- ・アンケートフォームは Google フォームから M365 Forms に変更

異なり参加者数 (1 回でも読書の記録を送った参加者数) は 60 名、10 冊達成した完走者は 34 名と、前回の 31 名、16 名からいずれも 2 倍近く増加した。参加者数のうち完走者の占める割合も 57% で、前回の 52% から増加している。「読書のきろく」の提出数も 480 件と、前回の 265 件から約 1.8 倍となり、OPAC 書評機能での公開件数も、前回の 123 件から 191 件に増加した。

◆評価と課題

貸出冊数はコロナ禍の令和 2～3 年度を除けば平成 30 年度の 208,442 冊を底に増加基調であり、令和元年度の学部学生貸出可能冊数上限の 10 冊への増加や、Web での延長回数の無制限化といった施策も要因の一部と考えられるが、本年度の学部生・院生への貸出冊数は 256,051 冊であり、コロナ禍による大幅減から増加に転じた令和 3 年度以降、初めて前年度より減少した。それでも前々年度より 10% は多く、増加がひと心地ついた印象だが、令和 8 年度以降の推移は注視したい。

利用促進においては、本を借りて読むことを促進する来館型のイベント「読書マラソン」を 2 年ぶりに実施した。参加者数と完走者数は前回よりいずれも大幅に増加し、今回特に景品の訴求力の向上による効果が実感された。またそれと共に、「読書のきろく」を書くこと、それを OPAC 書評機能により公開すること、読んだ本の面白さを人に伝えること、これらが投稿の動機となったとうかがえるアンケート回答が前回同様一定数見られ、局所的ではあるが図書館のイベントが学生の読書意欲を喚起しており、「読書推進・貸出促進」という目的の達成に寄与していると言える。今後も来館型とオンラインそれぞれの利点を活用しつつ、利用促進に取り組んでいきたい。

(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス

<相互利用サービス>

区分		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
複写	受付	R7/R6	1.5	1.0	0.6	1.0	1.2	0.9	0.9	0.8	1.0
		R6 年度	99	1,918	287	319	213	75	641	247	3,891
		R7 年度	152	1,949	171	308	266	64	600	212	3,794
	依頼	R7/R6	0.6	0.8	1.0	1.1	0.5	2.3	0.6	2.5	0.9
		R6 年度	268	702	139	615	358	12	243	110	2,472
		R7 年度	153	544	141	694	185	28	157	273	2,221
貸借	受付	R7/R6	1.0	0.9	0.8	0.9	0.9	1.0	2.1	0.6	0.9
		R6 年度	429	531	90	410	196	21	9	14	1,755
		R7 年度	440	502	72	382	181	20	19	9	1,675
	依頼	R7/R6	1.2	0.8	0.9	1.0	0.6	0.6	0.8	0.8	1.0
		R6 年度	101	153	75	418	95	5	4	4	869
		R7 年度	119	119	69	435	56	3	3	3	834

- ・ 館室によって増減はあるが、附属図書館全体として前年度と比べると文献複写の依頼は、0.9 倍と減少した。文献複写の受付、貸借の受付・依頼は 1.0 倍と同水準であった。

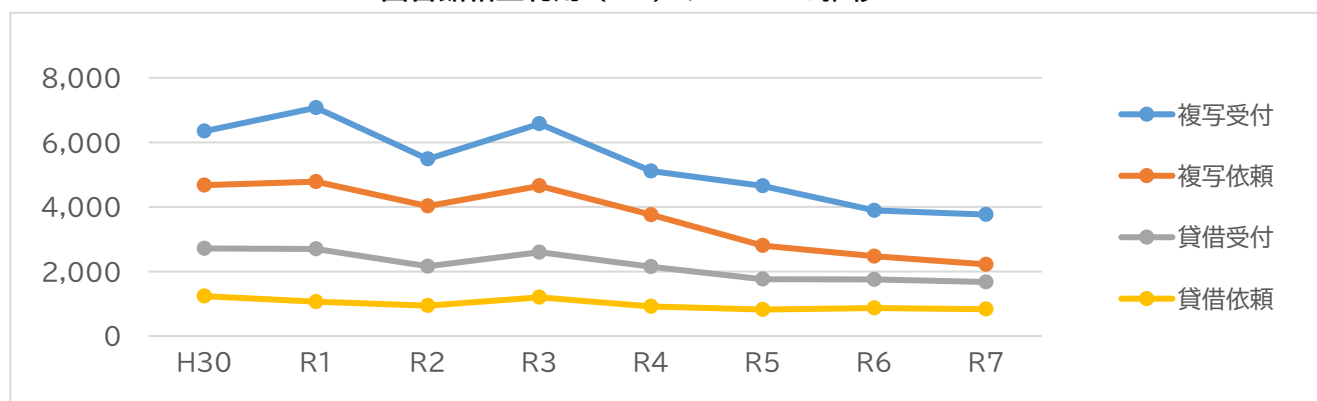
◆評価と課題

ILL サービスの利用件数の減少傾向は、電子ジャーナルや電子書籍の普及による影響もあり、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応措置を行う前から見られるものである。

令和 5 年 5 月から本学でも感染症対策として行っていた各種制限をなくし、学外者の入館を可能としたことで来館型の資料利用が増えた。また、他大学でも同様の対応が進み、本学の構成員が他大学の図書館を直接訪問して利用する機会が増えたことも影響し、ILL サービスの利用件数が減少したと考えられる。

一方で、社会科学系図書館の複写受付件数は、前年度同様に学内全体の約半数 (51%) を占めており、同館が人文・社会科学系の外国雑誌センター館として、その責務を持続的に果たしていることがわかる。

<図書館相互利用 (ILL) サービスの推移>



(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

<附属図書館学生チーム ULiCS>

学生との協働を目的に平成 27 年 10 月に発足した「附属図書館学生チーム ULiCS (うりくす)」は本年度末時点で 7 名が参加している。定例会として職員とのミーティングを年 2-3 回程度開催し、それ以外に学生のみもしくは活動中のグループごとの打合せは随時行っている。本年度の活動状況は、以下のとおりである。

4 月	『The ULiCS Times』第 16 号発行。図書館での掲示・配布と HP での公開
4 月	ULiCS 文庫①「〇〇が選ぶ一文」(総合・国際文化学図書館内 ULiCS 展示スペース)
4 月	団体紹介冊子に新歓向け情報掲載
7/1	まごまご読書倶楽部(読書会)①(テーマ自由)(総合・国際文化学図書館 2 階ラーニングcommons)
5/21	ULiCS 第 1 回定例会(総合・国際文化学図書館グループ学習室 E)
10 月	「神戸大学出版会しゅっぱんまっぴ」を更新・掲示(総合・国際文化学図書館 神戸大学出版会コーナー)
10 ~ 12 月	ULiCS 文庫②「坂口志文教授ノーベル賞受賞記念」(総合・国際文化学図書館内 ULiCS 展示スペース)
10/24	ULiCS 第 2 回定例会(総合・国際文化学図書館グループ学習室 E)
12/16	まごまご読書倶楽部(読書会)②テーマ「好きな本、今読んでいる本」(総合・国際文化学図書館グループ学習室)
2/9	まごまご読書倶楽部(読書会)③(テーマ自由)(総合・国際文化学図書館グループ学習室)

上記以外に、メンバー募集のための新歓ポスターの作成や X による広報を行っている。

(例：定例会の開催報告を発信、質問箱の設置など)

ULiCS の活動に関する職員側の対応は、図書館アウトリーチ WG が担当している。

<学生協働関連イベント等の企画>

附属図書館との共催イベントの実施には至らなかったが、企画アイデアの発案や意見聴取の場を継続して設け、協働実施に向けた体制の維持に努めるとともに、過去に作成した神戸大学出版会刊行物の広報資料の更新を自発的に提案・作成するなど、イベントに限らない着実な企画を継続した。

<その他の企画>

「ULiCS 文庫」

総合・国際文化学図書館 2 階展示コーナーにて実施中。

「まごまご読書倶楽部」

図書館に対し勉強以外でも気軽に利用できる場という認識を普及させ、また読書を身近に感じてもらうという目的で企画、継続的に開催している持ち寄り読書会。

◆評価と課題

ULiCS は、発足 10 年目となった。前年度に続き、定例会や読書会を継続して開催できていることは評価できる点である。参加学生数の多寡や個々人の忙しさによって活動メンバーが固定気味である

ことは引き続きの課題であるが、企画発案も活発になり、学生主導で定例会を開催するなど、徐々にチームが自発的に活動できるようになってきている。活動が維持できるよう引き続きサポートに努めたい。

（６）情報リテラシー教育の推進支援

<情報基礎>

- ・ 全学共通授業科目「情報基礎」は平成 20 年度から 1 コマ全体（90 分）が「情報の活用」にあてられ、情報リテラシー係と各館室のサービス係員を中心に構成される「情報リテラシー教育支援 WG」が担当している。
- ・ 本年度は 5 月を中心に実施し、学部新入生全員に補講受講者を加えた 2,736 人（23 クラス）が受講した。
- ・ 令和 2 年度から BEEF（神戸大学 LMS）やその後継の BEEF+を活用したオンデマンド型遠隔授業として実施している。
- ・ ワークブック形式の教材を作成し、図書館 Web サイトで公開した。また、授業の質問は専用のフォーム及びチャットから受け付けた。
- ・ 授業内容は、図書館 Web サイトや各種 Web サービス、電子ブックの閲覧方法、データベースの紹介のほか、OPAC と CiNii Books を使った検索実習、資料の引用方法等、初歩的な内容としている。
- ・ ちからだめし（授業の理解度テスト）の正解率は本年度も高く、全クラスの平均正解率はすべての設問で 9 割以上となった。
- ・ 授業後の受講生アンケートは、すべての項目で肯定的な回答が 9 割を超えた。
- ・ 授業後の受講生アンケート等を踏まえ、令和 8 年度に向けて授業内容やテキスト、課題、ちからだめしの再検討を行った。

<初年次セミナー>

- ・ 平成 28 年度から設けられた各学部専門科目「初年次セミナー」は、本年度から後継科目が実施されている。以下、本報告においては後継科目を含め、初年次セミナーと称する。初年次セミナーでは、各館サービス係が中心となり、教員の希望に沿った図書館ツアーや検索ガイダンスを計画、実施している。

実施日	内容	回数	人数	場所
4/16	[国際人間科学部 環境共生学科] 神戸大学附属図書館について説明、 人間科学図書館の案内	1	82	人間科学図書館 人間発達環境学研究科棟
4/18, 4/25, 5/9	[海洋政策科学部] 神戸大学附属図書館について説明、 海事科学分館の案内・見学	5	200	海事科学分館
4/18, 5/2, 5/30	[経済学部] 神戸大学附属図書館について説明、 社会科学系図書館の案内	5	157	社会科学系図書館
4/18, 4/25	[国際人間科学部 グローバル文化学科] 神戸大学附属図書館について説明、 総合・国際文化学図書館の案内	9	138	総合・国際文化学図書館

4/18, 4/25	[文学部] 人文科学図書館の案内	8	105	人文科学図書館
4/21	[理学部 化学科] 神戸大学附属図書館について説明、 Web of Science を使った検索実習	1	30	理学研究科棟
4/22	[経営学部] 神戸大学附属図書館について説明、 社会科学系図書館の案内	8	258	社会科学系図書館
4/25	[工学部 応用化学科] 神戸大学附属図書館について説明、 社会科学系図書館の案内	4	97	社会科学系図書館
4/25	[国際人間科学部 グローバル文化学科] 神戸大学附属図書館について説明、 社会科学系図書館の案内	1	15	社会科学系図書館
5/10	[国際人間学部 発達コミュニティ学科] 人間科学図書館のツアー、 雑誌論文の探し方	1	21	人間科学図書館
5/1	[工学部 応用化学科] 自然科学系図書館の案内、 図書館の概要と OPAC の利用方法	1	110	自然科学系図書館 工学研究科棟
5/7	[法学部] 図書・雑誌論文の探し方	1	162	六甲台講堂
5/9	[経済学部] 自然科学系図書館の案内	1	36	自然科学系図書館
5/12, 5/19, 6/16	[法学部] 神戸大学附属図書館について説明、 社会科学系図書館の案内	6	123	社会科学系図書館
5/16	[国際人間学部 子ども教育学科] 人間科学図書館の館内ツアー、 雑誌論文の探し方	1	50	人間科学図書館
5/16	[国際人間科学部 グローバル文化学科] 参考文献の見方・書き方	1	16	国際文化学研究科棟
5/23	[国際人間科学部 グローバル文化学科] 図書・雑誌の探し方、 国内論文・海外論文の探し方	1	15	国際文化学研究科棟
5/30	[国際人間科学部 グローバル文化学科] 文献管理ツールの使い方、 データベースの使い方	1	14	国際文化学研究科棟
合計		56	1,629	

<ガイダンス等>

- ・ 情報リテラシー係と情報リテラシー教育支援 WG メンバーが中心となり、ガイダンス等を実施した。
- ・ 実施方法は、対面またはリアルタイムでのオンライン実施、オンデマンド型授業のための資料提供

がある。

- ・ 図書館主催ガイダンスは、ベンダーに講師を依頼したデータベース講習会を除き、要点をコンパクトにまとめた「ひとくち resource discovery」シリーズとしてオンデマンド型で実施した。「ひとくち resource discovery」の一部の動画は公開範囲を学内限定にしている。
- ・ ベンダーに講師を依頼したデータベース講習会は、学内限定で動画を公開している。
- ・ 例年 4 月ごろに各館室が実施する新入生向けの図書館ツアーは、本年度は保健科学図書室を除き、利用者が各自で館内を見学するセルフツアーとした。

◆オーダーメイドガイダンス，図書館ツアー（職員が講師を担当）

実施日	実施方法(会場)	内容	回数	人数
4 月～	対面	各種データベース(OPAC・論文データベース・文献管理ツール)の使い方、参考文献の書き方等を依頼者の希望に沿って実施	27	511
	対面＋オンライン		1	24
	オンデマンド		6*	204*
合計			34	739

* 回数、参加人数は概数

◆図書館主催ガイダンス
(オンデマンド型ガイダンス)

実施日	実施方法(会場)	内容	回数	人数
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery(新入生・編入生のための図書館案内) 日	-	341
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery(レポートのための文献検索編) 日・英	-	111
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery(OPAC 編) 日・英	-	61
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery (CiNii Research 編 01～04) 日	-	153
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery(デジタルアーカイブ編) 日・英	-	47
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery(Web of Science 編 01～03) 日・英	-	49
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery(取り寄せ&ILL 編) 日・英	-	52
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery(EndNote online 編 01～03) 日・英	-	34
常設	オンデマンド	ひとくち resource discovery(新聞記事(日本語)編) 日・英	-	70
小計(職員担当分)			-	918

(ベンダーに講師を依頼)

実施日	実施方法(会場)	内容	回数	人数
4/23	オンライン	Web of Science 講習会	2	36*
小計(ベンダー担当分)			2	36
合計			-	954

* 参加人数は申込者数

◆その他（職員派遣）

実施日	実施方法(会場)	内容	回数	人数
4 月	対面	新入生オリエンテーション等	4	433*
	オンライン		1	370*
	オンデマンド		-	188
合計			-	991

* 参加人数は概数

◆新入生向け図書館セルフツアー

実施日	会場	内容	人数
4/4 ~ 5/29	総合・国際文化学図書館	館内に設置されたクイズに答えながら施設・所蔵資料・図書館サービス等について知る	66
	社会科学系図書館		29
	自然科学系図書館		22
	人文科学図書館		21
	人間科学図書館		20
	医学分館		8
	保健科学図書室*		1
	海事科学分館		14
	経済経営研究所図書館		7
	合計		

* 保健のみ職員によるツアーを 1 回実施

<パスファインダーKULiP>

- 平成 25 年度から、図書館による学修支援の一環として KULiP（クリップ／Kobe University Library Pathfinder）を運用している。授業シラバスに沿った指定書及び授業内容に関連した資料を担当教員のコメント付きで紹介する「授業資料ガイド」に、「資料／情報の探し方ガイド」「セルフラーニング（セミナーやガイダンス配布資料等）」を加え、総合的パスファインダーとして発展させてきた。本年度は「授業資料ガイド」を 44 件作成（累計 107 件）し、「資料／情報の探し方ガイド」を 1 件新規作成し、9 件更新した。また「セルフラーニング」では、コンテンツの一部を「resource discovery シリーズ」としてテキストブック形式に再編し、動画シリーズ「ひとくち resource discovery」の英語版を作成した。結果として 17 件新規作成し、1 件更新した。

<チャットによるレファレンス>

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で来館が難しい利用者に対するサービスとして、令和 2 年 5 月に、チャットによるオンラインレファレンス（利用案内／参考調査）の受付を開始した。利用者にとっては来館やメール送信による問い合わせよりも敷居が低いと考えられたため、本年度も継続して行った。
- 問い合わせの内容は開館時間の確認、アカウントサービス（貸出期間の延長や予約等）に関するもの、データベースの使い方、文献調査等、多岐にわたった。
- 本年度を含めた 5 年間のチャットによるレファレンス実績は以下のとおり。

(件数)

問い合わせ項目	R3	R4	R5	R6	R7
1. 施設案内	2	4	7	2	14
2. 学内所在調査	8	22	9	10	14
3. 文献調査	28	12	4	9	10
4. 端末関係質問	2	3	0	0	1
5. 図書館サービス案内	153	111	134	94	76
6. その他	15	30	15	18	17
合計	208	182	169	133	132

<広報>

- ・ ガイドンスやイベントの情報はポスター、チラシ、図書館及び大学 Web サイトのお知らせ欄、X 等、さまざまな媒体を通じて広く発信することを心掛けている。
- ・ 平成 27 年度から運用を開始した公式 X では、速報性を重視するとともに、各館のユニークな発信を心掛けている。特に災害による臨時閉館やシステム停止等、速報性が求められる告知において重要なツールとなっている。

<図書館冒険の旅>

図書館の蔵書やデータベースを使うことの有用性を知ってもらうことを目的に、10 月 15 日～11 月 27 日に総合・国際文化学図書館で実施した。検索エンジンを使うだけでは解けない問題をレファレンスブックやデータベース等を使って解答するもので、22 名から解答の提出があった（問題用紙配布は 57 名）。

また、12 月 18 日に模範解答への辿り着き方を説明しつつ、成績上位者を表彰する解説会を開催し、3 名が参加した。アンケート回答には「難易度が高く、解きがいがありました。」「行ったことのない書庫に行けたことが楽しかったです。」など楽しめるイベントだったという感想が届いた。「神戸大学生として使用できるサービスや検索のサイトがこんなにあるのかと気づかされて嬉しかった。このほかにも使い逃しているサービスなどが多いと思うので色々自分から調べていきたい。」という感想もあり、蔵書やデータベースの有用性を知ってもらうことができたと言える。

<英語論文セミナー>

エルゼビア・ジャパン株式会社から講師を招き、学内の若手研究者を対象とした「アクセプトされやすい英語論文とは？～出版社の立場から～」を 6 月 24 日にオンラインで開催した。申込者は 111 名であった。論文投稿の背景とプロセス、適切なジャーナルの選択、論文の構造などの内容について講師が参加者に説明した。終了後に参加者を対象としたアンケートを実施し、27 名から回答を得た。27 名中 22 名が今後の研究に役に立つと答えたことから、英語論文セミナーは若手研究者が英語論文を執筆・投稿する際の一助となったと言える。

◆評価と課題

全学 1 年生の必修科目「情報基礎」は、図書館にとって大学教育に直接的な貢献ができる機会であることに加え、図書館利用者の教育という面でも大きな効果がある。令和 2 年度からオンデマンド型遠隔授業として実施するため動画教材を提供していたが、内容をより分かりやすく伝えるために本年度からワークブック形式の教材に変更した。授業内容を問う「ちからだめし」の正解率は対面授業で実施した年度よりも高く、授業後のアンケートでも、分かりやすかったという回答が多数見られた。

開講から 10 年目を迎えた「初年次セミナー」は、複数の学部から申込が届くことを踏まえると、授業で図書館を活用できることが教員に認知されたと言える。オンデマンド型で実施される「情報基礎」に対し、館内ツアーの依頼が多い「初年次セミナー」は、学生が実際に図書館に足を運び図書館利用法を学ぶ貴重な機会であることから、令和 8 年度以降の「初年次セミナー」と後継科目においても、より多くの授業へ拡充できるよう教員への広報に努めるとともに、実施体制の整備を行う。

令和 4 年度に実施したガイダンスに関する全学アンケートでオンデマンド形式を望む声が多かったことから、図書館主催ガイダンスは、外部講師によるガイダンスを除きオンデマンド型ガイダンスとして実施した。参加者は好きな時間に受講が可能になるとともに、職員も実施時間の検討や会場確保等が必要なくなり業務の効率化につながっている。

オーダーメイドガイダンスは、学科・専修単位で毎年実施している例もあり、専門分野における情報リテラシー教育支援の一例として、今後も継続する意義がある。また、依頼者が所属する学部・研究科のサポート館職員が講師を担当することから、職員のレファレンス・ガイダンススキル向上に資する機会ともなっている。

パスファインダーKULiPの「授業資料ガイド」は、全授業数に占める割合が極めて限られていることから、教員への効果的な広報を検討する必要がある。

開始から 6 年となったチャットによるオンラインレファレンスは、回答を受け取るまでの時間が短く、利用者にとって気軽に利用できる有用なサービスのため、今後も継続する価値がある。

3. 学術研究支援

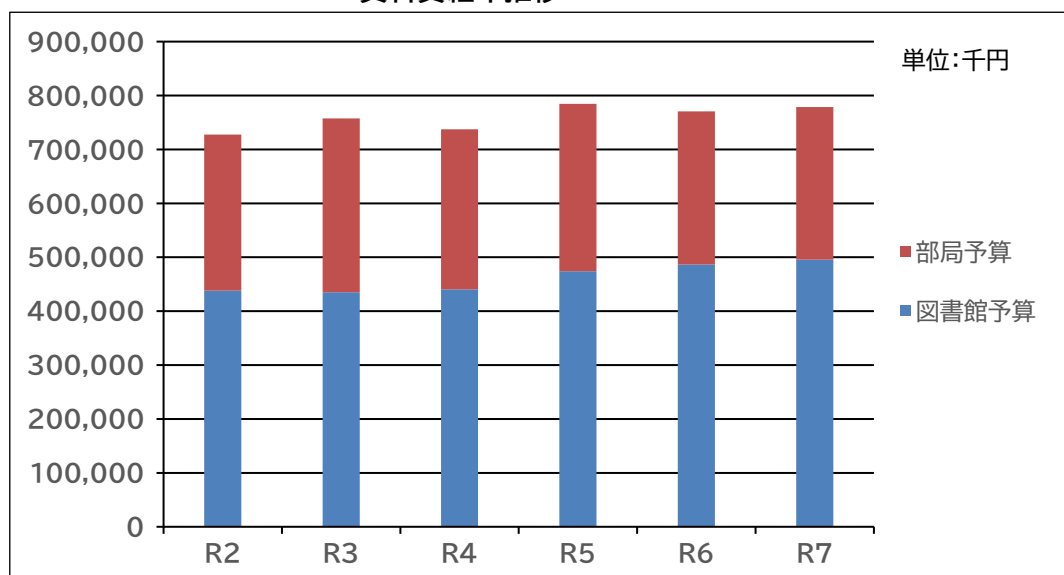
(1) 研究用資料の整備

各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は<付録>基本統計表のとおりである。

<資料受入状況>

- ・ 学生用資料を含む大学全体の資料費は、778,501 千円で前年度から 7,843 千円増となった。
- ・ 図書館予算分（電子ジャーナル・データベース等の提供維持経費「教育研究基盤資料整備費」を含む）は 495,620 千円となり、前年度から 9,043 千円増となった。これは令和 2 年度比で 57,540 千円増加した。また部局予算分は 282,880 千円となり、前年度から 1,200 千円減となり、令和 2 年度比で 6,681 千円減少した。

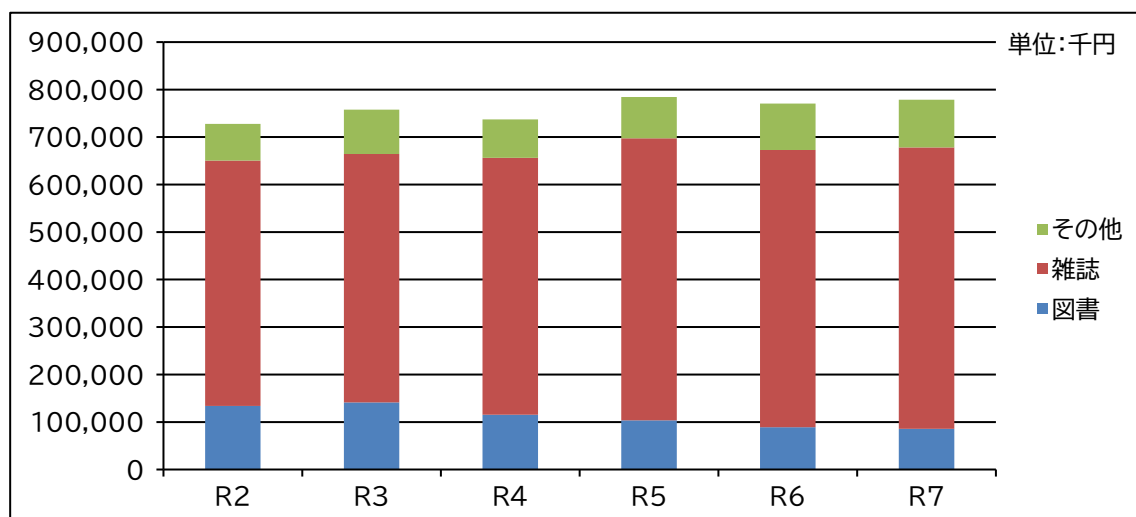
<資料費経年推移>



* 教育研究基盤資料整備費は図書館予算に含む

- ・ 「教育研究基盤資料整備費(電子ジャーナル・データベース等)」は、426,085 千円(決算ベース)が措置され、前年度から 7,127 千円増となった。これは令和 2 年度比で 51,128 千円増加した。
- ・ 学生用資料を含む大学全体の資料の用途別では、令和 2 年度比で図書が 48,334 千円減少し、雑誌(教育研究基盤資料を含む)は 76,209 千円増加した。

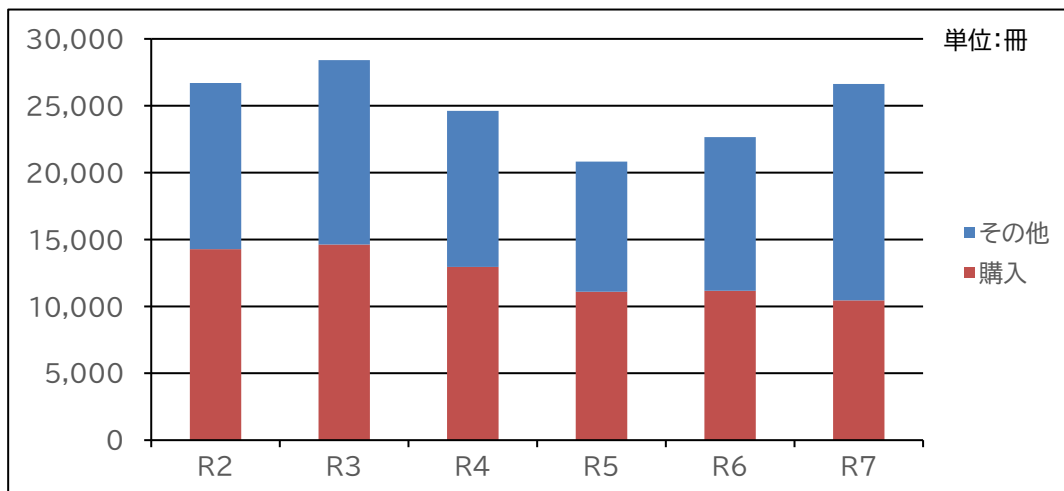
<資料費の用途別内訳推移>



* 電子ジャーナル等は雑誌として計上

- ・ 年間の受入図書冊数(購入)は図書購入費減少の影響を受けて、令和 2 年度比で約 3,800 冊減少した。また製本予算の縮減が影響して以前は年間約 3 万冊以上あった総受入図書冊数は約 2.5 万冊前後で推移している。

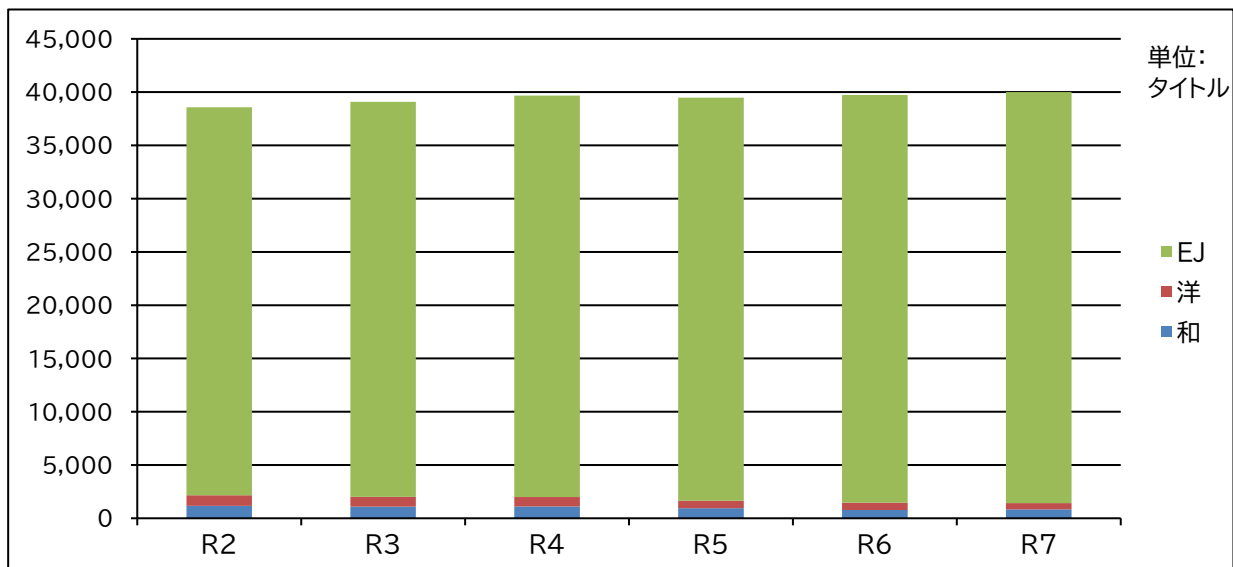
<受入図書冊数経年推移>



*「購入」は一般財源のみ、科研費等は「その他」とした

- 雑誌（冊子）購入タイトル数は 1,425 タイトルとなり、前年度から 49 タイトル減となった。令和 2 年度比で和雑誌は約 29%減、洋雑誌は約 40%減と大きく減少した。一方、電子ジャーナルタイトル数は令和 2 年度比で約 6%増の約 3.9 万タイトルである。

<購入雑誌数経年推移>



<外国雑誌センター館>

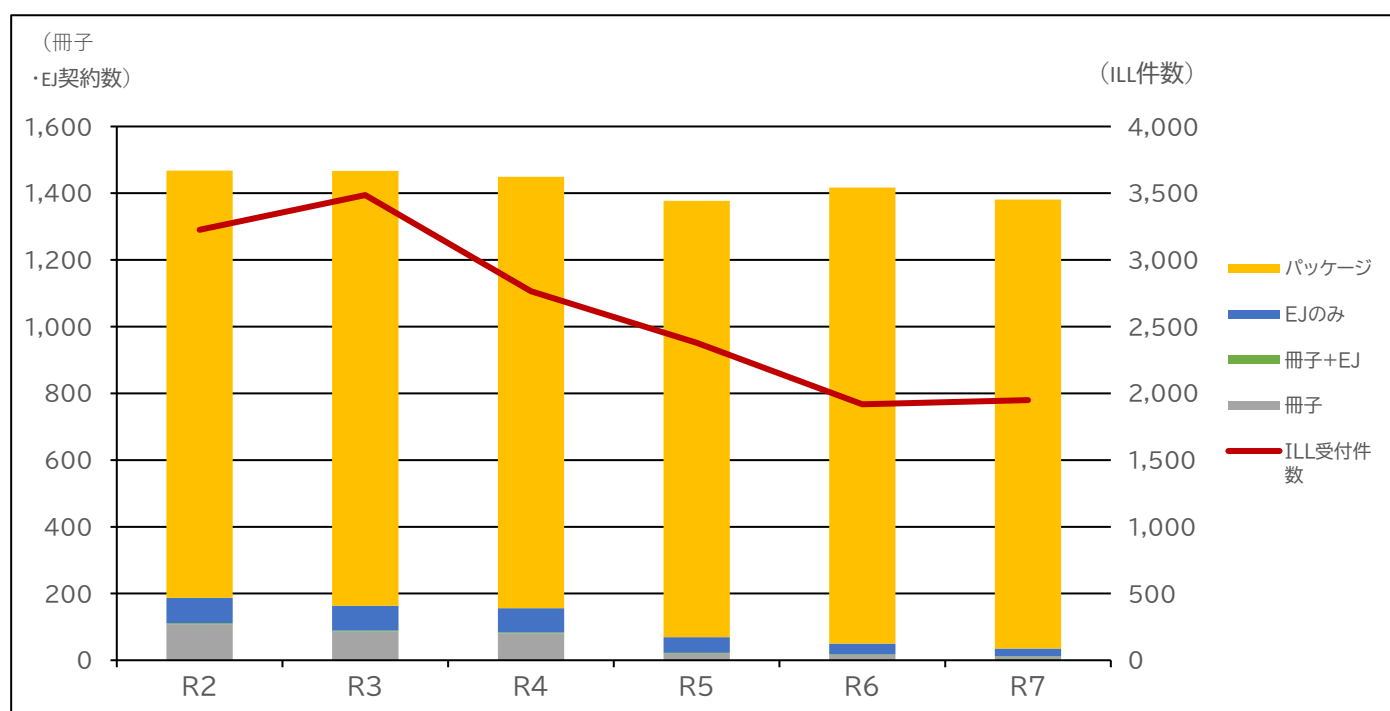
- 昭和 61 年度に社会科学系図書館が外国雑誌センター館の指定を受け、国内において所蔵数が 3 館以下の外国雑誌を体系的に収集し全国共同利用に供している。外国雑誌センター館は全国で分野別に計 9 大学設置されており、人文・社会科学系については一橋大学と神戸大学の 2 大学で分担収集を行っている。
- 平成 20 年度の外国雑誌センター館会議において、従来の冊子に加え電子ジャーナルも収集の対象とすることが確認された。

- ・本年度の外国雑誌センター予算は、附属図書館予算の約1割とし、令和5年度と比較して1,000千円減となっているものの前年度に引き続き24,000千円を確保した。
- ・令和元年度からは、国内で導入実績の少ない電子ジャーナルパッケージ（SAGE, EMERALD, CAIRN）について購読を開始し本年度も維持した。EMERALDについては、令和7年度から契約をCoreに変更した。

		R1(H31)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
SAGE	契約誌数	552	569	559	535	530	545	550
	アクセス数	15,244	14,144	16,862	23,354	20,280	21,215	21,564
EMERALD	契約誌数	212	213	217	208	213	212	174
	アクセス数	9,633	8,924	11,568	12,918	12,836	13,651	10,845
CAIRN	契約誌数	480	499	528	550	565	610	622
	アクセス数	675	529	760	691	624	936	779

- ・ILL 複写サービスについては、他機関からの複写依頼を常時受け付け、迅速な対応により外国雑誌センター館としてのサービス体制を継続している。

<冊子体・EJ 契約数（外国雑誌センター）と ILL 受付件数（社会科学系）の推移>



◆評価と課題

教育研究基盤資料整備費については、令和6年度における図書館運営委員会での検討を踏まえて本年度は前年度の契約規模を維持することとなっていたが、その価格については円安等の影響により総額426,085千円と、前年度から7,127千円増となった。

これまでの経緯としては、次のとおりである。

令和6年5月9日の部局長会議で令和8年度以降の整備方針を見直すことが一旦決定されたものの、一部コンテンツの契約期間の都合から、対象となる年限を1年後ろ倒しし令和9年度分の見直しを行うことが令和7年2月13日の部局長会議において改めて決定された。

令和 6 年度に実施した学内アンケートの結果を基に、附属図書館運営委員会を中心に検討を進め、予算を圧迫している大規模パッケージ契約を PayPerView に変更すること等の方針をまとめ、大学執行部へ提案、協議した。その結果、「令和 9 年度分についてはパッケージ契約を維持し、令和 10 年度分について改めて見直しを検討すること、令和 9 年度分の価格変動分については可能な限り大学で対応するが、今後の財源については都度確認すること」等が確認された。

附属図書館運営経費は、本年度当初予算は 241,119 千円で前年度から 5,741 千円減（2.3%減）となった。附属図書館図書資料費の確保が年々困難となっているが、本年度は前年度から 242 千円減の 67,499 千円の当初予算を確保した。しかしながら、資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約 1 割を目標とし、令和 5 年度から 1,000 千円減となっているものの本年度も 24,000 千円を確保した。近年は予算抑制と円安に対応するため購入タイトルの見直しを進めており、その影響からか ILL 受付件数も減少傾向にあるが、外国雑誌センター館の責務として国立情報学研究所目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）に所蔵情報を提供し全国からの利用にできるだけ対応する体制を維持していきたい。

研究用資料の整備において、特に近年は、電子ジャーナル、データベース等の価格高騰へ対処するための契約見直しや冊子体から電子媒体への切替が進んでいることにより冊子の受入点数が著しく減少しており、そのことが来館利用の減る要因の一つになっているとも言える。今後も物価や雇用単価の上昇等による経費負担が増えると考えられ、引き続き資料費の支出見直しを検討する必要がある。

（２）電子的情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

有料で導入している主な電子ジャーナルは次のとおりである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
ScienceDirect (Elsevier)	多分野	H14	2,280	1995～	R6.4 から転換契約へ移行 フリーダムコレクション
SpringerLINK (Springer Nature)	多分野	H14	2,200	2000～	R5.1 から転換契約へ移行 主要部分は創刊号から
Wiley Online Library (Wiley)	多分野	H14	1,320	1997 前後 ～	発行のほぼ全タイトル（一部は創刊 号から）
JSTOR	多分野	H14	1,580	創刊号～ （最近 3～ 5 年は対象 外）	Arts & Sciences I～IX Life Sciences Business III
Nature 及び関連誌	自然科学	H15	26	創刊号～	
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	1997～	
Cell Press	生命科学	H16	9	1995～	ScienceDirect で利用
LWW via Ovid	医学臨床	H16	15	1996～	パッケージ購読は 2015 年度まで
ACS	化学系	H16	69	創刊号～	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	250	1996～	2014 年時点のほぼ全タイトル（一 部は創刊号から）
Cambridge University Press	多分野	H18	420	1997～	発行のほぼ全タイトル（一部は創刊 号から）

AAS Historical Periodicals Collection	多分野	H29	4,000	1684 ~ 1912	アメリカ古書協会
Academic OneFile	多分野	H30	10,350		
General OneFile	多分野	H30	10,350		
Cairn.info	社会科学 人文科学	H30	620	2001~	フランス語の学術雑誌
Emerald	社会科学	R1	170		R6 から Management Core eJournal Portfolio
SAGE	社会科学 人文科学	R1	570	1999~	PHSS2014

大手 5 社 (Elsevier、Wiley、Springer Nature(Springer Link)、Oxford University Press、Cambridge University Press) については、基本的に各社が発行する電子ジャーナルの多くのタイトルが利用できる電子オンリーの包括利用契約を行っている。

その他、単体で購読しているもの等も加えて、本年度末における電子ジャーナル購読数は 38,586 タイトルとなっており、前年度の規模を維持している。

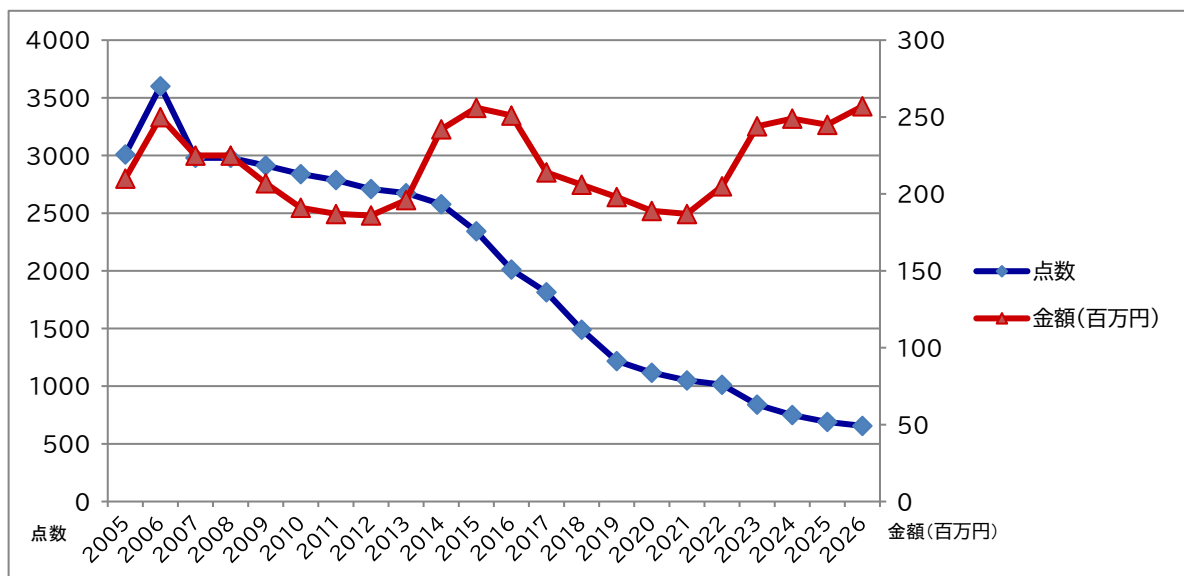
各電子ジャーナルの利用状況は＜付録＞「電子的情報サービスの現況 (R7・2025 年度)」のとおりである。

令和 8 年外国雑誌の契約は、前年と比較して点数は減少しているが、円安の影響により契約金額は増加している。

契約点数 令和 7 年 690 点 → 令和 8 年 656 点 (4.9%減)

契約金額 令和 7 年 約 245 百万円 → 令和 8 年 約 257 百万円 (4.9%増)

＜外国雑誌購読数推移＞



＜データベースの整備＞

導入している主なデータベースは次のとおりである。(すべて Web アクセス)

	分野	導入年	範囲	備考
Web of Science Core Collection	多分野	H15	1900～	H15 SCIE 導入 H21 SSCI, AHCI 追加 H22 バックファイル追加 H29 Citation Connection 追加
Journal Citation Reports	多分野	H17		
MathSciNet	数学	H13	1940～	
CAS SciFinder ⁿ	化学	H16	1840～	R2 SciFinder から移行 利用申請が必要
Readers' Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983～	H18.4 から Web 版に変更 同時アクセス 1
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981～	同上 同時アクセス 1
Business Source Premier	経営学	H22		
PsycINFO	心理学	H22		
PsycARTICLES	心理学	H22		
CINAHL	看護学	H22		
HeinOnline	法学	H22		アクセス制限なし
Lexis+	法学	H22		R2 「Lexis Advance」から 名称変更
Westlaw Next	法学	H22		「Westlaw International」から H28 に名称変更
医学中央雑誌	医学	H5	1983～	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
メディカルオンライン	医学	H22		
官報	官報記事	H18	1947.5～	同時アクセス 1
日経テレコン 21	新聞記事等	H18	1975～	H19.7 から全学利用可 同時アクセス 20
*JapanKnowledge	多分野 (辞典等)	H17		同時アクセス 5 H28 からアクセス数 1 追加
*JDreamIII	科学技術・ 医学・薬学	H19		同時アクセス 2 H25 JDreamII から変更
*朝日新聞クロスサーチ	新聞記事	H12	1879～	R4 年 3 月「聞蔵 II ビジュアル」 から名称変更 同時アクセス 3
*ヨミダス歴史館	新聞記事	H21	1874～	同時アクセス 1
*毎索	新聞記事等	H21	1872～	H23「毎日 News パック」から 名称変更 同時アクセス 2
*ナクソス・ミュージックライブラリー	音楽	H26		同時アクセス 5

※タイトル先頭に*を付したものは「e-study 資料費」により契約している。

※各データベースの利用状況は＜付録＞「電子的情報サービスの現況(R7・2025 年度)」のとおりである。

<電子ブックの整備>

学内で利用できる主な電子ブックは次のとおりである（すべて Web アクセス）。利用可能な総冊数は本年度末時点で約 5 万冊である。

	分野	タイトル数	主な内容
American Mathematical Society	数学	2,500	Memoirs of the American Mathematical Society Contemporary Mathematics
Cambridge University Press	多分野	420	
EBSCO eBooks	多分野	650	
ScienceDirect (Elsevier)	多分野	1,010	レファレンスワーク Handbooks in Economics Methods in Enzymology
Emerald	経営学、経済学	1,200	Business, Management and Economics eBook Series Collection
HeinOnline	法学	12,000	
LWW	医学	150	Doody's Core Collection
Oxford University Press	多分野	850	Oxford Handbooks Online Oxford Reference
Springer Nature	多分野	14,000	Mathematics and Statistics コレクション
Taylor & Francis	多分野	840	Routledge Handbooks Online
Maruzen eBook Library	多分野	3,000	
JKBooks (JapanKnowledge)	国文学、国史	5,600	群書類従(正・続・続々) 鎌倉遺文 新訂増補 国史大系 史料纂集
メディカルオンライン	医学	9,800	

◆評価と課題

電子ジャーナル及びデータベースは研究者（大学院生を含む）にとって必要不可欠な学術情報基盤であり、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約 150 万件と、総体として非常によく利用されている。神戸大学では平成 17 年度及び平成 20 年度に出された 2 つの附属図書館審議会答申に基づき電子リソースに関わる基盤整備を行っている。また、基盤整備に充当する教育研究基盤資料整備の第 4 期中期計画後半（令和 7～9 年度）については、円安や資料の価格高騰により購読費用は増加傾向にあることから、毎年状況に応じて経費削減の取組を行いながら予算を確保することとなった。今後の購読内容の検討は喫緊の課題である。

一方で、一部の出版社から転換契約^{*1}の提案があり、本学では各出版社の提案を精査し、従来の購読契約との比較検討を行っている。そのうち Springer Nature 社については、本学を含む国内 10 大学によるパイロットプロジェクトに参加し、令和 5 年 1 月から転換契約を開始した。Elsevier 社についても令和 6 年 4 月から転換契約を開始している。そのほか部局購読分で転換契約をしているものがある。また、転換契約を含む学術情報流通に関するコスト削減やオープンアクセス (OA) 等の取組を推進するため、令和 6 年 3 月に URA（図書館担当）を採用している。

電子ブックについては、本学においては図書館予算より部局予算による購入が多く、その中でも EBA モデル^{*2}のような利用者の要求を反映した購入を行ってきたところだが、予算の削減や為替レートの変動に伴う価格の変動といった情勢の変化に対応して、より効率的な整備を進めていく必要がある。また、国内出版物の電子版についても一定の利用を得ているところであり、より適切な整備を進めていく必要

がある。

*1 転換契約

購読料を負担するモデルから、論文をオープンアクセスとする出版費用を拠出するモデルへ転換することを目指した契約。Read&Publish 契約とも言い、購読料と OA 出版料の一括契約のこと。

*2 EBA(Evidence Based Acquisition)モデル

出版社の全タイトルもしくは特定のコレクションを対象として有料トライアルを実施し、トライアルの終了後に、利用実績を参考にしてトライアルの金額の範囲内で実際に購入する（恒久アクセス権を取得する）タイトルを選択する契約モデル。

（３）蔵書目録データベースの整備

<目録遡及入力事業>

- 目録遡及入力は平成 4 年度から事業を開始、学内予算措置や外部資金を得て、第 2 期中期計画期間最終年度の平成 27 年度に全蔵書のうち館室配置図書の入力を完了した。その後も第 2 期中期計画の遡及入力事業対象外であった資料群の所蔵データ入力に努めている。
- 本年度計画
本年度は、継続して登録作業を行っている総合・国際文化学図書館所蔵の漢籍等特殊資料のほか、遡及入力計画対象外であった資料のうち製本雑誌について入力を計画した。
- 本年度実績 21,416 冊

研究室戻り等		各館室	3,632 冊
製本雑誌		各館室	15,235 冊
特殊資料	洋古書	人文科学図書館 人間科学図書館	2 冊
	漢籍	人文科学図書館 総合・国際文化学図書館	2,340 冊
	郷土研究資料	人間科学図書館	191 冊
	小林文庫	人文科学図書館	16 冊

◆評価と課題

本年度は計画どおり、総合・国際文化学図書館所蔵の漢籍、各館室の製本雑誌を中心に遡及入力を行った。

本年度末時点で、蔵書数約 372 万冊のうち約 341 万冊の所蔵データが入力済みで、全蔵書の約 90% が OPAC で検索できるようになっている。残る未入力冊数は約 31 万冊である。

今後は専門的知識が必要な和・洋古書、漢籍などの特殊資料は知識の習得、継承を図りつつ入力を進め、一方比較的数量の多い製本雑誌は効率的に入力を行う必要がある。

未登録データの入力により資料の利用促進、利用者へのサービス向上、図書管理業務の効率化が期待される。

（４）資料の保存

＜資料保存における問題と対策＞

- ・ 「資料収容力確保策に関する実務指針」に基づき、各館室で書架狭隘化に対する資料整理・廃棄を行った。
- ・ 製本雑誌の廃棄もしくは共同利用書庫への移管（所属換）の基準を定めた「資料収容力確保策に関する実務指針」及び「製本雑誌廃棄指針等簡略版」に基づき、総合・国際文化学図書館及び人文科学図書館の廃棄雑誌及び移管資料の調査を完了し、移管資料を共同利用書庫へ移管した。なお、共同利用書庫に移管する資料についてはクリーニング処理を行った。
- ・ 本年 10 月 1 日から自然科学系図書館共同利用書庫の運用を開始した。
- ・ 各館室所蔵雑誌の廃棄対象調査として、保存館と電子体存在チェックを同時に行うツールを用意した。
- ・ 医学分館のカビ発生資料について、クリーニング処理を行った。また、海事科学分館では書庫内のカビ除去について、一部分を職員がクリーニング作業を行った。
- ・ 経済経営研究所図書館の新聞記事文庫内の清掃及びカビ資料のクリーニング処理を行った。
- ・ 社会科学系図書館貴重書室の環境整備に努め、出納資料の冷凍処理、定期的な清掃、害虫モニタリング調査を実施した。また温湿度が一定を超えるとアラートメールが来るよう設定した。
- ・ 社会科学系図書館マイクロ室の環境整備に努め、定期的にマイクロ資料の巻き返しを行い、放散及び劣化調査を実施した。劣化しやすい TAC 資料キャビネットを対象に汚染ガス吸着シートを設置、室内風通しの改善とキャビネット上に除湿機を設置した。
- ・ 図書館環境整備 WG が中心となって、マイクロ資料調査報告書を作成し、各館での劣化資料の発見及び別置を始めた。また、各館における貴重書保存環境の整備に努め、害虫モニタリングを実施し、適宜害虫対策を行った。そのほか、各館室における書庫内温湿度の状況把握として、温湿度データの可視化、カビ資料クリーニングマニュアルを作成し、スタッフページにて周知した。
- ・ 資料保存のための環境整備に努めた。主なものは以下のとおり。
 - 総合・国際文化学図書館：除湿機 5 台入替
 - 社会科学系図書館：除湿機 4 台設置
 - 自然科学系図書館：除湿機 1 台設置

◆評価と課題

本年度は更に整理作業を進めるべく総合・国際文化学図書館及び人文科学図書館から自然科学系図書館共同利用書庫への資料移管を行い、書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。また、本年 10 月に共同利用書庫の運用を開始した。今後は、共同利用書庫への製本雑誌の移管作業を人間科学図書館で実施し、さらに図書を含めた附属図書館全体及び各館室における体系的な資料整備を進めていく必要がある。

書庫の除湿機設置と適切な運転でのカビ対策を実施しているが、程度の差はあれどの館室でもカビの被害は発生しており、職員がカビ対策の知識及びクリーニング技術を習得することで、日常的に対応できることが必要である。その点でスタッフページにカビ資料クリーニングマニュアルを用意できたことは、必要な時に職員であればいつでもだれでも確認して作業可能になり、大いに評価できる。大量にカビが発生してしまうとその除去には労力も経費も費やすことになる。突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなど想定外の事態に備えて、なお一層の書庫環境の保全維持、資料保存の適切な環境整備に努めていく必要がある。

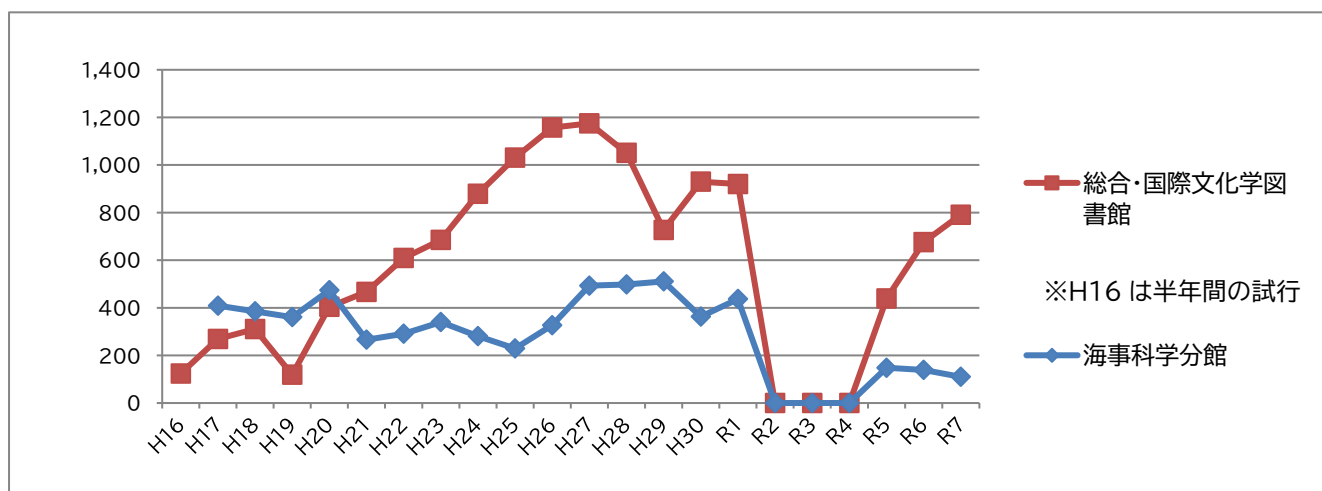
4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

<一般市民の図書館利用>

- 総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを平成17年から実施している。新型コロナウイルス感染拡大防止措置として学外者の入館を令和2年3月から令和5年4月まで原則不可としていたが、学外者の入館と来館貸出を再開した後は、総合・国際文化学図書館のみが回復傾向となっている。本年度の一般市民の利用登録者数は両館合わせて207名、貸出冊数は901冊であった。

<貸出冊数の推移>



<展示会の開催>

・資料展「江戸・上方の本屋さん」

会期 令和7年10月21日(火)～12月22日(月)

会場 社会科学系図書館【2階 展示ホール】

時間 月～金 8:45～20:00 (ただし祝日は休館)
土・日 11:00～17:00

内容 本年度は江戸時代の出版事情と本屋をテーマとし、江戸、京、大坂で活躍した代表的な本屋とそれらが出版した図書を当館所蔵の貴重図書から紹介する資料展を開催した。

- 1) 江戸時代の本屋さんとは
- 2) 京の本屋さん
- 3) 大坂の本屋さん
- 4) 江戸の本屋さん

- 広報送付先は、神戸市内の役所、図書館、関連施設及び灘区、東灘区の中学校と高校とした。また、阪急六甲駅のコミュニティボードにポスターを掲示したことで、直後の週末の見学者が増えた。会期中の10月25日(土)に開催された「神戸大学ホームカミングデー」では学外者55名の来館があり、職員による展示案内と館内案内を実施した。



- ・ 文学部及び人文学研究科の授業で計 25 名の見学を受け入れた。
- ・ アンケート回収数は 79 件（内、会場での回収 53 件、Web で回答 14 件、授業 12 件）で、「よかった」との回答が全体の 96%と高い評価を得た。

<リバイバル展>

阪神・淡路大震災 30 年 あの日の神戸—記憶の継承—

- ・ 前年度開催した資料展「阪神・淡路大震災 30 年 あの日の神戸—記憶の継承—」のリバイバル展（会期：R8,1/7-2/1）及びパネル展（自然科学系図書館 4 月、社会科学系図書館 10 月ホームカミングデイ）を開催した。

<学内巡回展、その他の展示、他組織主催の展示の受入等>

- ・ 海事博物館や人文学研究科と連携した展示企画「神戸大学サテライト巡回展」の一環として、以下のパネル展示を社会科学系図書館展示ホールにて実施した。
海事科学博物館・巡回展「神戸からの船出～近代日本・貨客船の光彩～」を社会科学系図書館展示ホールにて開催（会期：R7,5/1-6/30）。
神戸大学史・巡回展「戦場に行った神戸大学の学生たち—戦後 80 年—」を社会科学系図書館展示ホールにて開催（会期：R8,2/5-3/17）。
- ・ 経営学研究科主催の企画展示「加護野経営学の足跡をたどる～よいことを上手に～」を社会科学系図書館展示ホールにて開催（会期：R8,3/16-4/19）。

◆評価と課題

一般市民への資料の貸出サービス開始以来、総合・国際文化学図書館では平成 19 年度に改修工事の影響で一時的に貸出冊数が落ち込んだものの、その後は増加を続け平成 28 年度からの減少傾向も平成 30 年度から回復の兆しがあった。海事科学分館では平成 21 年度に書庫立ち入り制限の実施により大きく減少しその後はほぼ横這い状態が続いたが、平成 27 年度から増加傾向にあり平成 29 年度は過去最高の貸出冊数となった。このように館室・年度によって増減はあるものの全体として地域社会への貢献活動のひとつとして定着していた。

令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い学外者の入館は原則不可となっていたが、令和 5 年度 5 月に学外者の入館と来館貸出を再開した。両館とも貸出冊数は従前に達していないが総合・国際文化学図書館では回復傾向を示しており、社会に開かれた図書館としての役割を果たしている。海事科学分館については、教育研究支援と地域貢献の機能強化を図る建物改修の実現を目指す中でその役割を検討していく。

資料展については、大河ドラマで取り上げられた蔦屋重三郎の出版した図書など、当館としては初出の貴重書を展示した結果、一般の方々の関心も高く、時宜を得たテーマの設定や展示資料の選定など適切に実施することができた。また、毎年運営に携わっている WG メンバーについては経験値も高く、いままでのノウハウなどを有効に活用しつつ、極力省力化を心がけ、準備を行えた。

アンケートからも貴重書の現物を見ることができてよかった、といった感想が多数寄せられ、当館として社会貢献に寄与するためにも、所蔵資料・古文書・普段は見ることのできない特殊な資料の紹介、また地域の歴史などを紹介する資料展は、有意義であると評価できる。

さらに、学内の他組織主催の展示を図書館で開催したことにより、多様かつ専門性の高い展示内容が実現し、利用者の興味・関心の幅を広げる効果が得られた。

(2) 震災文庫

<資料収集と一般公開>

- 令和7年1月17日で発災30年となる契機を捉え、引き続き本年度も様々なチャンネルからの情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動に努めた。新規に618件の資料を受入、資料所蔵総数は58,300件を超えた。

<震災文庫 所蔵資料数>

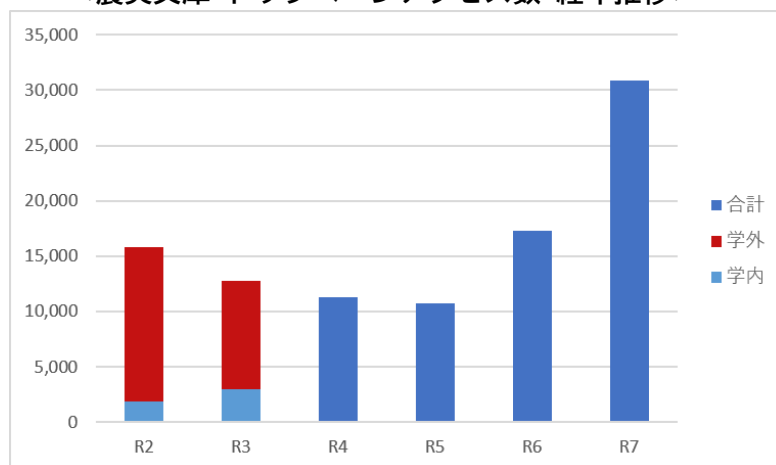
資料形態	全件数	資料形態	全件数
図書資料	9,430	地図資料	203
雑誌資料	17,043	動画資料	1,253
新聞・広報誌資料	8,140	音声資料	267
パンフレット資料	4,118	その他	6,191
一枚ものの資料	3,538		
写真資料	8,162	総合計	58,345

(令和8年3月31日現在)

注) 資料形態の「その他」には、シンポジウムの配布資料、論文要旨などが含まれる。

- 本年度の震災文庫トップページアクセス数は、30,881件であった。

<震災文庫 トップページアクセス数 経年推移>



注) 令和4年9月に行った図書館システム改修に伴い、学内・学外の区別が不可能になった。

- 震災文庫の団体見学者を含まない一般利用者数は301名であった。

<震災文庫デジタルアーカイブ>

- 株式会社サンテレビジョンから提供を受けた阪神・淡路大震災直後の取材映像211件を新たに公開した。うち、インターネットでの公開が適切ではないと判断された映像14件については、震災文庫の室内設置端末限定として公開した。これにより、平成7年1月23日まで（震災発生後1週間）に撮影されたサンテレビジョン提供の全映像の公開が完了した。
- サンテレビジョンの学外公開動画について、過去に公開済みの動画も含めてストリーミング再生に

よる公開に変更した。

- ・ 著作権の許諾が得られて公開したデジタル化資料は 332 件であった(サンテレビジョン提供の取材映像を含む)。データベース全体のデジタル化資料総数は 13,459 件となった。
- ・ 国立国会図書館が運営する「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」とのデータ連携を継続して行っている。また新たに、日本学術振興会が運営する「人文学・社会科学総合データカタログ(JDCat Japan Data Catalog for the Humanities and Social Sciences)」とのデータ連携を開始した。

<震災文庫の活動>

- ・ 令和 5 年 10 月に採択された日本学術振興会の「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」により、震災文庫のデータ拡充にあたる事務補佐員を 1 名雇用している。
- ・ 大学院講義「アーカイブズ情報管理特殊研究」(履修登録者 18 名)で、『「震災文庫デジタルアーカイブ」の紹介』と題した講義を行った。
- ・ 9 件、合計 167 名の見学、ゼミ利用等があった。
- ・ 学術雑誌『情報の科学と技術』76 巻 2 号(令和 8 年 2 月発行)において、「神戸大学附属図書館震災文庫の 30 年と現在の課題」と題した事例報告を発表した。
- ・ 神戸大学附属図書館令和 6 年度資料展「阪神・淡路大震災 30 年 あの日神戸 — 記憶の継承 —」のリバイバル展を実施した。(会期：令和 8 年 1 月 7 日～2 月 1 日)

また、以下の期間、上記資料展のパネル展示を行った。

令和 7 年 6 月 10 日～30 日 自然科学系図書館

令和 7 年 10 月 25 日 社会科学系図書館(神戸大学ホームカミングデイ)

◆評価と課題

サンテレビジョン寄贈の取材映像については、平成 7 年 1 月 23 日までに撮影された分の登録処理が完了し、発災後 1 週間の全映像を公開した。今後も引き続きサンテレビジョン及び本学人文学研究科地域連携センターと協力し、映像の閲覧提供及びデジタルアーカイブでの公開を進めていく。

「人文学・社会科学総合データカタログ(JDCat)」とのデータ連携を開始したことにより、震災文庫の可視化・活用促進をさらに進めることができた。

そのほか、肖像権や個人情報保護等の観点から一般公開が難しい資料の受入・運用について担当の教員と検討を続けている。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

<「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築・運用>

- ・ 同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、本学には平成 10 年度補正予算で措置され、平成 11 年から稼働している。法人化後は電子図書館事業費として学内経費化され、運営を続けている。
- ・ 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公開促進費(平成 11-15 年度 震災デジタルアーカイブに措置、平成 16-23,25,27,28,30 年度、令和 4 年度戦前期新聞経済記事文庫に措置)を充ててきた。
- ・ 令和 4 年 9 月には電子図書館システムのリプレイスを実施した。利用、外部データベースとの連携、維持管理が容易なシステムの構築を目的とし、IIIF や JPCOAR スキーマといった共通規格への対応を行うと同時に、公開方式も統一し「震災文庫」「新聞記事文庫」「貴重書・特殊コレクション」

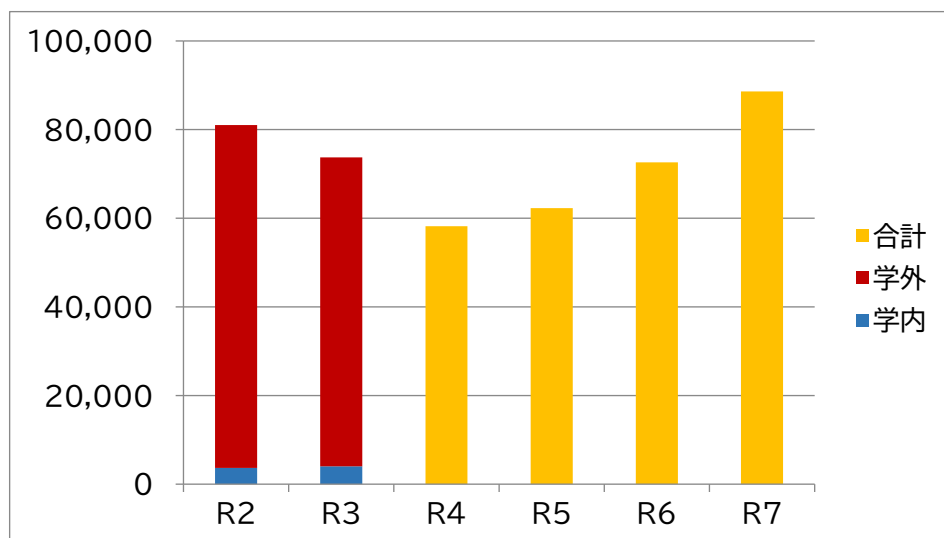
「神戸大学学術成果リポジトリ（Kernel）」の4コレクションとして公開した。あわせて電子化画像の保存用環境も整備した。

- ・ 「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」（実施期間：令和5年10月1日～令和10年3月31日）により、震災文庫、新聞記事文庫、貴重書（郷土資料）の電子化公開の一層の拡充を目指して作業を進めている。上記事業の主眼である人文学・社会科学総合データカタログ（JDCat）との連携のため、本年度はシステム改修を行い、データ連携を行った。
- ・ 従来、地域連携センターとの連携事業として行ってきた大学院生アルバイトによる若林泰氏収集資料（若林家文書）の電子化公開に向けた作業は前年度から引き続き上記「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」の貴重書（郷土資料）チームの事業として実施している。
- ・ コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べたとおりである。
- ・ 平成31年1月から、一部のコレクションの画像については、従来必要だった申請手続を廃して、自由に二次利用可能とした。それ以外の画像について各機関から転載申請が26件あり、許諾回答した。
- ・ 平成24年5月から新聞記事文庫データベースの「活用事例集」として公開してきたWebページでは令和4年度以降、新聞記事文庫に加えてそれ以外のデジタルアーカイブの活用事例も紹介している。

<経済関係資料及び貴重書・稀覯書のデジタル化>

- ・ 新聞記事文庫について、校正の完了したテキストデータ1,404件を附属図書館デジタルアーカイブに追加登録した。
- ・ 神戸大学海事科学振興財団から助成を受け、海事科学分館所蔵の「渋谷文庫」のうち計35点を、資料保存の目的で電子化した（1,086コマ）。
- ・ 住田文庫の画像4件を公開した。
- ・ 若林泰氏収集資料のうち、公開準備の整った3文書232件の画像を公開した。

<新聞記事文庫トップページアクセス数経年推移>



※令和4年度から、図書館システム改修に伴い、学内・学外の区別が不可能になった

◆評価と課題

令和5年度に採択された「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」により、引き続き新聞記事文庫のテキストデータの作成を進めることができた。「若林家文書」の公開も継続してい

る。本年度は JDCat との連携のためのシステム改修を行い、データ連携を開始した。諸々課題はあるものの「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」により、本学デジタルアーカイブの充実が図られており、学内外への情報発信力の向上に寄与していると考えている。

(4) 機関リポジトリによる情報発信

<コンテンツ収集活動>

- 平成 18 年度に稼動を始めた神戸大学学術成果リポジトリ (Kernel) は、比較的順調に成長を続けている。本年度末時点のコンテンツ数は 45,044 件となり、1 年間で 3,770 件増加した。

<機関リポジトリコンテンツ種別件数>

一般雑誌記事	203 (204)	図書	294 (297)
会議発表論文	241 (242)	データセット	5 (6)
紀要論文	23,929 (46,610)	学術雑誌論文	13,615 (14,246)
教材	28 (28)	会議発表用資料	474 (474)
研究報告書	563 (2,715)	テクニカルレポート	897 (1,315)
学位論文	3,763 (12,928)	その他	1,031 (3,285)
講演	1 (1)	合計	45,044 (82,351)

注)括弧内は書誌情報のみ(本文ファイルなし)も含んだデータ数

- 学位規則改正後の平成 25 年 4 月以降に学位授与された博士学位論文は要旨・全文ともに原則としてリポジトリからインターネット公表することとなったため、非公表・公表延期を除く論文を公開した。前年度以前の授与分を対象に、本年度は合計 160 件の本文を公開した。
- 神戸大学研究者紹介システム「KUID」や「Web of Science」より抽出したデータを元に、学内研究者に論文登録照会作業を行い学術雑誌掲載論文の収集に努めた。
- 「オープンサイエンス推進 WG」では、本年度も重点的な取組として、上記「KUID」に登録された論文情報 2,957 件の各ジャーナルの著作権調査を手分けして実施し、公開可能なもののうち 196 件について著者へ登録依頼し、41 件を登録した。下記、Kernel 登録申請システムの運用開始により、今後は researchmap から本システムに取り込んだ論文情報の精度向上のため DOI 補完作業を実施する。
- 令和 5 年度補正予算による「オープンアクセス加速化事業」(令和 6 年 3 月公募開始、令和 6 年 7 月採択機関決定)により開発を行った Kernel 登録申請システムを本年度 9 月末に運用開始した。本年度の利用実績は 74 件 (49 人) である。

<広報・啓発活動>

- COAR Annual Conference 2025 のポスター発表に参加した。
- 新任教職員研修対面研修にて即時 OA 義務化広報のノベルティを配布した。大学院生や非常勤教員等に向けても国際協力共同資料室、B students commons 等、各所で同ノベルティの配布を行った。
- Kernel 登録申請システムの運用開始に際し、Web サイトを公開、あわせて Kernel 紹介リーフレットを更新し、配布を行った。また各研究科等に Kernel 登録申請システムのポスター掲示を依頼しノベルティの配布も行った。
- 学内教員への浸透を図るため、『Kernel 通信』の第 33 号、第 34 号を発行し、オープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報等を掲載してその周知に努めた。
- 登録者へのサービスとして、毎月 1 回ダウンロード数お知らせメールの配信を継続して実施してい

る。

- ・ 博士論文インターネット公表に関する博士課程後期学生向け配布資料（日本語・英語）を、本学の大学院新入生向け Web サイトへ掲載した。

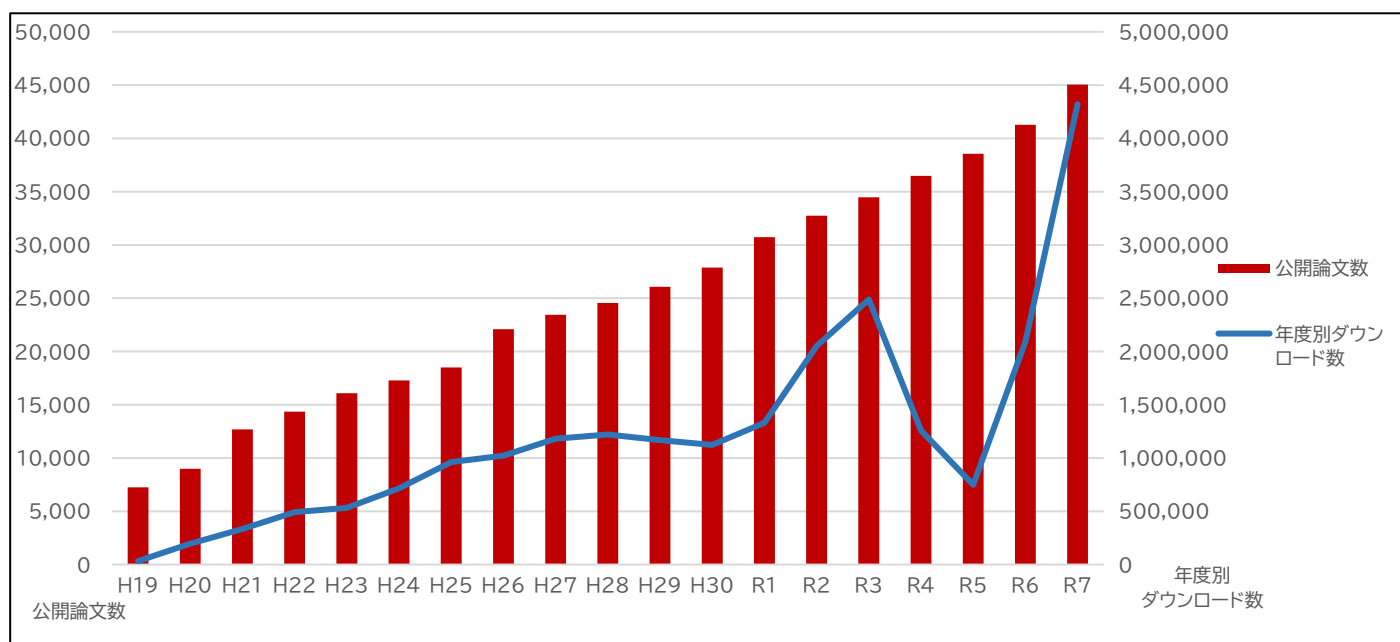
◆評価と課題

前年度採択された「オープンアクセス加速化事業」により開発した Kernel 登録申請システムの運用を本年度開始した。あわせて即時 OA 義務化に関する広報も継続している。今後は Kernel 登録申請システムの利便性向上に向け、検討を行っていきたい。

機関リポジトリでの公開論文数は開設以来、順調に増加している。平成 30 年度以降に図書館内に設置したオープンアクセス推進 WG で論文の公開ポリシー調査を行うことで、リポジトリでの学术论文の公開を着実に進めてきた。オープンアクセス推進 WG は現在、オープンサイエンス推進 WG と名称も変更しているが、今後は Kernel 登録申請システムの利便性向上を目指し、当該システムに取り込まれた論文情報の精度向上のための作業に注力していく予定である。

研究データ管理に関して、令和 7 年 3 月 11 日、本学オープンアクセス推進チームによる「神戸大学研究データ管理・公開ポリシー実施 ガイドライン」が戦略企画室会議承認のもと、学内に周知された。附属図書館における研究データ公開支援は学内関連部署との連携を図りつつ、そのあり方を検討する必要があるものと考えている。

<Kernel 公開論文数及びダウンロード数推移>



※R4.9 図書館システム改修により集計方法変更
R5 年度 web サイトのサイトマップ変更及びクロール可否の設定変更を実施

（５）国際連携

<海外派遣>

- ・ 国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）

令和7年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）の助成を受け、職員1名をドイツ（ハイデルベルク）及びルクセンブルクに派遣した。本派遣では、「日本資料専門家欧州協会第35回年次大会

（EAJRS conference in Heidelberg）」において発表を行うとともに、ルクセンブルクで2機関を訪問し、現地調査を実施した。なお、本調査及び発表は、京都大学、大阪大学の職員と共同で実施した。これは令和5年に締結した3大学図書館の連携協定（京阪神デジタルライブラリー）に基づいた取り組みである。

派遣期間：9月8日～17日

派遣先：ドイツ（ハイデルベルク）、ルクセンブルク

派遣機関：Luxembourg Centre for Contemporary and Digital History

Bibliothèque nationale du Luxembourg

調査テーマ：「デジタルアーカイブの利活用促進に関する調査（2025 EAJRS conference in Heidelberg における発表 及びルクセンブルク大公国での現地調査）」

これらの成果は、館内職員研修に加え、令和7年12月17日に開催された「国立大学図書館協会海外派遣事業セミナー 経験者に聞く海外派遣」（オンライン）、令和8年2月13日に開催された大阪大学職員研修「研究での利活用に向けたデジタルアーカイブの構築・運営：デジタル人文学を中心として」（大阪大学総合図書館ホール及びオンライン）において報告した。また、令和8年6月に開催された国大図協総会における口頭発表及び『大学図書館研究』129巻(2026年)でも報告された。

<その他>

- ・日本古典籍研究国際コンソーシアムへの参加

神戸大学附属図書館として令和3年3月から登録参加している。日本国内に限らず世界の機関・大学・図書館の参加も多く、時間と場所を選ばないWeb形式での活動が中心であり、連絡窓口として職員1名が担当している。

◆評価と課題

本年度は、国立大学図書館協会海外派遣事業に採択され、職員1名を海外に派遣した。職員の海外派遣は、派遣者個人の資質向上とともに、館内に海外での調査・研究・発表の経験やノウハウが蓄積され、次の海外派遣へとつながっている。今後も海外の動向を把握し、次の派遣に備えることが重要である。

海外派遣事業をはじめとする国際連携は、グローバルな視点を持って大学図書館を担っていく職員の育成のために非常に重要である。しかし、その実現には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

5. 管理運営等

（1）図書館組織と運営

<管理運営全般>

令和7年4月から部局長経験者である近藤徳彦教授（人間発達環境学研究科）が附属図書館長の任に当たっている。3名の副館長も本年度から交代しており、副館長及び役割分担は以下のとおりである。

- ・ 清水 泰洋 副館長（経営学研究科教授）：社会科学系図書館、広報担当
- ・ 山崎 祐司 副館長（理学研究科教授）：自然科学系図書館、国際交流担当（令和7年5月～）
- ・ 佐藤 昇 副館長（人文学研究科教授）：評価担当

また、海事科学分館長も本年度から交代、医学分館長は前年度から継続している。

<館内諸会議>

*開催日時、議事内容等は、<付録>附属図書館諸会議 に掲載

① 附属図書館運営委員会

- ・ 本年度は 6 回開催した。2 回をメール回議とし、他 4 回を Web 会議にて開催した。

② 附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 本年度は 5 回開催した。5 回すべて Web 会議にて開催した。

③ 附属図書館評価委員会

- ・ 本年度はメール回議にて 1 回開催した。

④ 附属図書館研究開発室会議

- ・ 本年度は電子化部会をメール回議にて 1 回開催し、令和 7 年度電子図書館事業計画（案）について協議した。
- ・ 電子化部会の震災関係資料小委員会については、サンテレビジョン提供の映像公開における検討において、委員の教員 2 名より助力を得た。また震災文庫での資料の整理について助言・協力を得た。
- ・ 教育研究支援部会の懇談会を Web 会議にて 3 月 11 日に開催し、本年度と令和 8 年度の情報リテラシー教育事業について、室員の教員と意見交換を行い、助言を得た。

⑤ 附属図書館情報サービス課連絡会議

- ・ 令和 2 年度から Web 会議にて定例開催となり、本年度中は計 12 回開催した。

<教育研究基盤資料の見直し>

教育研究基盤資料整備費で整備されている電子ジャーナル及びデータベースは、価格高騰や為替の影響から、現行規模の維持が困難となることが予想されている。そのため、前年度より今後の購読方針について検討を継続している。本年度は令和 9 年購読分について、各部局からの意見を踏まえ運営委員会で慎重に審議を行い、現状を維持するとの結論に至った。今後も令和 10 年購読分に向けた検討を継続する。

<大学文書史料室>

平成 30 年度から学長直下の室として独立したが、事務は引き続き附属図書館が担当している。

<神戸大学出版会>

事務担当部局として出版会運営委員会を対面とメール回議で各 1 回、出版会出版委員会を対面と Web のハイブリッド形式で 2 回、メール回議で 1 回の計 3 回開催した。本年度は新刊書を 6 冊刊行した。

- ・ 内田浩史 編；根本忠宣，槻橋修 著『経済と建築からみたまちづくりと価値：誰のためのまちづくりか（VS Booklet；4）』2025 年 6 月
- ・ 家森信善 編『個人と地域から創る ESG 金融 広域連携による持続可能な社会の実現』2026 年 2 月
- ・ 神戸大学総務部広報課 編『神戸大学☆夢ラボ』2026 年 3 月
- ・ よいところ健診研究会 著『「よいところ健診」で地域を元気に』2026 年 3 月
- ・ 神戸大学専門職大学院 編『MBA 論文の地平 2 2024 年度加護野忠男論文賞受賞作品集』2026 年 3 月
- ・ 神戸大学 V.School 編『D2 Discovering and Designing VALUE 価値の創造を考える 2024』2026 年 3 月

◆評価と課題

附属図書館運営委員会においては、教育研究基盤資料（電子ジャーナル・データベース等）の整備が引き続き重要な課題となっている。所要額の上昇、大学予算の削減等により依然として厳しい状況が続く中、令和 9 年購読分については現状を維持することとした。引き続き令和 10 年購読分を対象に購読方針の検討を継続している。

研究開発室については、電子化部会と教育研究支援部会においてそれぞれ、室員の教員から意見・助言を得ることができ、設置目的のとおり高度な図書館サービスの実現に寄与している。

情報サービス課連絡会議は、各館室の問題や状況を共有することにより、均一のサービス提供や問題点の解決につながっている。

大学文書史料室は平成 30 年度から、学長直下の室として独立したが事務は引き続き附属図書館が担当している。また、神戸大学出版会についても事務を担当し、本年度は新刊書を 6 冊刊行した。

（２）事務組織と人事管理

<図書館事務組織>

- ・ 人事異動は主に 4 月 1 日付、7 月 1 日付の 2 回であったが、その他に期限満了、退職に伴う異動があった。本年度末時点で、附属図書館事務部は 2 課 2 グループ 11 系の定員 47 名、非常勤職員 34 名に URA1 名を加えた 82 名であった。また経済経営研究所図書係は、定員 3 名を配置している。
- ・ 平成 22 年 4 月に設置した大学文書史料室は、本年度末時点で定員 3 名（特命助教 1 名、政策研究職員 1 名・情報サービス課課長補佐兼任 1 名）、非常勤職員 3 名（うち再雇用職員 1 名）を配置している。
- ・ 6 月末まで目録担当専門職員を情報管理課課長補佐が兼任していた。
- ・ 令和 8 年 3 月末時点の職員の配置状況は、以下のとおりであった。なお、巻末付録には令和 8 年 5 月現在の組織図を掲載している。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	1 係	2	4	6
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐・URA 2 グループ 3 係	25	14	39
	自然科学系図書館	サービス課長 サービス課課長補佐 2 係	7	4	11
	人文科学図書館	1 係	3	2	5
	人間科学図書館	1 係	3	3	6
楠地区	医学分館	サービス課課長補佐 1 係	3	4	7
名谷地区	保健科学図書室	1 係	2	1	3
深江地区	海事科学分館	1 グループ 1 係	3	2	5
		計	48	34	82
六甲地区	経済経営研究所図書館	1 係	3	0	3
	大学文書史料室		3	3	6

- ・ 社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、資

料整備グループ受入担当・雑誌担当・目録担当・整備担当は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。

- ・ 電子情報グループ電子図書館担当、同情報システム担当（社会科学系図書館配置）及び情報サービス課の情報リテラシー係（自然科学系図書館配置）は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・ 各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当し、社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館以外は、各館室の整理部門も担当している。

<職員の採用と育成>

- ・ 退職者の補充として、近畿地区国立大学法人等職員採用試験（図書系専門試験）の合格者の中から、4月に1名を定員として採用した。
- ・ 定員2名が「兵庫県下教育機関事務系職員（新規採用者）研修」を受講した。「神戸大学新任職員研修」はオンデマンド形式で開催され、3名が受講した。
- ・ 令和5年度から、国立情報学研究所に定員1名を出向（3年間）させた。
- ・ 附属図書館では、事務系職員の「職員調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。本年度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、その結果を研修計画等に反映した。
- ・ 研修の多くはWebでの開催となっていたが、本年度は対面での研修も増加した。他機関・他団体等の主催する各種研修、主題専門知識の研修に加えて、特にオープンアクセスに関する講演会が多く開催された。職員はこれらの研修に積極的に参加し、スキルアップに努めた。本年度参加の主な研修は次のとおりである。

※参加者：「専門職員」→「係長」、「事務員」→「係員」に統一表記

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	大学図書館職員短期研修(オンライン開催)	京都大学、東京大学、国立情報学研究所	10/28-30	係員 2
	図書館等職員著作権実務講習会(オンデマンド配信、対面開催)	文化庁	9/19-12/26 11/21	係員 1
中堅職員向けの研修	大学図書館職員長期研修(Web、対面開催)	筑波大学	6/30-7/9(Web), 7/16-18(対面)	係長 1
	令和7年度神戸大学主任・中堅職員研修	神戸大学	8/27	係員 1
	大学経営人材育成セミナー	神戸大学	10/10, 10/20, 10/27, 11/12	係長 1
	令和7年度国立大学協会近畿地区支部係長研修	国立大学協会	2/2-3	係長 1
管理職向けの研修	神戸大学管理監督者(課長・課長補佐相当)研修	神戸大学	7/11, 16	課長 1、 課長補佐 1
	幹部職員セミナー	神戸大学	7/17	課長 2、

				課長補佐 1、係長 1
	面接官研修	神戸大学	10/8	部長、 課長 2
	幹部職員セミナー	神戸大学	12/18	課長 2
	トップマネジメントセミナー	神戸大学	1/15	課長 2
個別業務の専門的知識のための研修	公文書管理研修 I	国立公文書館	5/23	補佐員 1
	漢籍整理長期研修	東京大学	6/2-6, 9/1-5	係員 1
	第 42 回西洋社会科学古典資料講習会	一橋大学	6/23-25	係員 1
	第 9 回 JMLA コア研修	日本医学図書館協会	8/1-9/21	係員 1
	アーカイブ研修 I	国立公文書館	8/18-22	係員 1
	漢籍担当職員講習会	京都大学	9/8-12(初級) 10/27- 10/31(中級)	係員 1
	2025 年度目録システム書誌作成研修	NII	9/18-19, 11/28	係員 1
	令和 7 年度アジア資料書誌作成セミナーービルマ語・初級編	国立国会図書館	10/22	係長 1、 係員 2
	令和 7 年度レファレンスサービス研修「科学技術情報の調べ方ー基礎編ー」	国立国会図書館	11/5	係長 1
	令和 7 年度レファレンスサービス研修「人文情報の調べ方ー応用編ー」	国立国会図書館	2/6	係員 2
	アーカイブ研修 II	国立公文書館	2/5-6	係員 1
	第 1 回多言語目録勉強会	図書館システム・ネットワーク ユーザーグループ	2/17	係長 1、 係員 2
その他の講演会・研修会等	・セミナー「マイクロフィルム、今やるべきこと」 ・学術情報流通に関する連続セミナー第 8 回「科学技術政策の中のオープンアクセス: 遥かなる EBPM への道」 ・NII オープンフォーラム 2025 ・(Japan Open Science Summit 2025)「AI×文学研究の	文部科学省、国立国会図書館、国立情報学研究所、日本医学図書館協会、国立大学図書館協会、JPCOAR、JUSTICE、兵		管理職を含 めのべ 68

	可能性を探る」 ・国立大学図書館協会システム委員会 勉強会企画「生成 AI との向き合い方」 ・神戸大学スキルアップ研修「未来洞察・アイデアソン(デザイン思考)職員研修」 ・(神戸大学)DX ハンズオンイベント【業務に役立つ!「M365 で申請受付・申請リスト作成を自動化!」】 ・【NII】大学図書館員のための IT 総合研修 ・ハラスメント相談員研修会 ・ハラスメント防止対策研修会 ・人事評価に係る研修会(評価者対象) ・人文学のためのオープンサイエンス:ドイツでの体験から ・(神戸大学)第一種衛生管理者試験受験準備講習会 ・JUSTICE2025 年度版元提案説明会 ・JMLA_JPLA コンソーシアム説明会 ・DX 人材育成事業に係る DX リテラシー研修 ・兵庫県大学図書館協議会施設見学会「箕面市立船場図書館(大阪大学外国学図書館)」 ・みんなでおさらい COAR2025 第 3 回「一発でまるわかり、世界のオープンアクセスの状況」 ・第 5 回みらコミュ勉強会「研究の未来を拓く! オープンアクセス・オープンサイエンスの展望」 ・(神戸大学)多様な働き方推進研修「時短勤務者研修」 ・図書館総合展 ・(神戸大学)救急講習会 ・(神戸大学)第 17 回 DX プレイグラウンド AI エージェントの夜明け ・(神戸大学)令和 7 年度アプリケーションソフトウェア研修 ・令和 7 年度国立大学図書館協会	兵庫県大学図書館協議会、研究大学コンソーシアム、図書館総合展運営委員会、ニチマイ、早稲田大学アカデミックソリューション、東京大学、新潟大学、京都大学、大阪大学、国際日本文化研究センター、広島大学、神戸大学		
--	--	---	--	--

	地区協会助成事業「貴重資料オープンアクセス促進化ワークショップ」 ・国立国会図書館「障害者サービス担当職員向け講座」 ・令和 7 年度 SMBC ビジネスセミナー定額制クラブ・定額制 Web セミナー ・2025 年度大学業務ソリューションセミナー ・令和 7 年度 第 9 回 JMLA 学術集会《午後の部》CE コース ・令和 7 年度国立大学図書館協会助成事業(中国四国地区)「大学図書館と防災(資料の災害対策編)」 ・資料委員会セミナー「研究活動における生成 AI ツールの活用」 ・令和 7 年度国立大学図書館協会シンポジウム ・国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業「きみが大学図書館を変えてみないか」懇話会「多様な視点で考える図書系職員のこれから」 ・「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会(第 12 回) ・Charleston Conference Asia 2026 参加報告会 ・国立大学図書館協会地区助成事業(関東甲信越地区)研修会「生成 AI 時代の図書館職員の学び方」 ・第 15 回被災地図書館情報交換会			
--	---	--	--	--

<業務の改善と効率化・合理化>

① 業務の標準化・合理化

係横断的なワーキンググループ（以下 WG）を組織し、業務の合理化及び質的向上を図った。本年度は、総合図書館資料選定委員会（選書 WG）・情報リテラシー教育支援 WG・図書館アウトリーチ WG・業務改善 WG・展示 WG・オープンサイエンス推進 WG・図書館環境整備 WG・将来構想検討 WG が活動した。前年度は別々の WG であったオープンアクセス推進 WG とオープンサイエンス検討 WG を統合し、オープンサイエンス推進 WG とした。また、令和 8 年度までとなっている「神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について」を見直し、令和 9 年度以降の新たな方針を検討するための WG を新設した。

② アウトソーシング

図書装備付納品、電子化コンテンツの作成業務、資産点検業務のアウトソーシングを実施した。図書装備付納品については、資料の強度を保つ点では効果があることから、社会科学系図書館の

シラバス図書のみ装備付きを行っている。

③ 業務改善の検討

前年度に続き附属図書館内での事業として、WG を中心に図書館事務部全体で業務改善に取り組んだ。係や個人からの提案の内容を精査し、前年度からの継続事項は3件が完了、5件は継続となり、本年度の提案事項27件は20件完了し7件継続となった。特に、カウンターでの現金徴収をキャッシュレス化したことで、時間外での複写物等の引き渡しが可能となったうえ、現金徴収に関わる業務を省力化することができ、サービスの向上及び業務の効率化が可能となった。また、時間外開館要員の学生アルバイトとの連絡手段について、情報サービス課全体で Teams を導入し、シフト作成から交代時の連絡、他館室への照会など一元的に行うことが可能となった。アルバイト学生本人にとっても個別のシフト表を確認でき、勤務日の事前お知らせも受取ることができるため、勤務日忘れを防ぐことが可能となり、サービス係の負担軽減につながる事が期待できる。そのほか、不用予定図書の研究室貸出希望照会を全学的に実施し貸出を行ったことで、資産の有効活用を図ることができた。

◆評価と課題

本年度も研修及び講演会はハイブリッドまたはオンライン開催が主流となった。場所・時間の制約なく参加できるという利点から、職員は幅広く学内外の研修を受講した。本年度はオープンアクセスに加え、生成 AI をテーマとした講演会が多く開催され、積極的に参加した。また、対面での参加が必要な専門主題に関わる研修を中心に、職員の派遣を実施した。今後も厳しい予算状況ではあるが、対面研修とオンライン研修を適切に組み合わせ、職員のスキルアップを図っていきたい。なお、研修の報告は全職員に共有することで、組織全体の能力向上に役立てている。

ワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。図書館環境整備WGについては、引き続き各図書館の環境整備に取り組みつつ、深江キャンパスや他のキャンパスでの改修計画の動向に注視する必要がある。

業務改善については、特にキャッシュレス決済の導入や時間外開館要員の学生アルバイトへの連絡手段に Teams を導入したことはサービス向上及び業務の効率化に大きく貢献している。今後も、継続検討となった課題に新規事項も加え、DX による業務の効率化も視野に入れながら、引き続き取り組んでいく。

(3) 予算及び財務会計業務

<本年度附属図書館予算・決算>

① 既定経費（経常運営費・経常事業費）等

- ・ 経常運営費は当初予算配分 152,808 千円、途中追加配分により 4,706 千円を加えた結果、最終配分総額 157,514 千円、決算額 153,406 千円であった。前年度の当初予算配分 155,660 千円より 2,852 千円減少、追加配分が多かったことから前年度決算額 151,988 千円より微増となった（当初予算額 R6 予算比 2,852 千円 1.8%減、決算額 R6 決算比 1,418 千円 0.9%増）。
- ・ 経常事業費は当初予算配分 84,274 千円、SciFinder 及び OA 出版受益者負担額等 21,130 千円を加えた結果、最終配分総額 105,404 千円、決算額 104,932 千円であった。前年度の当初予算配分 85,277 千円より減額となったが、追加配分が多かったため前年度決算額 101,176 千円より増額となった（当初予算額 R6 予算比 1,003 千円 1.2%減、決算額 R6 決算比 3,756 千円 3.7%増）。
- ・ 学生用資料費については、前年度と同様、運営費交付金のミッション実現加速化係数（1.6%）の減額を適用、2年分の平均 39,045 千円に外部資金であるネーミングライツ料の 1/4 を充て、総額

39,345 千円とした。SciFinder 分 (5,630 千円) を除いた決算額は 39,342 千円となった。

- ・ 附属図書館長裁量経費から、什器類の購入として 1,152 千円、書籍用タグ 3,485 千円、Ebooks 2,532 千円、総合・国際文化学図書館における机上ライト取替工事 878 千円、総合・国際文化学図書館、人文科学図書館、海事科学分館における図書クリーニング業務 5,720 千円、転換契約に伴う追加料金として 2,399 千円を執行した。
- ・ 各部局が施設面積に応じて負担している建物老朽化対策経費 4,337 千円が差引かれているが、収入確保インセンティブ経費より繰入れ充当している。
- ・ 以上の既定経費（経常運営費と経常事業費）の当初予算配分は 237,082 千円で、前年度の当初予算配分 240,937 千円より 3,855 千円 1.6%減であった。大学文書史料室及び神戸大学出版会の運営経費と年度中の複写料収入を含む収入確保インセンティブ経費等の繰入を加えた既定経費の予算総額は 270,765 千円、決算総額は 267,513 千円となり、予算残額は 3,252 千円となった。

② 臨時的経費

- ・ 教育研究基盤資料整備費として確保した 426,084 千円をもって、外国雑誌を含む電子ジャーナル・データベースの維持及び整備を実施した。
- ・ 図書館時間外開館経費として確保した 13,547 千円をもって、全館室（経済経営研究所図書館を除く）の時間外開館を実施した。
- ・ 図書館ウェブサイトリニューアル費として確保した 4,150 千円をもって、図書館ウェブサイトのリニューアルを行い、本年度中に納品された。
- ・ 学内予算措置による電動集密書架の手動への改修工事（33,075 千円）を、人文科学図書館にて実施した。
- ・ 施設部営繕事業として人文科学図書館の便所改修工事（398 千円）を実施、施設部目的積立金での長寿命化事業として社会科学系図書館の空調設備改修工事（1,636 千円）を実施、また建物老朽化対策経費にて社会科学系図書館玄関庇防水補修工事（627 千円）、災害復旧・施設整備にて社会科学系図書館火災報知設備改修工事（5,558 千円）、建物等修繕として社会科学系図書館空調設備改修工事（3,300 千円）を実施した。施設整備費補助金にて受変電設備改修工事（2,539 千円）と施設費交付金にてエレベーター工事と便所給水管工事（3,677 千円）を人間科学図書館にて実施した。

③ その他の経費

- ・ 令和 7 年 6 月までの契約期間であった海事科学分館 JRC Biblio のネーミングライツについて、1 年間継続することでネーミングライツパートナーである日本無線の了承を得られたことから、引き続き契約することとなった。社会科学系図書館 1 階「SynergyMarketing 101 Studio」のネーミングライツ料とあわせて年間 240 万円（税抜）の収入があり、50%が図書館への配分となる。
- ・ 電子ジャーナルの契約では、2 社との転換契約を継続し、当該 2 社の OA 出版を希望する場合は、著者から図書館に一定額を負担してもらうことで、著者が高額な APC を支払うことなく OA 出版することが可能となっている。本年度は著者負担額として 14,200 千円の振替があった。
- ・ 収入確保インセンティブ経費は、複写機使用料を含めた ILL 等収入及びネーミングライツ契約による収入、その他雑収入である。
- ・ 令和 5 年度から令和 9 年度までの 5 年間実施する「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業委託業務」については、本年度 18,955 千円の配分があり、「新聞記事文庫」などの経済関係資料や震災文庫、貴重書などのデジタル化を推進し図書館 HP で公開した。
- ・ 学術情報流通活性化経費として 9,850 千円が配分され、URA1 名の雇用を継続した。

<図書資産の管理>

① 図書資産点検

- ・本年度の資産点検は、社会科学系図書館で実施し、点検総冊数は 179,020 冊となり、アウトソーシングの契約により実施した。

② 不明資料の追跡調査

- ・令和 4 年度～前年度資産点検時から不明となっている資料について、追跡調査を実施した。
(資産点検時不明資料 3,553 点、追跡調査による発見資料 2,576 点、追跡調査後不明資料 977 点)

③ 不用決定

- ・不明後 3 年以上経過している資料(令和 3 年度資産点検時からの不明資料)を不用決定した。
(453 点、資産価格 1,540,652 円)
- ・令和 3 年度以前に退職等により離籍した教員の研究室不明図書を不明後 3 年以上経過している資料として不用決定した。(1,140 点、資産価格 4,856,108 円)
- ・重複資料やオンラインで利用可能となった資料等を不用決定した。(47,530 点、資産価格 210,921,644 円)

◆評価と課題

本年度の当初予算配分額は、前年度より 3,855 千円減額の 237,082 千円となり、既定経費だけでは図書館の運営は厳しい状況である。

時間外開館の実施においては、既定経費の減少により、本年度も令和元年度以前の実施規模の維持が困難であったことから、学内予算要求を行い、13,547 千円の予算措置を受けた。図書館配分の 10,000 千円とあわせて、経済経営研究所図書館を除く全館室にて、時間外開館を実施した。また、利用の多い自然科学系図書館の授業期、試験期の日曜開館を復活、さらにほかの館においても試験期の時間外開館の延長など、予算確保が難しいなかで、適正な開館時間を模索している。しかし、附属図書館利用細則とは違った臨時的運用が続いていることから、今後も図書館の既定経費で時間外開館を維持することは難しく、予算確保が課題である。

また、学生用資料費についても、資料費以外での経費節減が難しくなっていることから、前年度より 1.6%の削減を行っている。

なお、外部資金としては、ネーミングライツ 2 社、「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業委託業務」、学術情報流通活性化経費などを得ることができた。

今後もネーミングライツをはじめ外部資金の獲得にも注力しつつ、限られた規模の予算を適切に執行していく必要がある。

(4) 施設整備・システム整備

<各館室の施設整備・設備更新>

- ・本年度における主な事項は、以下のとおりである。

総合・国際文化学図書館	自動貸出返却装置 2 台、除湿機 5 台、キャレル照明 LED 化(53 台)、椅子貼替
社会科学系図書館	自動貸出返却装置 1 台、マイクロ室除湿機 4 台、本館 1F 及び管理棟 2F 雑誌閲覧室照明 LED 化、ワークブース、閲覧テーブル、閲覧椅子貼替、会議用マイクシステム、開架図書室空調設備更新(一部)
自然科学系図書館	除湿機 1 台、会議用マイクシステム、LC 用什器(3F)
人文科学図書館	電動式移動棚改修(手動化)、複柱式書架、ハンドル式集密書架増設、B1F

	内線増設
人間科学図書館	AV ブース改造(椅子貼替等含む)、壁掛扇風機設置、防犯カメラ用録画装置更新、書庫照明 LED 化(一部)
医学分館	自動貸出返却装置 1 台、無人開館システム管理ソフトウェアバージョンアップ(Windows11 対応)
海事分館	閲覧室網戸更新

<安全点検>

- ・ 附属図書館安全衛生会議を、構成単位である社会科学系図書館と自然科学系図書館と大学文書史料室の 3 館室のみならず、附属図書館全体の安全衛生事項の周知・報告の場として運用しており、本年度はメール回議にて 3 回開催した。
- ・ 安全衛生活動計画を策定し、週 1 回の衛生管理者による巡視を実施した。また、年 1 回図書館独自の自衛消防・防災訓練の実施を計画し、全館室で実施した。
- ・ 火元責任者による防火防災の自主点検を実施した。

<情報機器の更新>

- ・ 利用者用 PC 等の設置台数は次のとおりである。なお、貸出用 PC は 2025 年 4 月末で廃止した。

	総国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
PC 台数	8	14	4	11	7	1	3	3	3	54
蔵書検索用端末等(*1)	(8)	(11)	(4)	(5)	(6)	(1)	(3)	(3)	(2)	(43)
スタンドアロン	(0)	(3)	(0)	(6)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(11)
ノート	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
無線LANAP(*2)	7	18	13	3	3	0	4	5	5	58

注) (*1)「図書館向けデジタル化資料送信サービス」「歴史的音源(れきおん)配信サービス」に対応する端末を含む

(*2) 附属図書館内に情報基盤センターが設置

<システム整備>

- ・ 令和 4 年 9 月に更新した図書館システムについて、機能改善や問題点の解消を随時行ったほか、「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」により機関リポジトリへの外部ハーベスタとの連携強化機能追加を行った。(詳細は「4 (3) 電子図書館システムによる情報発信」参照)
- ・ 業務用 PC について、使用年数が長い機器を優先に機器更新を実施した。
- ・ 次期キャンパス情報ネットワークシステム (KHAN2025) への更新に順次対応した。
- ・ 学内予算措置により総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、医学分館の自動貸出装置計 4 台の更新を行った。

<自動貸出返却装置等>

- ・ 自動貸出返却装置等の設置場所は次のとおりである。

自動貸出返却装置	全館室(研究所を除く)
入退館管理システム	全館室(研究所を除く)
BDS(無断持出防止装置)	全館室(研究所を除く)
24 時間入退館管理システム	医学分館
セルフ式コピー機(コイン式等)	全館室

◆評価と課題

書庫内環境整備の一環として、総合・国際文化学図書館と自然科学系図書館の各書庫内及び社会科学系図書館マイクロ室の除湿機を計 10 台更新した。

空調機については、本年度は社会科学系図書館開架図書室において修理を行ったが、夏季の高温多湿に機器の老朽化も相まって常に故障の懸念があるため更新の必要性は高く、厳しい予算状況が続く中、限られた範囲で適切に対応するとともに、施設部や大学執行部等に予算措置の必要性を引き続きアピールしていく必要がある。

令和 4 年度までに、人文科学図書館・総合・国際文化学図書館・社会科学系図書館・保健科学図書室に、学修支援機能の強化を目的としたラーニングコモンズ（LC）設置。令和 5 年度には自然科学系図書館に、LC に加え、資料収容力強化を目的とした共同利用書庫の増設を果たした。共創スペースとして設置した 4 階のイノベーションスタジオ、コラボレーションルーム（3 室）では、大学プロジェクト等での利用数が 44 件にのぼり、共創スペースとしての役割を果たしている。また、3 階のオンラインポッド（個室・6 室）、サイレントスペースは常に高い利用率となっており改修の効果が顕著になっている。3 階 LC の座席もおおむね満席なことが多いことから学修に適した什器増設を行い、より学修環境が向上したと言える。自然科学系図書館で特に利用要望の多いオンラインポッドについては、社会科学系図書館にも本年度に 1 台を新設し、令和 8 年度から運用を開始する予定であり、利用者の需要に応じた環境整備を推進するものである。

海事科学分館建物の改修については、教育研究支援と地域貢献の機能強化を図ることを目指して、令和 5 年度に令和 6 年度概算要求を行ったが不採択となり、仕切り直しの状況である。本年度は、令和 8 年度以降の概算要求を睨んで施設部と打合せを実施し、その結果も踏まえて、改修により書庫面積が減少することも想定して算出した必要面積も併記したフロアの構成案を含む、改修の要点と要求の素案を作成して提示した。今後も深江キャンパス全体の改修のマスタープランの動向を踏まえて、施設部、海事科学研究科とも意見交換を行いつつ、除籍等で不用な図書の整理を引き続き進めて、準備していく。

医学分館においては、図書館を含む管理棟の建物が数年後には改修可能な築年数を迎えるためいずれ施設改修実施となる可能性があり、その場合は医学分館も改修工事を実施することになるため、動向に留意する。なお医学研究科が設置した LC が前年度のはじめに供用を開始しており、医学分館の学修環境の整備計画を策定する際には、楠地区全体の学修環境を考慮する必要がある。

なお、各館室改修等の進め方については、『神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について』において、その指針を示している。

図書館システムは令和 4 年 9 月のリプレイス以降概ね問題なく稼働しており、今後もシステムの安定した運用の維持と、改善を要する点への対応が課題である。令和 8 年度以降は、令和 10 年度に予定する次期図書館システム更新に向けた検討及び対応を行う。また、本年度から対応中のキャンパス情報ネットワークシステム（KHAN2025）への更新、令和 8 年度中に予定されている次期会計業務システムへの更新について、円滑に移行できるよう引き続き対応する。

図書館ウェブサイトについては、実施に係る予算要求が採択され学内予算措置されたことに伴い、9 年ぶりとなるリニューアルを令和 8 年度に予定している。実体としての図書館と共に、デジタルコンテンツ等のリモートサービスは、図書館機能の両輪の一方とも言えるものであり、また、図書館ウェブサイトは大学の DX の一部を担う情報発信元であると位置づけ、アクセシビリティの改善・向上を図る。

（５）図書館界での諸活動

<国立大学図書館協会>

- ・ 資料委員会作業部会に、職員 1 名が参加した。
- ・ 京都大学・大阪大学・神戸大学が主担当で実施する国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業「き

みが大学図書館を変えてみないか」(通称：キダカミ)に職員3名がワーキングメンバーとして参加した。

- ・ 地区協会助成事業WGに、職員1名が参加した。

<オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)>

- ・ 職員1名が作業部会員を務めた。

<兵庫県大学図書館協議会>

- ・ 引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
- ・ 7月25日に第124回総会をオンライン形式にて開催し、30機関41名が参加した。令和8年度の会費免除が承認され、「兵庫県大学図書館協議会における研修会等の実施について(申し合わせ)」の改定について報告があった。また、中学生・高校生への支援について、事例報告と質疑応答を行った。
- ・ 9月17日に箕面市立船場図書館(大阪大学外国学図書館)で実施された施設見学会に館内から6名が参加した。
- ・ 今後の事業について、2月4日～2月20日の期間で加盟館にアンケート調査を行った。

<研修等への講師・発表者の派遣>

- ・ 他機関、団体が開催する研修や講習会に、本年度は次のとおり職員を講師・担当者等として派遣した。

研修名	主催	会場	日程	講師等
COAR Annual Conference 2025	JPCOAR	一橋講堂	5/12-14	オープンサイエンス推進WGメンバー
【国大図協・資料委員会】 第1回ペパリオバトル	国立大学図書館協会 資料委員会	オンライン	6/6	情報システム担当係長
海外派遣セミナー 「経験者に聞く海外派遣」	国立大学図書館協会 人材委員会	オンライン	12/17	情報システム担当係員
【国大図協・資料委員会】 第2回ペパリオバトル	国立大学図書館協会 資料委員会	オンライン	2/17	社会科学系情報サービス係員
令和7年度大阪大学職員研修「研究での利活用に向けたデジタルアーカイブの構築・運営：デジタル人文学を中心として」	大阪大学	大阪大学	2/13	情報システム担当係員

<その他>

- ・ 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。

◆評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動において、会員館間の連携と協力を図ることに努めている。また、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進している。

他機関が開催する研修事業に講師や担当者等を積極的に派遣することは、図書館諸団体の活動・運営に寄与するのみならず、参加する職員の資質向上につながるものであり、大いに評価できる。今後も推

進が期待される。

令和7年度 神戸大学附属図書館年次報告

<付録>

神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について	付録1
KU VISION 2030	付録2
達成度評価	
令和7年度事業年度に係る業務の実績（第4期中期目標）	付録3
数値結果実績（第3期～第4期）	付録4
達成度評価の根拠資料	付録5
附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果	
附属図書館に関する自己点検・評価結果、 及びそれを踏まえた対応措置	付録6
基本統計表	
蔵書・受入等の現況（各館室別）	付録7
サービス業務の現況（各館室別）	付録8
電子的情報サービスの現況	付録9
図書館組織図・事務組織図	付録10
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	付録11
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	付録12
附属図書館活動日誌	付録13

神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について
(平成 29 年 11 月 8 日～令和 9 年 3 月 31 日)

趣旨

神戸大学附属図書館は、神戸大学の使命に基づき、世界トップクラスの教育・研究活動を将来にわたって支える学術情報基盤としての役割を担うとともに、人類の知の発展を導く卓越した研究成果を世界に発信する拠点となることを理念として掲げ、学内外にサービスを提供してきた。しかし、法人化後 3 度目の中期目標期間を迎えて、大学をとりまく環境は大きく変容し、大学図書館の果たすべき役割も、大学の基本機能としての従来の在り方に加えて、教育・研究支援組織としての新たな方向性が求められている。本方針は、今後 10 年を視野に置き、図書館機能の強化と革新のために用いるものとして定める。

1. 知を創出する「場」の提供

(1-1) アクティブラーニング等新しい学習スタイルに対応した環境の整備

神戸大学ラーニングコモンズ (LC) 検討ワーキンググループ報告書の構想に基づき、附属図書館のうち 4 館に基幹となる LC が整備された。LC 未設置の館室においても、改修に合わせて LC のスペースを確保し、双方向型授業やアクティブラーニングなどの課題解決型の能動的学習の推進を支援する。また、PC 必携化等の学生の ICT 環境の変化に対しても多様な利用形態に対応した学習空間を整備する。

(1-2) 分野を超えた研究をつなぐ場としての環境整備

本学が掲げる文理融合の研究を強力に推進するため、自然科学系図書館に大学院生レベルの研究ディスカッション、プレゼンテーションの練習、サイエンスカフェ等が行えるスペースを確保し、部局を越えた融合研究を醸成する場として展開する。

(1-3) 各館室の改修

前 2 項を達成することを主眼とし、(2-4) に掲げる蔵書の分担収蔵も考慮しながら、未改修の医学分館、海事科学分館の改修計画を各キャンパス関係部局及び財務部・施設部等と調整・立案し、実現に向けた予算要求を実施する。

2. 蔵書ならびに知識や情報の共有

(2-1) 電子ジャーナルをはじめとする研究基盤としての資料整備

先端研究と文理融合を掲げる本学にとって研究基盤の充実是不可欠である。大手出版社の電子ジャーナルパッケージやデータベースは、価格の上昇や為替変動、消費税の影響を受けながら契約規模を維持してきた。現在は教育研究基盤資料整備費として全学予算の中に

組み入れられており、多くの利用実績がある。今後、限られた予算の中で最大限の研究基盤を、全学的な合意を得ながら整備していく。

（２－２）学習の基礎となる学生用図書の整備

附属図書館は法人化以降、学生用図書費の確保を最重点事項として、資料整備に努めてきた。平成 25 年度からは、教員と連携してシラバス型パスファインダー（授業に関連する参考文献リスト）「KULiP」を作成し、掲載図書を複数冊備えたコーナー設置を開始した。今後も協力教員を拡大し、授業で指定される参考文献・必読図書を網羅的に収集し、利用に供するとともに、多数の同時アクセスが可能で学外からも利用でき、大規模授業への教材提供に適した電子書籍を積極的に導入し、自学自習に必要な学生用図書の整備をさらに進める。

（２－３）国際化に対応した資料整備、サービスの提供

グローバル人材育成事業から配分を受けて整備した英語多読テキスト、各言語の検定試験問題集等の語学資料や留学関係資料を引き続き充実させ、本学の学生の国際性を一層涵養する。また世界から参集した優秀な留学生・研究者に対して、資料整備に加えて外国語によるレファレンス等の多文化・多言語サービスを提供し、学習・研究活動をサポートする。

（２－４）全館室の効率的な資料収集と、蔵書の分担収蔵

9 館室で構成される附属図書館は、従来より総合・国際文化学図書館を学部 1・2 回生向け、及び複合分野・基礎的資料の重点館とし、他の館室はそれぞれ学部 3 回生以上を対象に専門的な資料を収集する方針としている。各館室間で資料を流通させる図書館デリバリーサービスを利用することにより、館室間での資料重複購入を最小限とする。また、すでに所蔵している重複資料については可能な限り処分するとともに、利用頻度の低い資料や製本雑誌の管理については、共同利用書庫としての手動式集密書架を要求し、スペースの有効活用を図る。

（２－５）大学固有の学術情報資源、教育研究成果のオープン化の推進

社会への説明責任及び大学のブランディングの観点から、神戸大学の所有する学術情報資源や教育研究成果のオープン化を推進し、長期的な保存をはかる。「神戸大学オープンアクセス方針」（平成 29 年 1 月学長裁定）に基づき、本学教員著作の学術論文をリポジトリに登録する業務を図書館が積極的に担い、さらにエビデンスとしての研究データの登録が可能なように、一部の部局や情報基盤センターと連携してシステム・サーバ構築の最適化を図る。

3. 人材の育成と参画

（３－１） 教員・学生・一般利用者など多様な人材の参画

図書館の活動は多様化しており、これまでも教員の協力を得て展示会やライティングセミナーなどを開催したり、学生の提案を広報活動に生かしたりしてきた。今後は図書館に関わる様々なステークホルダーに積極的に働きかけ、教員、職員、学生、一般利用者等と緊密に連携しながら、それぞれのスキルや知識を活かしつつ、新たな知の共有と創出を促す。

（３－２） 新たな人材の確保と職員の資質向上

各館室のサービスと蔵書構築に必要な専門的知識の習得など、職員の資質向上のための研修を行う一方、オープンデータの推進に関わるなど新たな人材の確保や育成を目指す。また、学術情報流通の変化に伴い、海外の動向を踏まえた新たな知識やスキルの習得が求められているため、職員を国際会議に参加させたり海外事例の調査研究に継続して派遣したりするなど、組織として育成の環境を整える。

4. 財政的な課題ほか

（４－１） 各館室維持費の確保

全館室総計で2万㎡を超える面積を保有・運用している。利用対象者は学生・教職員合わせて2万人を超え、年間300日以上開館するための光熱水費、備品・設備・建物の維持・更新には一定の金額が必要である。附属図書館は外部資金等による補填が期待できないため、維持経費を安定的に確保することが重要である。

（４－２） 外国雑誌センター・電子図書館事業について

外国雑誌センターは一橋大学とともに人文・社会科学分野における外国雑誌の収集拠点として設置されている。また、電子図書館事業も全国15大学に配分され、本学の電子図書館は震災文庫・新聞記事文庫をはじめとしたコンテンツが外部から高い評価を受けている。もともと法人化前に措置されていた予算が運営費交付金に組み入れられており、これらの事業は今後とも堅実に運用していく責任がある。

（４－３） 大学文書史料室及び大学出版会について（附属図書館が事務を担当する部署）

附属図書館は従来からの図書館業務以外に、大学文書史料室（平成22年度）、大学出版会（平成29年度）の事務を担当している。それぞれに予算や人員、設備等の課題があるが、関連する部局等と連携しながら安定的な運用と発展をめざす。

（平成29年11月8日 附属図書館運営委員会承認）

（令和2年7月6日 附属図書館運営委員会改訂）

（令和3年7月6日 附属図書館運営委員会改訂）

教育支援

教養・専門教育を支え新たな価値創造環境を強化する

■学修資料の整備

- ・教科書・シラバス掲載資料など、教養教育・専門教育を支える基本的な資料を整備する
- ・百科辞書・専門分野の事典などを整備する
- ・電子ブック・新聞データベース・電子教材などを整備する

■情報の活用支援

- ・「情報」の探し方に関する基本的な情報リテラシーの習得を支援する
- ・文献管理ソフトウェアなど情報活用ツールの利用を支援する
- ・学生の能動的学修を誘発する広範な支援を行う

社会貢献

大学や地域の記録を保存するとともに電子化・公開を進める

■デジタル・アーカイブの構築を通してデジタル・ヒューマニティーズの基盤を形成

- ・図書館が所蔵する貴重書など様々な資料の電子化・公開および他機関との連携を進める
(震災文庫、新聞記事文庫、神戸開港関係資料ほか)
- ・関係部局等と連携して大学や地域の記録を収集・保存し、電子化・公開を進める

■神戸大学の歴史を伝える

- ・大学文書史料室を中心に神戸大学の歴史に関する資料(歴史公文書等)を収集・保存するとともに一般の利用のため調査業務や展示・公開を行う
- ・神戸大学120年史編集刊行事業を推進する

研究支援

オープンサイエンスに係る支援として、研究のインフラを維持するとともに神戸大学の教育研究成果を公開することで可視性を向上させる

■研究資料の整備

- ・研究に不可欠な電子ジャーナルやデータベースなどの購読を維持する
- ・費用対効果に留意し、大学が必要とする資料を戦略的に整備する

■学術成果のオープンアクセスの推進

- ・神戸大学の教育研究成果(学術論文・博士学位論文・紀要論文・教材・研究データなど)を集中的に整備し、DOIを付与して学術成果リポジトリにより公開することで他機関等からの可視性、利便性を向上させる
- ・様々な方法での学術成果のオープンアクセスへの支援を行う

知の広場

神戸大学全構成員の情報インフラとして現実空間・仮想空間双方に知の交流のための広場を展開する

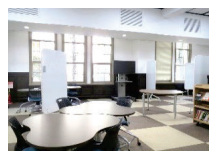
■学修環境の整備

- ・多様なアイデアを引き出し主体的な学修活動を促進するため「ラーニングcommons」を整備する
- ・個人学習のための「自習室」を整備する
- ・資料を用いて学習・調査するための「閲覧室」を整備する

■資料を活用した知の交流

- ・独自性のある資料や教科書にでてくるような著名な図書を活用した展示・解説をおこなうなど知の交流事業を実施する

知的刺激と交流をひろげる 附属図書館



課題と現状

DX進展への対応

■デジタルアーカイブの構築・学術成果のオープンアクセスの推進

■情報リテラシー教育の推進

- ・図書の探し方、情報の探し方、データベースの検索方法などの講習会を実施

■ラーニングcommonsの整備

- ・人文科学図書館(2013)、社会科学系図書館(2014)、総合・国際文化学図書館(2015)、保健科学図書室(2021)、自然科学系図書館(2023)

■図書館室の協同によるスペースの有効活用

■他機関との連携

展望

2026 から 2030 へ

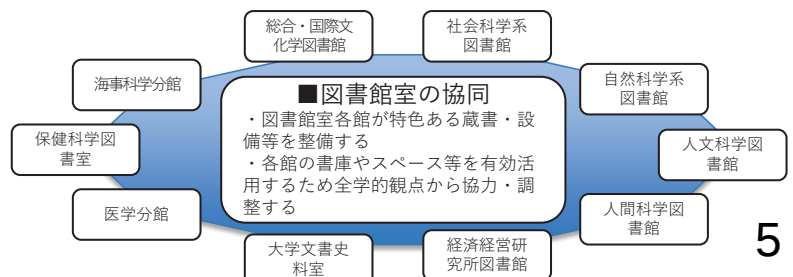
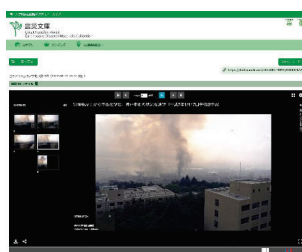
- ・資料電子化に要する経費の確保をはかるとともに大学・地域の記録・記憶である資料や貴重資料等の電子化・公開を行うとともに、リポジトリや様々な方法での学術成果の公開を進める

- ・YouTubeやオンライン会議システム等を活用し、情報の取扱いに関するセミナー等の内容を充実させる

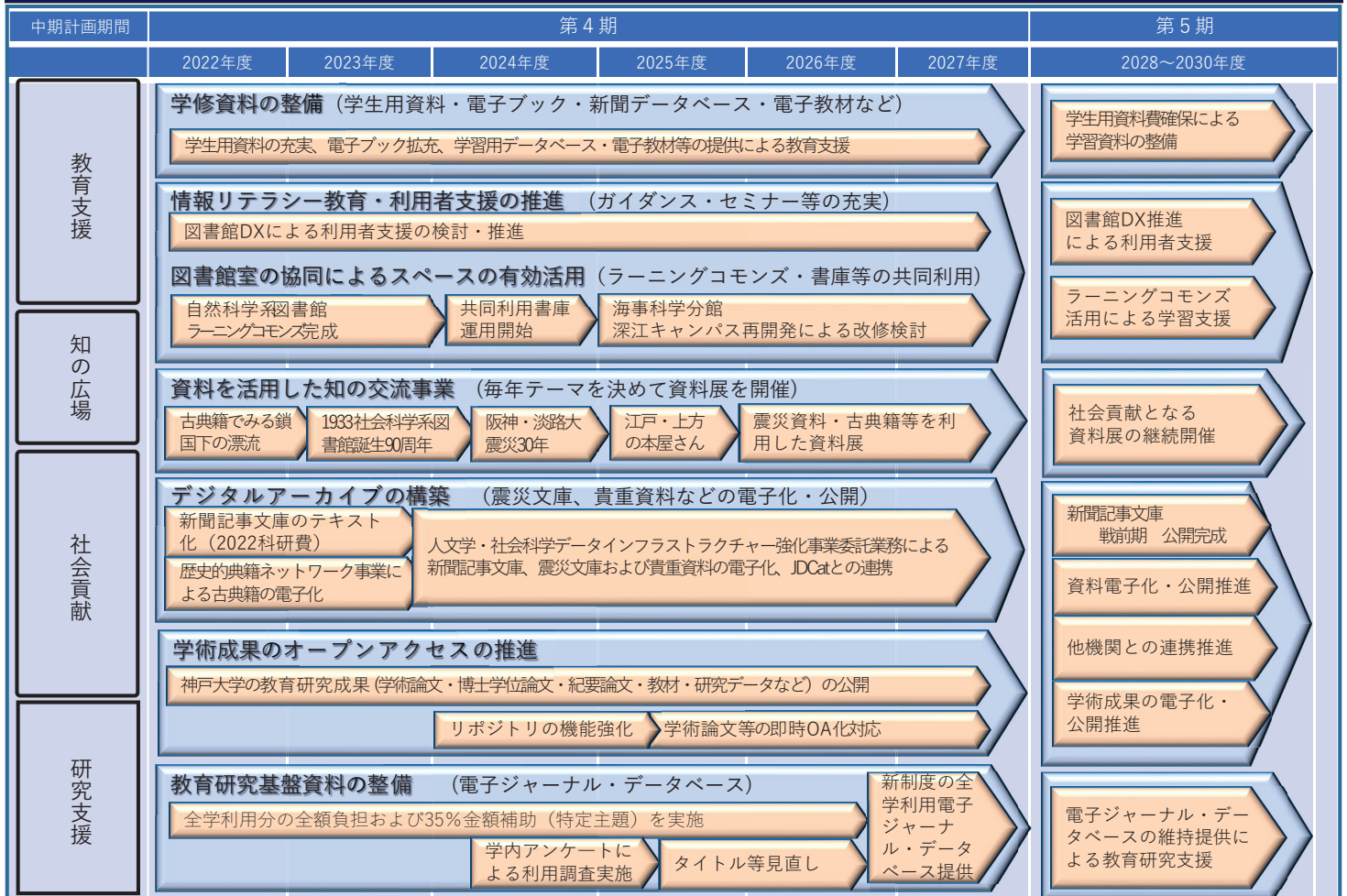
- ・多様な人との交流・議論・協同・創造的学習のための空間であるラーニングcommonsを海事科学分館・医学分館にも設置し、イノベーションをうみだす価値創造空間としての活用を促進する

- ・全学の図書館室が協力し、各館の特色を活かしつつ、全学的観点からスペースの有効活用を図る

- ・Japan SearchやJDCatなど他機関とのデータ連携をさらに進める



2030年までのロードマップ



令和7事業年度に係る業務の実績(第4期中期目標)

国立大学法人神戸大学 第4期中期目標

I 教育研究の質の向上に関する事項

1社会との共創

2教育

3研究

4その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

III 財務内容の改善に関する事項

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

V その他業務運営に関する重要事項

KU VISION 2030

たゆまざる情報の収集・発信と利活用促進(附属図書館情報戦略)

KU VISION 2030		実績(アウトプット/アウトカム)	
教育支援	教養・専門教育を支え新たな価値創造環境を強化する ■学修資料の整備 ■情報の活用支援	【アウトプット】 ・学生用資料費として当初配分で39,345千円を確保し、各館室の学生用資料やシラバス掲載資料等の整備を実施。E-Study事業費は別枠として4,159千円確保。 ・総合図書館の学生用雑誌について、学生を対象としたアンケート等による選定を実施、休刊を含む7タイトル中止とし、63タイトルを継続とした。 ・郵送による資料貸出を通常サービスとして実施。(R7年度3月末時点で延べ6件、14冊) ・チャットによる利用者相談受付を通常サービスとして実施。(R7年度3月末時点で延べ132件) ・全学共通科目「情報基礎」(1年次必修)の1コマ(90分)を、附属図書館各館室の職員で構成する「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」のメンバー14名が担当、昨年度同様オンデマンド型遠隔授業で実施。(前期後期計23回、2,736名受講)。 ・初年次セミナーにおける図書館ツアー・ガイダンスを、8学部に対しすべて対面で計56回実施、1,629名受講。前年度からは受講者数が289名増加した。 ・新入生向け図書館ツアー/セルフツアーを全館室にて実施し、188名が参加した。 ・教員などからの依頼を受けガイダンスを行うオーダーメイドガイダンスを計32回実施、739名の参加があった。 ・図書館主催ガイダンスとして、外部講師を招きWeb of Scienceの講習会を2回開催、36名の参加があった。 ・英語論文セミナーを講師を招きオンラインで開催し、111名の申込のうち約70名の参加があった。 ・大学院講義「アーカイブズ情報管理特殊研究」にて震災文庫デジタルアーカイブの紹介を行った(R8,1/14 受講者12名)。 ・学生の多様なニーズを直接選書に反映させる学生選書ツアーは、前年に続き店頭選書で開催し、R7,11/7午前と午後の2回実施し、15名参加、179冊(335,932円分)購入。 ・R7年度末時点でのシラバス型パスファインダー「KULiP」は公開数44件(うち新規作成数8件)、資料/情報の探し方ガイドは公開数23件(うち新規作成数1件、更新9件)、セルフラーニング資料は公開数36件(うち新規作成4件、更新1件)であった。うち英語版のオンデマンドガイダンスを12件作成した。YouTubeチャンネルは公開数63件(うち新規作成13件)であった(セルフラーニング資料との重複あり)。YouTubeのチャンネル視聴回数は3,895件であった。 ・学生と職員の協働の取組として、学生サポートチームULiCSが読書会、おすすめ本の展示を行った。広報誌をR7,4月に発行し、Webにて公開した。	
		【アウトカム】 ・学部生及び大学院生の図書貸出冊数は、256,051冊(R7年度末)となった。 ・電子ブックコレクションMaruzen eBook Libraryのアクセス回数は34,816回(R7年度末)となり、前年度(31,232回)より1割以上利用が増加した。そのほか海外提供元の主な電子ブックのアクセス回数は、10,729回(R7年度末)となった。 ・全学共通科目「情報基礎」では、授業中の小テストでは正解率が96%であり、授業内容が正しく理解されていた。一方、授業後の課題の正解率はOPACが50%、CiNii Booksが84%にとどまった。 ・初年次セミナーにおける図書館ツアー・ガイダンス、実施担当教員へのアンケート(回答者30名)にて全員から肯定的評価を得た。 ・オーダーメイドガイダンスの受講者(回答者330名)と依頼した教員(回答者16名)双方へのアンケートにてほぼ全員から役に立つとの肯定的評価を得た。 ・英語論文セミナーのアンケート(回答者27名)では、22名が今後の研究に役立つとの肯定的評価を得た。 ・学生選書ツアー、アンケート回答者13名のうち全員が満足と回答。	
KU VISION 2030		実績(アウトプット/アウトカム)	
知の広場	神戸大学全構成員の情報インフラとして現実空間・仮想空間双方に知の交流のための広場を展開する ■学修環境の整備 ■資料を活用した知の交流	【アウトプット】 ・時間外開館については、時間外開館経費6,000千円、事業経費は前年から7,014千円増額され13,547千円の予算配分があり、全館室での試験期土日の開館時間の拡大(医学分館は授業期と試験期の区別なし)や、自然科学系図書館での授業期と試験期の日曜開館の実施など開館時間を拡大をした部分もあるが、利用細則の規程からは短縮での時間外開館となった(経済経営研究所図書館を除く)。 ・医学分館において、24時までの時間外利用をR7も継続して実施。説明動画とクイズを作成し、申請者に視聴、正解してもらうことで適正に利用されるよう方法を講じ、利用者はカードリーダーと暗証番号を用いて入館することができる。 ・図書館の蔵書やデータベースの有用性を知ってもらうことを目的に、図書館内の資料を使って問題を解きながら館内を巡るゲーム「図書館冒険の旅2025」(R7,10/15-11/27、解答用紙配布数57名、解答用紙提出数22名)解説会(R7,12/18、参加者3名)を総合・国際文化学図書館で開催した。 ・読書推進及び図書館利用・貸出促進を意図して、2年ぶりに「読書マラソン」を企画し開催した(R7,11/11～R8,1/29、60名参加)。参加者は専用のLINEアカウントに友だち登録することで、LINEショップカードを取得し、1冊読了する毎に感想を入力・送信することでポイントを獲得。広報を工夫したことと魅力ある景品を用意できたことで、前回参加者数から倍増となり、参加者の半分以上が完走(34名)した。 ・社会学系図書館にオンライン授業等のための個室ブースOnline Pod1室を設置し、自然科学系図書館と合わせて7室となった。 ・社会科学系図書館開架閲覧室の閲覧席8席を木製机に入替。 ・自然科学系図書館ラーニングコモンズに椅子24脚追加。	
		【アウトカム】 ・R7年度の年間入館者総数は589,201となり、前年度からは微増となったが、コロナ禍以前の入館者数の7割程度に留まっている。 ・「図書館冒険の旅2025」では、アンケートのなかで、初めての書庫に行けたことが楽しかったといった感想や図書館のサービスについて知ることができたといった感想があり、情報リテラシーイベントとして効果があった。 ・読書マラソンでは、アンケート回答者29名のうちほぼ全員が面白かったと回答。本を読むきっかけとなったとの感想も多く、読書促進の効果があった。	

KU VISION 2030			実績(アウトプット/アウトカム)
研究支援	研究のインフラを維持するとともに神戸大学の教育研究成果を公開することで可視性を向上させる	■研究資料の整備 ■学術成果リポジトリの整備	【アウトプット】 ・電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料を計画的・安定的に提供するため、R8年度整備費を予算要求し、445,018千円を確保。 ・2社との電子ジャーナル購読料とOA出版料(APC)の包括契約で、R7年度は149論文がOA出版となった。また、APC割引によるOA出版は32論文であった。 ・前年度に続き学術情報流通活性化を目的とした経費の配分があり、URA1名を配置し、EJ・DB購読適正化に向けた調査、研究データ管理・公開に関するガイドライン等の検討を実施。 ・「学術成果リポジトリ」のコンテンツ収集に努め、その公開を推進した。(登録総数:45,044件(R7年度末))。 ・オープンサイエンス推進WGの成果として、KUID 登録論文2,957件の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち前年度以前の調査分も含め196件について登録依頼した結果、41件を登録できた。また、オープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報収集を行、その内容を記事として掲載の上、ニュースレター『Kernel通信』をR7,12月とR8,2月の2回発行した。 ・Kernel登録申請システムの導入により、本学教員がresearchmapに登録された学術情報をもとに著者最終原稿を添付して登録申請するだけでKernel上で簡単に論文をオープンアクセスすることができるようになった。R7,9月末の運用開始以降74件(49人)の利用があった。researchmapから取り込んだ論文情報の精度向上のためDOI補完作業を行い、69,310件の論文データを確認のうち3,160件にDOIを付与した。 ・研究データ管理システム「GakuNin RDM」と本学ストレージ「KuDrive」の整備が完了し、より多くの研究データを管理・保管する環境が整った。 ・博士論文インターネット公表に関する説明資料を、神戸大学合格者向けWebサイトにて日本語版・英語版で情報提供した。 ・「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業委託業務」3年目の令和7年度は、16,500千円の配分があった(令和9年度までの5年間実施)。「新聞記事文庫」などの経済関係資料及び震災文庫や貴重書などのデジタル化を推進し図書館HPで公開。新聞記事文庫は、テキストデータ1,726記事分を作成し、登録準備をすすめた。(新聞記事文庫デジタル化記事公開件数327,952件(R7年度末現在)) 電子図書館事業では、若林泰氏収集文書から、「鑄銭御用書・大坂絵図・浦々廻船定」(10件、うち2件はメタデータのみ)と「西宮浜守屋新兵衛近世文書・新城屋新田文書・吉中家文書・片吉村」(78件)「武庫郡段上村近世文書」(画像141件、メタデータ3件)の計232件を公開した。住田文庫の画像「刑銭須知 1-3巻」「海上繪圖：大阪川口より浦賀迄」を公開した。村上家文書は大判の絵図4件のスキャン撮影(画像8枚)を行った。 ・本学附属図書館デジタルアーカイブの「貴重書・特殊コレクション」、「新聞記事文庫」、「震災文庫」が、「JDCat(人文学・社会科学総合データカタログ)」とデータ連携し、R8年度は13,663件(震災文庫13,160件、新聞記事文庫100件、貴重書403件)のデータをJDCatから公開した。 ・神戸大学海事科学振興財団より助成を受け、海事科学分館渋谷文庫35点(画像1,086枚)の電子化を行った。 ・自然科学系図書館の共同利用書庫の運用を開始した(R7,10/1)。 ・収蔵スペースの有効活用を図るため、重複図書・雑誌等の廃棄を実施(9館室で計47,530冊廃棄)。また、総合・国際文化学図書館および人文科学図書館から自然科学系図書館共同利用書庫に製本雑誌6,292冊を移管した。 ・資産点検における不明図書について毎年追跡調査を行い、不明期間が3年以上経過した資料の不用決定を実施(国際文化、海事)。 ・研究室貸出図書の資産点検について、教員の異動(転・退職等)時に随時点検を実施し、不明であったものについて追跡調査を行い、不明期間が3年以上経過した資料の不用決定を実施(国文)。
			【アウトカム】 ・電子ジャーナルのアクセス数は、1,456,587件であった。 ・学術成果リポジトリの年間ダウンロード数は4,321,233、新聞記事文庫トップページアクセス数は、88,596件となった。 ・KUID 登録論文の著作権調査を実施し、登録依頼した41件を登録できた。
KU VISION 2030			実績(アウトプット/アウトカム)
社会貢献	大学や地域の記録を保存するとともに電子化・公開化を進める	■デジタル・アーカイブの構築を通してデジタル・ヒューマンティーズの基盤を形成 ■神戸大学の歴史を伝える	【アウトプット】 ・震災文庫における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開を継続して実施。震災デジタルアーカイブ、メタデータレコード、総数:58,345件、新規受入資料数:618件(R7年度末) ・サンテレビジョンと本学が締結した包括連携協定における主要な取組として、サンテレビジョンより提供された阪神・淡路大震災の取材映像(211件)を、人文学研究科地域連携センターの協力を得て、震災文庫の室内設置端末限定で公開した(R7,11/26、R8,1/6)。 ・資料展「江戸・上方の本屋さん」を社会科学系図書館を会場として開催し、江戸時代の出版事情や江戸、京都、大坂で出版された本を当館所蔵の貴重書から展示・紹介した。あわせてデジタルアーカイブにて全文公開している貴重書をQRコードでナビゲートした。学生や広く一般にも広報し、学外からの見学者は1,000名となった。(会期:R7,10/21-12/22)。 ・昨年度開催した資料展「阪神・淡路大震災30年 あの日の神戸-記憶の継承-」のリバイバル展(会期:R8,1/7-2/1)およびパネル展(自然4月、社系10月ホームカミングディ)を開催した。 ・海事科学博物館・巡回展「神戸からの船出～近代日本・貨客船の光彩～」を社会科学系図書館展示ホールにて開催(会期:R7,5/1-6/30)。 ・神戸大学史・巡回展「戦場に行った神戸大学の学生たち―戦後80年―」を社会科学系図書館展示ホールにて開催(会期:R8,2/5-3/17)。 ・経営学研究科企画展示「加護野経営学の足跡をたどる～よいことを上手に～」を社会科学系図書館展示ホールにて開催(会期:R8,3/16-4/19)。 ・中学生の職業体験である「トライやる・ウィーク」に協力し、神戸市内の中学校3校(計5名、各1週間)大学図書館の職業体験として受け入れた。 ・卒業生・放送大学生の入館・貸出を実施した。一般の学外者には、全館室にて資料閲覧と総合・国際文化学図書館および海事科学分館での館外貸出サービスを実施した。
			【アウトカム】 ・デジタルライブラリーの震災文庫トップページアクセス数は、30,881件であった。 ・デジタルアーカイブ全体の利用数は、3,154,208件であった。 ・デジタルアーカイブ全体で、他機関からの転載申請が26件あり、許諾した。 ・資料展「江戸・上方の本屋さん」アンケート回答者79名のうち9割以上の74名がよかったと回答。

R2～R7（2020～2025）年度 数値結果実績調査（第3期～第4期）

項番	区分	指標	2020	2021	2022	2023	2024	2025	備考（根拠など）
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
1	教育体制	図書館入館者数	76,659	193,979	370,273	520,038	559,111	589,201	サービス業務現況表
2		総開館日数（9館の合計）	1,759	2,088	2,219	2,475	2,460	2,509	
3		時間外開館時間数	568	1,246	6,497	6,005	5,677	6,114	
4		貸出冊数	115,731	224,989	254,356	269,547	316,362	296,699	
5		学生一人当貸出冊数	5.6	11.7	13.3	14.2	16.7	15.3	
6		学内デリバリー貸出冊数	14,298	21,534	25,095	25,503	25,520	23,209	サービス業務現況表
7		電子書籍アクセス数（丸善）	15,171	33,133	31,763	27,009	31,232	34,816	年次報告
8		電子書籍アクセス数（主な海外提供元電子ブック）		9,259	10,210	16,398	10,643	10,729	
9		ガイダンス等の実施件数	54	92	117	118	124	120	情報基礎、初年次セミナー、ガイダンス等（オーダーメイドガイダンス、新入生向け図書館ツアー、図書館主催ガイダンス、オリエンテーション）、英語セミナー、ライティングセミナー
10		ガイダンス等の参加人数	2,935	5,451	5,589	6,635	7,253	7,348	
11		パスファインダー等作成・更新件数（R2までパスファインダー作成件数）	33	73	84 (180)	88	75	72	KULiP （公開件数＝作成・更新）授業資料ガイド及び（作成・更新件数）資料/情報の探し方ガイド、セルラーニング(PDF・動画)の合計 （）年度末時点での公開件数
12		YouTube利用件数	8,967	9,604	10,040	17,828	9,652	3,895	YouTubeチャンネル視聴回数（4.1～翌3.31）
13		イベント回数（資料展示・巡回展示・各館テーマ展示・トークイベントほか）	15	41	43	54	44	46	資料展示(デジタル資料展含む)、各館テーマ展示（テーマ展示/仮想展示/巡回展示（のべ））、トークイベント、読書マラソン/オンライン読書室、選書ツアー、書評・キャッチコピーテスト、その他 年次報告記載より
14		OPAC検索回数	1,500,063	1,716,776	1,981,405	2,032,867	3,508,604	5,996,802	電子的情報サービス現況表
15		アカウントサービス提供回数			208,187	226,081	273,620	259,826	
16		申込件数・文献複写	5,270	6,082	5,367	4,177	3,416	2,885	
17		申込件数・現物貸借	1,079	1,381	1,128	1,017	1,078	1,060	
18		申込件数・学生希望	877	1,486	1,327	1,439	1,368	1,296	
19		申込件数・貸出期間延長	41,154	113,442	130,837	146,802	194,519	186,644	
20		利用状況確認件数・貸出・デリバリー・予約	29,927	56,814	65,573	68,496	69,743	65,291	
21		利用状況確認件数・文献複写・貸借	5,580	6,845	3,402	3,136	2,664	2,394	
22		その他・メールアドレス登録・変更・削除	182	201	229	239	209	200	
23		その他・タグ（新規登録件数）	128	205	273	659	537	43	（OPAC）タグ：各自で目印
24		その他・タグ（人数）	17	22	51	116	86	13	がつけられる機能

項番	区分	指標	2020	2021	2022	2023	2024	2025	備考（根拠など）
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
25	研究体制	EJタイトル数	36,418	37,077	37,668	37,836	38,267	38,586	蔵書・受入等現況表
26		EJアクセス数	1,334,576	1,420,345	1,419,910	1,443,730	1,485,776	1,456,587	電子的情報サービス現況表
27		主要データベース	26	26	26	26	24	23	年次報告
28		リポジトリ登録数（年間増加数）	2,015	1,728	2,021	2,063	2,724	3,770	年次報告
29		リポジトリ登録数（累計数）	32,738	34,466	36,487	38,550	41,274	45,044	
30		リポジトリ利用数	2,050,717	2,488,851	1,258,543	748,225	2,091,238	4,321,233	論文等ダウンロード回数、R4-R5はシステム更新の影響あり、R6は算出方法の変更あり
31		リポジトリ学術論文登録総数	6,653	7,539	8,530	9,506	10,614	13,615	本文までの公開件数
32		リポジトリ博士学位論文登録総数	2,887	3,065	3,234	3,415	3,603	3,763	本文まで公開件数 修士論文も含む
33	社会貢献	震災文庫トップページアクセス数	15,849	12,734	11,279	10,750	17,260	30,881	電子的情報サービス現況表、R4-R5はシステム更新の影響あり、R6は算出方法の変更あり
34		震災文庫メタデータ詳細画面表示数	-	-	-	93,170	641,362	370,528	E-Catsから取得
35		震災文庫ダウンロード数	-	-	-	43,630	130,846	196,570	E-Catsから取得
36		震災文庫資料総数	61,516	62,392	56,858	57,217	57,727	58,345	年次報告
37		震災文庫新規受入資料数	921	876	403	361	510	618	
38		震災デジタルアーカイブ・入力件数	3,190	2,427	111	154	256	332	
39		新聞記事文庫トップページアクセス数	81,011	73,734	58,193	62,292	72,598	88,596	電子的情報サービス現況表、R4-R5はシステム更新の影響あり、R6は算出方法の変更あり
40		新聞記事文庫メタデータ詳細画面表示数	-	-	-	271,278	1,694,995	1,679,506	E-Catsから取得
41		新聞記事文庫デジタル化記事件数	326,956	356,325	327,636	327,955	327,949*	327,952	年次報告
42		新聞記事文庫デジタル化記事件数（テキスト作成件数）	-	-	累計（ ） 新規（8733）	3,620	6,161	1,726	*R6年度新聞記事文庫デジタル化記事件数はデータ統合等により6件減少
43		新聞記事文庫作成件数**	2,087	11,988	-	-	-	-	**新聞記事文庫作成件数については完了
44		貴重書・特殊コレクションメタデータアクセス数	-	-	-	42,269	337,164	1,104,178	
45		貴重書・特殊コレクションダウンロード数	-	-	-	2,514	12,279	32,280	R6は算出方法の変更あり
46		デジタル・アーカイブ利用数	-	-	124,301	406,705	2,673,521	3,154,208	R4年度のシステムリプレイスにより、デジタルアーカイブ全体の、メタデータ画面へのアクセス数が算出可となった。R4年度はR4年9月～R5年3月までの値。R4-R5はシステム更新の影響あり、R6は算出方法の変更あり
47		展示会年間開催回数	1	1	5	5	3	7	全体

全学共通授業科目「情報基礎」
図書館担当コマ「第6回 大学における情報の活用」
学生アンケート集計結果

集計: 選択項目 回答数: 964名

(1) 図書館ホームページの利用方法について理解できましたか.	回答数	割合	
1.理解できた	774	80.3%	98.5%
2.少し理解できた	176	18.3%	
3.少し難しかった	13	1.3%	1.5%
4.難しかった	1	0.1%	
(2) 図書館での情報検索の方法について理解できましたか.	回答数	割合	
1.理解できた	789	81.8%	98.7%
2.少し理解できた	162	16.8%	
3.少し難しかった	11	1.1%	1.3%
4.難しかった	2	0.2%	
(3) 引用のルールなどアカデミックマナーについて理解できましたか.	回答数	割合	
1.理解できた	678	70.3%	97.0%
2.少し理解できた	257	26.7%	
3.少し難しかった	29	3.0%	3.0%
4.難しかった	0	0.0%	
(4) PDF資料は、授業を理解する上で役に立ちましたか.	回答数	割合	
1.大変役に立った	741	76.9%	98.4%
2.少し役に立った	208	21.6%	
3.あまり役に立たない	15	1.6%	1.6%
4.全く役に立たない	0	0.0%	
(5) 今後、学修・研究のために図書館を利用したいと思いますか.	回答数	割合	
1.ぜひ利用したい	802	83.2%	99.3%
2.少し利用したい	155	16.1%	
3.あまり利用するつもりはない	6	0.6%	0.7%
4.全く利用したくない	1	0.1%	

集計: 自由記述 回答人数(延べ数): 204

分類の内容	回答数	割合*
1. 図書館の使い方やアカデミックマナーなど、役に立った	58	28%
2. 説明や内容がわかりやすかった	13	6%
3. これからも図書館を使いたい	78	38%
4. 難しい、分からない	0	0%
5. 簡単すぎる	0	0%
6. 疲れる、長すぎる、無駄だ	0	0%
7. 教材(動画・PDFの表示方法等について)、課題、授業について	8	4%
8. 図書館への要望	14	7%
9. 図書館ホームページ、検索について	2	1%
10. その他	3	1%
未分類 単なる謝礼や感想、もしくは無意味な内容	28	14%
計	204	100%

*回答数に占める割合

「初年次セミナー」
教員アンケート結果

回答数: 30

(Q1) 初年次セミナーにて図書館に授業を依頼するのは今回何回目ですか？	回答数	割合
0.無回答	0	0.0%
1.はじめて	9	30.0%
2.2年目	3	10.0%
3.それ以上	8	26.7%
4.学部で依頼している	10	33.3%
(Q1-2) どのような形態の実施を依頼しましたか？	回答数	割合
0.無回答	0	0.0%
1.対面	30	100.0%
2.オンライン	0	0.0%
3.オンデマンド教材	0	0.0%
4.その他	0	0.0%
(Q2) 初年次セミナー授業の実施において、図書館担当授業は役立っていますか？	回答数	割合
0.無回答	0	0.0%
1.役に立っている	30	100.0%
2.どちらかという役に立っている	0	0.0%
3.どちらでもない	0	0.0%
4.あまり役立たない役立っていない	0	0.0%
5.役に立っていない	0	0.0%
(Q3) 今回の図書館担当授業は、受講した学生にとって有意義だと思いますか？	回答数	割合
0.無回答	0	0.0%
1.大いに思う	27	90.0%
2.どちらかと思う	3	10.0%
3.どちらともいえない	0	0.0%
4.あまり思わない	0	0.0%
5.全く思わない	0	0.0%
(Q4) 今回の図書館担当回について、その他日頃のサービス等、神戸大学附属図書館についてご意見ご感想ご要望等、ありましたらご自由に記載をお願いします。	回答数	割合
0.無回答	9	43%
1.総合評価・満足度	7	33%
2.説明・ツアー内容への評価	5	24%
3.蔵書・施設・環境への評価	3	14%
4.実施方法・運営面の改善要望	2	10%
5.発展的要望・将来への提案	4	19%

【自由記述】

Q4 今回の図書館担当回について、その他日頃のサービス等、神戸大学附属図書館についてご意見ご感想ご要望等、ありましたらご自由に記載をお願いします。

学部	コメント
国際人間科学部	学生には授業の際にフィードバックを求めましたが、以下のような感想が多く寄せられました。地域の図書館にはない、学術的に充実した図書が多数所蔵されており、勉学への意欲が高まった。グローバル文化学科に関連した書籍が目につきやすく配置されており、専門性に配慮された蔵書構成に感銘を受けた。
国際人間科学部	学生向けのわかりやすい説明をしてくださいました。あらためて感謝申し上げます。今回は初心者向けの内容かと思いますが、図書館のデータベースの活用や文献の探し方など、卒論執筆のための文献探しを念頭においた「中上級」向けの説明の機会があればいいと思います。
国際人間科学部	学生にとって書庫の迫力は印象深いようで、「大学に来た」と実感している様子を見ることができます。今後ぜひ初年次セミナーに図書館ツアーを組み込む形を継続していただけたら嬉しいです。
海洋政策科学部	私の担当する講義においても、積極的な図書館の利用を勧めております。大学教育において図書館の果たす役割は非常に大きいと思いますので、新年次セミナーでの図書館案内を今後も継続してください。
海洋政策科学部	今回の初年次セミナーありがとうございます。図書館ツアーの際に、後ろの方にいる学生に声が届いていない場合があります。全員に聞こえる場所で説明を行って頂くなど改良頂ければ良いと思います。OPACにつきましては、スマホでの個人差業の際に行っていない学生や、途中ついていけなくなった学生がいました。ディスプレイやプロジェクターで内容を投影頂きながら作業いただけますとより良いと感じました。
海洋政策科学部	とても有意義に図書館を活用させて頂いており、特にお伝えしたい意見などはございません。いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。
海洋政策科学部	今後は電子雑誌の利用が多くなると思うので、図書館そのもののレイアウトも考えた方がいいかもしれません。
国際人間科学部	わかりやすいスライドで、丁寧に説明していただき、大変ありがたかったです。学生にとって、とても大事な場として、受け止めてほしいので、かたい感じでなく、身近に気軽に使って、というメッセージも嬉しく、拝見しました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。
国際人間科学部	今回の図書館ツアーで、非常に詳しい説明用のパワーポイントを作っていただき、誠にありがとうございました。あれを作成するだけで、数時間かかったことと思われます。おかげさまで、学生たちもよくわかり、非常に有意義な時間になったと思います。御礼申し上げます。
国際人間科学部	こちらの希望通りの内容にして下さり、ありがとうございました。私自身大変勉強になりました。
理学部	今年度も丁寧なご対応をいただき深く感謝申し上げます。
工学部	毎年ありがとうございます！
経済学部	経済学部の基礎演習クラスにもご親切に対応してくださり、誠にありがとうございました。
経済学部	今回は36名を一度に案内して頂きましたが、後ろの方は担当者様のご説明の声が届きにくいかと存じます。一度に案内する人数の上限は、20名程度が望ましいかと存じます。ただし、図書館側の人員確保の問題もあるかと存じますので、あくまでもひとつの参考意見と見なして頂ければ幸いです。
経営学部	今回は時間が限られてしまったのですが、来年度の1回生の図書館ツアーでは、もし時間に余裕があれば、文献の探し方についてもレクチャーしていただくことと、その後に、あるトピックについての論文や書籍（日本語、英語の両方）を1回生が実際に探してみるということもツアーに盛り込みたいと思いました。来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。
工学部	毎年有難うございます。学生への利用案内は、何度あってもいいと思っております。土曜日や日曜日の利用が可能な所も、説明して頂いて有難いです。
国際人間科学部	いつもありがとうございます。
経済学部	予約が遅くなってしまったなかで、ご対応いただきありがとうございました。学生にとっては利用できることは知っていても、実際の利用の仕方や館内の設備（図書場所等）についてよくわからないと思うので、利用しようと思うきっかけになったと思います。
法学部	図書館ツアーをお願いするのが初めてでしたので完全に内容をお任せしたのですが、かなり駆け足で30分に収めていただいた印象でした。解説のご都合もあると思いますが、可能であれば、もっと長く時間をとり（45分程度でしょうか）、ゆっくりご説明いただけたらよいなと思いました。短時間でも必要な情報を詰め込んでいただけたのはとてもありがたかったです。
経済学部	今回私自身は参加できませんでしたが、学生の提出コメントを見て、とても丁寧なご説明をいただけたことがわかりました。大変お世話になりました。すでに学習場所として利用経験のあった学生も、書庫スペースに入るのは初めてであったり、冷房の効きの良い場所を教えてくださいたりしたことなどが印象に残っているようでした。
法学部	資料展は毎回楽しみにしております。それ以外にも学生が様々な蔵書に接する機会を設けて頂けたら幸いです。

「オーダーメイドガイダンス」
教員アンケート結果

回答数: 16

(Q1)図書館へガイダンス・館内ツアーを依頼するのは何回目ですか。	回答数	割合
1. 今回が初めて	6	37.5%
2. 2回目	0	0.0%
3. 3回以上	10	62.5%
4. (合同ゼミなど)他の教員が申し込んだため回数不明	0	0.0%
(Q2)今回のガイダンスは受講生にとって役立つ内容だったでしょうか。	回答数	割合
1. 役立つ	16	100.0%
2. どちらかと言えば役立つ	0	0.0%
3. どちらともいえない	0	0.0%
4. あまり役に立たない(理由をご記入ください)	0	0.0%
5. 役立たない(理由をご記入ください)	0	0.0%

(自由記述)

(今回初めてご依頼いただいた先生へお尋ねします)ご依頼いただいたきっかけ、理由を教えてください。		
分類の内容	回答数	割合
1.図書館の広報	4	67%
2.教員の紹介	2	33%
(2回以上ご依頼いただいている先生へお尋ねします)例年ご依頼いただく理由を教えてください。		
分類の内容	回答数	割合
1.図書館職員の専門性への期待	1	10%
2.情報リテラシー教育の必要性	7	70%
3.学生の研究・学習への実践的効果	1	10%
4.授業・ゼミ運営上の補完的役割	1	10%
(2回以上ご依頼いただいている先生へお尋ねします)図書館ガイダンスの受講前と受講後で、学生にどのような変化がありましたか。		
分類の内容	回答数	割合
1.文献探索行動の変化	3	33%
2.ツール・データベースの理解	3	33%
3.引用・文献管理スキルの向上	1	11%
4.研究姿勢・意識の変化	1	11%
5.その他	1	11%

「英語論文セミナー」
参加者アンケート集計結果

集計: 選択項目 回答数: 27名

ご所属の学部・研究科を教えてください	回答数	割合
医学部医学科、医学部医療創成工学科/医学研究科/医学部附属病院	14	51.9%
国際人間科学部/国際文化学研究科/人間発達環境学研究科	4	14.8%
医学部保健学科/保健学研究科	2	7.4%
海洋政策科学部/海事科学部/海事科学研究科	2	7.4%
国際協力研究科	2	7.4%
科学技術イノベーション研究科	1	3.7%
文学部/人文学研究科	1	3.7%
理学部/理学研究科	1	3.7%
学年・身分を教えてください	回答数	割合
学部1回生	1	3.7%
修士課程	4	14.8%
博士課程	13	48.1%
教員	9	33.3%
本日のセミナーは、今後の研究の役に立ちそうですか？ (1.役に立たないと思う～3.役に立つと思う)	回答数	割合
1	0	0.0%
2	5	18.5%
3	22	81.5%
セミナーの開催時期は適切でしたか？開催をご希望される時期などあれば、お選びください。	回答数	割合
適切だった(6月頃)	25	92.6%
5月頃	2	7.4%
本日のセミナーの時間の長さはどうでしたか？	回答数	割合
短かった	0	0.0%
適当だった	24	88.9%
長かった	3	11.1%
本日のセミナーがあることを何で知りましたか？(複数回答可)	回答数	割合
所属研究科からのメール	13	48.1%
先生から聞いて	3	11.1%
図書館Webサイト	2	7.4%
図書館に掲示してあるポスター	3	11.1%
友人・知人から聞いて	3	11.1%
神戸大学Webサイト	2	7.4%
うりぼーポータル	1	3.7%

[自由記述]

今後、研究者支援に関して、どのようなセミナーを受けてみたいと思いますか？(回答数:10)

分類の内容	回答数	割合*
英語論文・アカデミックライティング	4	40%
海外発信・論文投稿・学会	2	20%
研究スキル・研究プロセス	1	10%
対象・形式特化型セミナー	3	30%

*回答数に占める割合

本日のセミナーについてご意見・ご感想、また講師へのメッセージ等を自由にご記入ください(回答数:13)

分類の内容	回答数	割合*
満足度・全体評価	6	46%
内容への評価・学び	2	15%
要望・改善点	5	38%

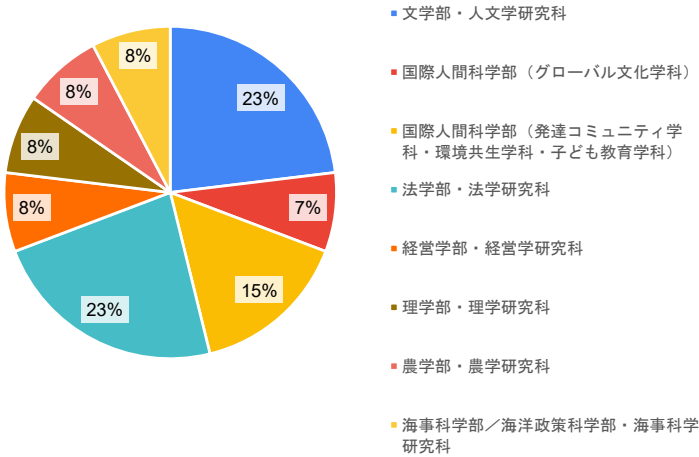
*回答数に占める割合

【アンケート集計結果】学生選書ツアー2025〔開催日：2025年11月7日(金)〕

回答数：13

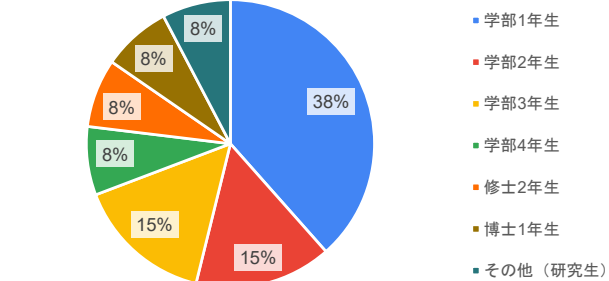
1. 所属学部・研究科を選択してください。

文学部・人文学研究科	3
国際人間科学部(グローバル文化学科)	1
国際人間科学部(発達コミュニティ学科・環境共生学科・子ども教育学科)	2
国際文化学研究科	0
人間発達環境学研究科	0
法学部・法学研究科	3
経済学部・経済学研究科	0
経営学部・経営学研究科	1
理学部・理学研究科	1
医学部(医学科・医療創成工学科)・医学研究科	0
医学部(保健学科)・保健学研究科	0
工学部・工学研究科	0
システム情報学部・システム情報学研究科	0
農学部・農学研究科	1
海事科学部／海洋政策科学部・海事科学研究科	1
国際協力研究科	0
科学技術イノベーション研究科	0
その他	0



2. 学年を選択してください。

学部1年生	5
学部2年生	2
学部3年生	2
学部4年生	1
学部5年生	0
学部6年生	0
修士1年生	0
修士2年生	1
博士1年生	1
博士2年生	0
博士3年生	0
その他(研究生)	1

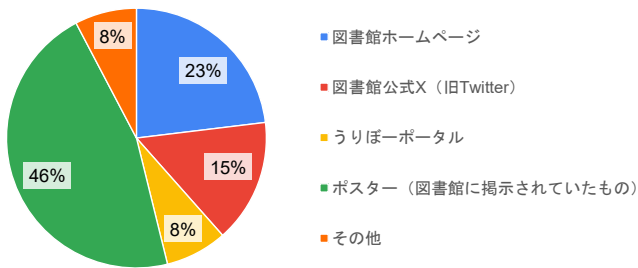


3. 参加された回を選択してください。

10:00～	7
14:00～	6

4. このイベントを知ったきっかけを教えてください。

図書館ホームページ	3
図書館公式X(旧Twitter)	2
図書館蔵書検索OPACのタグ一覧にある「過去の学生選書ツアーで選ばれた本」	0
うりぼーポータル	1
ポスター(図書館に掲示されていたもの)	6
ポスター(図書館以外に掲示されていたもの)	0
チラシ	0
図書館に置かれている卓上ポップ	0
友人	0
その他	1

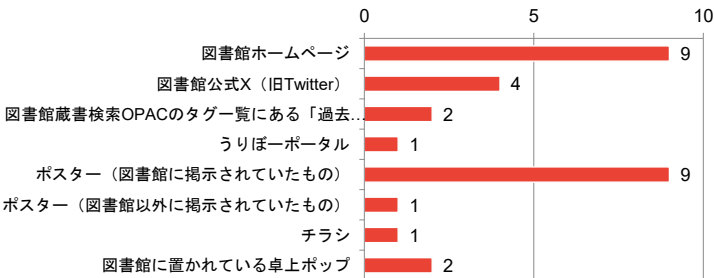


▼「その他」の回答

・ニュースネット委員会広告

5. 4で回答されたものも含めて、今回ご覧になった学生選書ツアーの案内をすべて教えてください。【複数回答可】

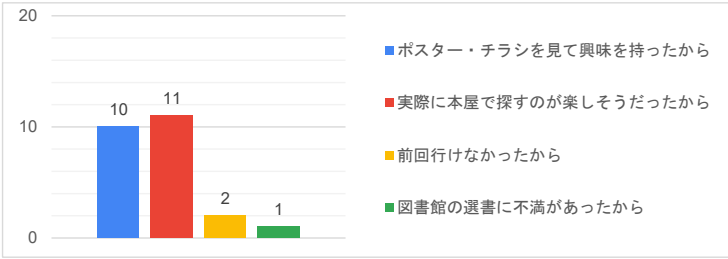
図書館ホームページ	9
図書館公式X(旧Twitter)	4
図書館蔵書検索OPACのタグ一覧にある「過去の学生選書ツアーで選ばれた本」	2
うりぼーポータル	1
ポスター(図書館に掲示されていたもの)	9
ポスター(図書館以外に掲示されていたもの)	1
チラシ	1
図書館に置かれている卓上ポップ	2
友人	0
その他	0



【アンケート集計結果】学生選書ツアー2025〔開催日：2025年11月7日(金)〕

6. 学生選書ツアーに参加した理由をお教えてください。【複数回答可】

ポスター・チラシを見て興味を持ったから	10
実際に本屋で探るのが楽しそうだったから	11
前回行けなかったから	2
図書館の選書に不満があったから	1
その他	0

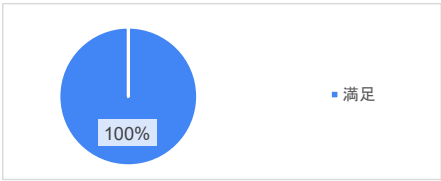


7. 【6で「図書館の選書に不満があったから」を選んだ方】不満の内容を教えてください。

・不満というほどでもないが、シリーズ本の歯抜けや、中国語学関係の本が充実したら良いかと常感している。

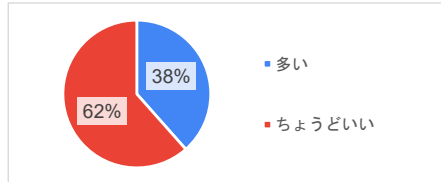
8. 今回の学生選書ツアーはいかがでしたか。

満足	13
どちらともいえない	0
満足ではない	0



9. 一人あたりの選書金額は適当でしょうか？

多い	5
ちょうどいい	8
少ない	0



10. 今回の選書ツアーについて、感想・気づいた点・要望がございましたら、ご記入ください。

- ・素敵なイベントを開催いただき、ありがとうございました。ジュンク堂さんで実際に本を選ぶのはとても楽しかったです。自分の専門の関係で、選んだ本が文芸書に偏ってしまった点が個人的な反省点でした…。娯楽的な本と研究の入り口になりそうな文芸書の差ってどこにあるのかな…？と迷いながら選書するのも楽しかったです。「『べらぼう』が流行っているので、この機会に馬琴作品の新訳本を学部生にお薦めするぞ〜！」などと考えていました。
- ・本を予算内で好きなだけ選ぶことができ、とても充実した時間だった。今回の選書ツアーのような形で、学生が主体的に図書館と関わりを持てるのは良い機会だと考える。
- ・もともと図書館にある本ではなく、自分が選んだ本ということで、読書のモチベーションが爆上がりしそうだと思いました。
- ・資格試験の教材は古いものが多く、形式が変わった最新のものが少ないことを不便に感じています。図書館にすでにあるものでも可能であれば増やしていただけるとありがたいです。
- ・あらかじめある程度選定する本のあたりをつけていましたが、時間が後30分ほどほしかったです。
- ・自分の学びたい分野についての書架から特に読みたいものを中心に10冊選びました。農村や地域経済についての専門書を中心に、タイトルがおもしろそうなのを手に取り、目次・まえがきを見てビックリしました。ただ、そのなかで手に取った本のうちほとんどがすでに収蔵されていることに気づき、同時に大学図書館を使いこなせていないことにも気づきました。自分は比較的読書家であると自認しているのに面白い本に出合えていないことに驚きました。学費を回収する気持ちで図書館を使い倒してやろうと思います。加えて一つ提案します。各学部の学部長など理事の皆さんや教員に選書してもらうようなコラムを企画してはいかがでしょうか。初学者や他学部生向け情報源が一般教養の授業だけではもったいないような気がします。学際化が求められているのはもちろんですが、読み物としても面白い専門書がたくさん眠っているはず。また、神戸大学志望の高校生向けの大学紹介・学部学科紹介にも掲載可能だと思います。ご検討ください。
- ・自分が良い・選びたいと思った本のほとんどが既に図書館に収蔵されており、神戸大学の図書館の蔵書の多さに驚いた。図書館から予算を頂いたうえで選書するので、普段とは違った視点で本を見ることができておもしろかった。
- ・時間が少し足りなかった。図書館に既に入っている本が多く選ぶのが難しかった。自分では買うか迷うような本を、躊躇なく選んで読むことができるので読書の機会が増えてとても良いと思った。
- ・学生なら誰でも図書館に購入リクエストを申請できますが、その本の中身は購入した後にしか分かりません。一方、実際に本屋で手に取りながら購入を吟味することでそのような事態が防げて、有意義な買い物ができると実感しました。良い体験でした。
- ・神戸大学の図書館は本当に資料が充実していて、書店に並んでいる本の多くがすでに所蔵されていました。
- ・高価で普段は手を出せない本も含めて、自分の興味のある書籍を自由に選べてとても楽しかったです。

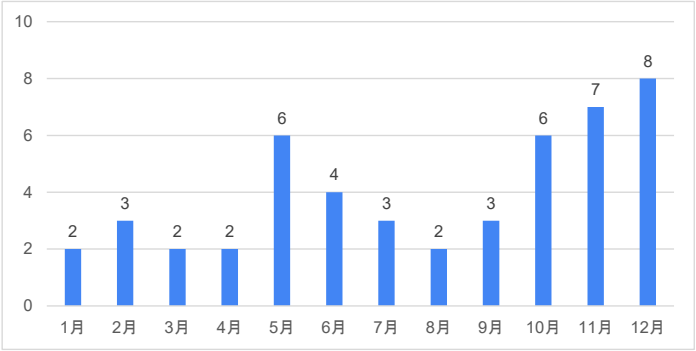
11. 【10をご記入された方】こちらの感想等を来年の広報に使用させていただいてもよろしいですか。

可	11
不可	0

※設問条件に該当しない回答は集計から外している

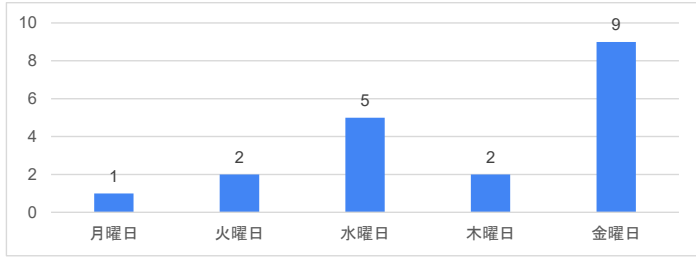
12. 学生選書ツアー実施時期は何月ごろがよいですか？【複数回答可】

1月	2
2月	3
3月	2
4月	2
5月	6
6月	4
7月	3
8月	2
9月	3
10月	6
11月	7
12月	8



13. 選書ツアーやガイダンスのようなイベントに参加しやすい曜日をお教えてください。【複数回答可】

月曜日	1
火曜日	2
水曜日	5
木曜日	2
金曜日	9



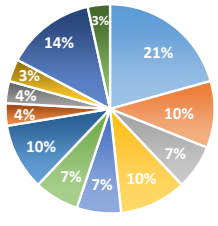
14. 今後図書館で開催希望のイベント等がございましたら、ご記入ください。

- ・本の好きな1文について語る会
- ・選書ツアーがこまめにあると嬉しいです
- ・年に数回24時間開館！
- ・同様のイベントを続けてください。また参加させていただきます。

読書マラソン2025アンケート集計(回答数:29)

Q1.ご所属等を選択してください。

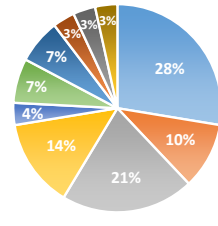
所属	人数
文学部・人文学研究科	6
国際人間科学部(グローバル文化学科)・国際文化学研究科	3
国際人間科学部(発達コミュニティ学科、環境共生学科、子ども教育学科)・人間発達環境学研究科	2
法学部・法学研究科	3
経営学部・経営学研究科	2
理学部・理学研究科	2
医学部(医学科、医療創成工学科)・医学研究科	3
工学部・工学研究科	1
システム情報学部・システム情報学研究科	1
農学部・農学研究科	1
海洋政策科学部・海事科学部・海事科学研究科	4
国際協力研究科	1



- 文学部・人文学研究科
- 国際人間科学部(グローバル文化学科)・国際文化学研究科
- 国際人間科学部(発達コミュニティ学科、環境共生学科、子ども教育学科)・人間発達環境学研究科
- 法学部・法学研究科
- 経営学部・経営学研究科
- 理学部・理学研究科
- 医学部(医学科、医療創成工学科)・医学研究科
- 工学部・工学研究科
- システム情報学部・システム情報学研究科
- 農学部・農学研究科
- 海洋政策科学部・海事科学部・海事科学研究科
- 国際協力研究科

Q2.学年等を選択してください。

学年等	人数
学部1年生	8
学部2年生	3
学部3年生	6
学部4年生	4
学部5年生	1
修士1年生	2
修士2年生	2
博士1年生	1
博士3年生	1
その他(修士研究生)	1

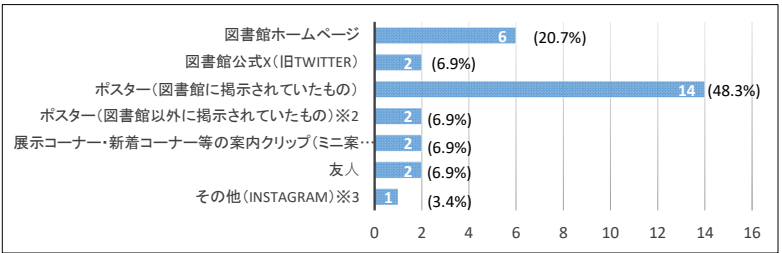


- 学部1年生
- 学部2年生
- 学部3年生
- 学部4年生
- 学部5年生
- 修士1年生
- 修士2年生
- 博士1年生
- 博士3年生
- その他(修士研究生)

Q3.「読書マラソン2025」を知ったきっかけを教えてください。※1

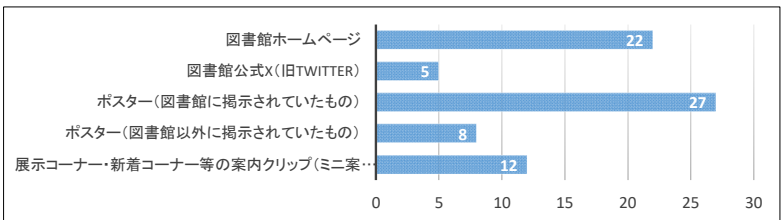
きっかけ	人数
図書館ホームページ	6
図書館公式X(旧Twitter)	2
ポスター(図書館に掲示されていたもの)	14
ポスター(図書館以外に掲示されていたもの)※2	2
展示コーナー・新着コーナー等の案内クリップ(ミニ案内)	2
友人	2
その他(Instagram)※3	1

※1 見本展示はアンケート公開後に実施されたため、Q3の選択肢には含まれていない。
(見本展示とは、国際・社系・人文・医学・海事・研究所の図書館で行った景品の展示のこと)
※2 ポスター(図書館以外に掲示されていたもの): 生協、ラーニングコモンズへ掲示を依頼。
※3 附属図書館公式のものはない。神戸大学公式Instagramで読書マラソンに関する投稿はあったが、その投稿を指しているのかは不明。



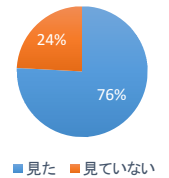
Q4.Q3.で回答されたものを含めて、今回ご覧になった読書マラソンの案内をすべて教えてください。(複数回答可)

ご覧になった案内	延べ人数
図書館ホームページ	22
図書館公式X(旧Twitter)	5
ポスター(図書館に掲示されていたもの)	27
ポスター(図書館以外に掲示されていたもの)	8
展示コーナー・新着コーナー等の案内クリップ(ミニ案内)	12

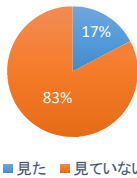


・アンケート回答者における各広報の認知度(回答者数:29人)

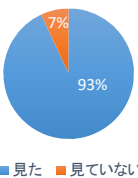
図書館ホームページ



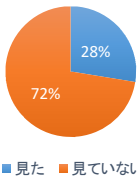
図書館公式X



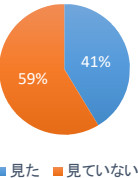
ポスター(図書館)



ポスター(図書館以外)

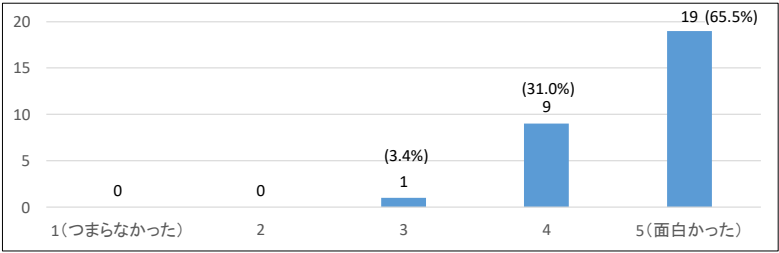


展示コーナー等



Q5.「読書マラソン2025」はいかがでしたか？

満足度	人数
1(つまらなかった)	0
2	0
3	1
4	9
5(面白かった)	19



Q6.その理由を教えてください。 ※Q6以下の自由記述欄の回答は原文のまま記載しています。

(Q5で「5」を選択)

- ・本を読む習慣ができたから。
- ・本を読むのは好きだが普段は忙しくてあまり読めていないので、こういった機会があると意識して読書の時間を作ることができるから。
- ・自分は博士課程なので当然読書をしている。しかし学部生さんは読書を始める良いキッカケとして、今回の企画を活用できると感じており、非常に優れた企画だと思っている。
- ・かわいいいうりこちゃんのグッズがいっぱいもらえて最高だったから
- ・非常に可愛らしいいうりこグッズが貰えるから
- ・景品が可愛かったのだ！
- ・本を読むいい機会になったし、感想書くことで文章力あげれそうだから、。
- ・景品が普通に欲しくなったので、本を読もうと思うきっかけになった。その中でたまたま見つけた本が面白かったため、本との出会いの場ができて良かった。
- ・景品が魅力的。クリアファイルもトートバッグもデザインがかわいい。感想
- ・登録が手軽！景品がかわいい！
- ・普段は読まない書籍を読むきっかけになった故。
- ・本を読むいいきっかけになったから
- ・本は好きだが、最近読む時間が減っていたので読もうと思えるきっかけになったから
- ・普段読まない本も読んでみようと思った。
- ・最近あまり本を読んでおらず、このイベントが読書をするための良いきっかけになったから。
- ・普段あんまり一般向けの本を読まないの、心理学やアート、インド等今まで馴染みがなかった分野に触れることができた。学生時代に専門分野を深めることも重要だが、人間的成長には幅広い分野の知識が必要だと強く感じた。
- ・普段よりも深く読めた気がしたから。
- ・本を読むごとに普段は手に入れないいうりこグッズを手に入れることができてよかった。

(Q5で「4」を選択)

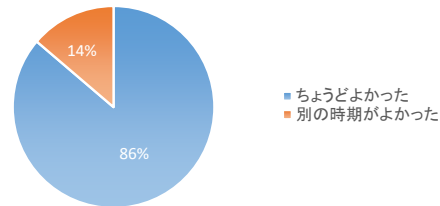
- ・読書を楽しみつつ景品がもらえるというのは楽しい企画だと毎年思っています。他の方の書評から次に読む本を選んでみるのも私にとってはこの時期ならではの。普段は手に取らないようなジャンルの良書と出会える機会になっています。
- ・グッズがかわいいから
- ・本を読んだ数が増えていくのが目に見えてワクワクしたから
- ・感想を書くことが面白かったです。
- ・景品がとてもかわいく、読書のきっかけになると感じ、また研究のために読んでいたものが主になってしまったが、これがある分、もう1冊という気持ちになれたから。
- ・得点がもらえるのがよかった。
- ・普段もらえないグッズがもらえるから。それが「ほしいがために本を読み出したが、本読むのが楽しくもって読もうと思ったし、読書の習慣ができた気がするから。
- ・「読書の感想」を書く欄で、自分が読んだ本の面白さを人に伝えられるように、文言を考えながら本を読み、感想を書くのが新鮮で面白かったから。

(Q5で「3」を選択)

- ・学術書を10冊も読むのが大変

Q7.実施時期(11月中旬～1月下旬)はいかがでしたか？

実施時期	人数
ちょうどよかった	25
別の時期がよかった	4

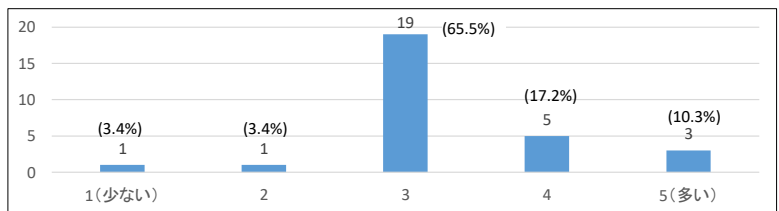


Q8.【Q7で「別の時期がよかった」を選択された場合】参加しやすい時期を教えてください。

- ・4～6月頃
- ・5月～7月、10月～12月
- ・夏休みとか
- ・9～11月ごろ？私が修了年度だからですが、1月は特に学業で忙しくなるので、少し早めの時期だと本を読む余裕がもっとあり、企画をより楽しめると思いました。

Q9.給水ポイント・ゴール到達に必要な読書冊数(3冊・6冊・10冊)はいかがでしたか？

景品交換の冊数	人数
1(少ない)	1
2	1
3	19
4	5
5(多い)	3

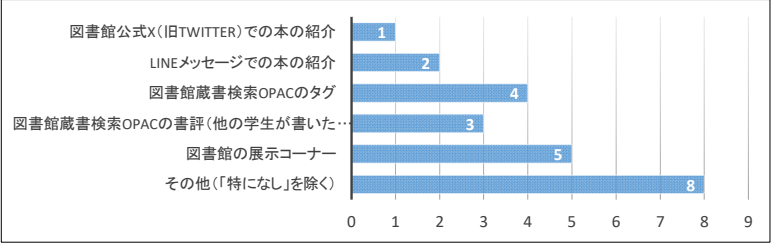


Q10.本を選ぶ際に参考にしたものがあれば教えてください。(複数回答可)

本を選ぶ際に参考にしたもの	延べ人数
図書館公式X(旧Twitter)での本の紹介	1
LINEメッセージでの本の紹介	2
図書館蔵書検索OPACのタグ	4
図書館蔵書検索OPACの書評(他の学生が書いた「読書のきろく」)	3
図書館の展示コーナー	5
その他(「特になし」を除く)	8

(その他内訳)

- ・書架で背表紙を眺めて
- ・本棚を直接見て選びました
- ・noteの記事
- ・自分の研究に必要な本
- ・先生のおすすめです。
- ・自分の読みたいもので選んだ
- ・図書館ホームページの司書さんおすすめ?の欄から
- ・儒烏風亭らでんの書庫らでん ※「儒烏風亭らでん」はバーチャルユーチューバー、「書庫らでん」はX上で“毎月推薦図書3冊をあげ、みんなで感想を共有する企画”。
(参考: <https://x.com/juufuuteiraden/status/1719659403807527241>, 2026年2月4日最終閲覧)
- ・特になし



Q11.今後、図書館で参加してみたいイベントがございましたら教えてください。

- ・うりこちゃんグッズをもらえるイベントであればどんなイベントでも参加したいです！でも、今回のように、遠隔キャンパス民でも気軽に参加できるイベントだとありがたいです！
- ・うりこがかわいい
- ・図書館のクイズラリー(一つの図書館で完結するものではなく、複数の図書館に渡って展開されるような大掛かりなもの)
- ・図書館ツアーなどいつも楽しく参加しています。3回生で景品を貰うのも悪いなとは思いつつも。
- ・こういう人にはこういう本がおすすめみたいな紹介(高校の時に読書本と言ういっばい泣きたい人向けとか本ごとにどういう時に読むか書いてそれを見えない袋に入れるというのがあった。選ぶわくわく感があるので手間はかかってしまうが、やってみてほしい。)
- ・今回のような本を読むことで何か景品がもらえるとか、ビブリオバトル的なイベントがあったらやってみたい
- ・しおり作成
- ・図書館のバックヤードツアーがあれば参加したい。
- ・特に無し。

Q12.その他ご要望、ご感想等ご自由にお聞かせください。

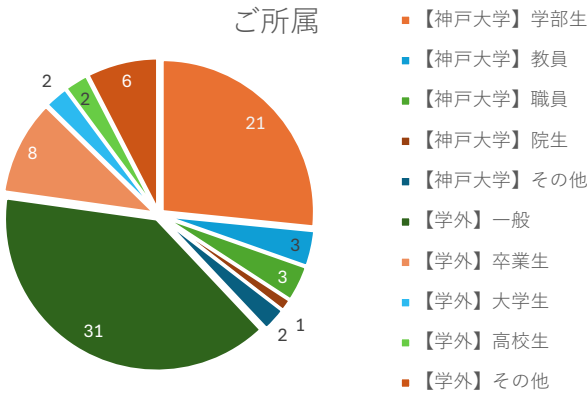
- ・1年間を通して読書マラソンがしたいです。
- ・やっぱり読書って楽しいですね！これからも本を読み続けようと思います！
- ・トートバッグ毎年可愛くて嬉しいです！
- ・またこのような読書機会に繋がるイベントを開催してください
- ・いつも大変お世話になっております。次回また同様のイベントがあれば参加したいと思います。次の企画の景品も楽しみにしています。
- ・楽しいイベントありがとうございます！
- ・本読むのが楽しいと再び感じるきっかけとなりました！！
- ・楽しかったです！
- ・うりこのグッズを生協とかで販売してほしい。ぬいぐるみほしい
- ・おそらく昨年度もこのイベントは開催されていたのだと思うが、その情報を知らなかったため参加できなかった。来年度も参加するようにしたい。
- ・図書館をよく利用するので、またたくさんイベントを開催していただきたいです！
- ・LINEで友達登録して、気軽に読書マラソンに参加できた点がよかった。
- ・特に無し。

令和7年度 資料展「江戸・上方の本屋さん」
(会期：令和7年10月21日～12月22日)
アンケート結果 (回答数：79 うち、会場で回収：53 Webで回答：14 菊地先生授業：12)

0 来場者について

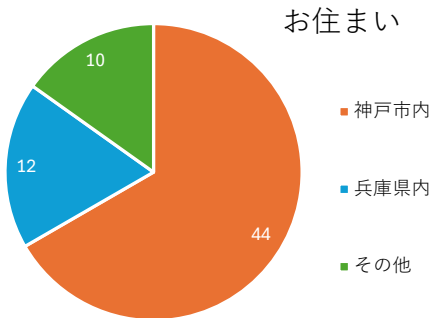
1 ご所属 回答計 79

	回答数	割合
神戸大学	30	38%
内 訳	学部生	21
	院 生	1
	教員（3名）、職員（3名）、その他（2名）	
学外	49	62%
内 訳	一般	31
	卒業生	8
	学生（高校生、大学生、院生）	4
	学外（その他）	6
	（その他内訳）小学生、中学生、学部生の親、社会人	



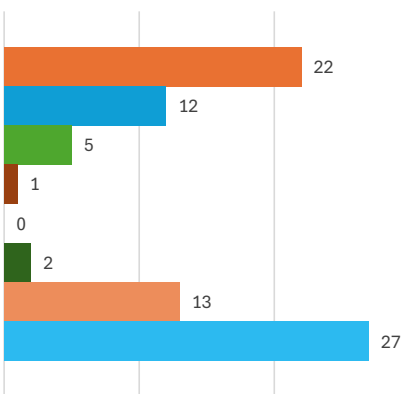
2 お住まい 回答計 66

	回答数	割合
神戸市内	44	67%
兵庫県内	12	18%
その他	10	15%
（その他内訳）大阪府、大阪府高石市、大阪府枚方市、京都府、滋賀県、福井県、愛媛県、札幌市		



3 この展示会があることを何でお知りになりましたか？（複数回答可） 回答計 78

	回答数	割合
ポスター	22	28%
チラシ	12	15%
図書館ホームページ	5	6%
神戸大学ホームページ	1	1%
X（ツイッター）	0	0%
ホームカミングデイ	2	3%
授業	13	17%
その他	27	35%
（その他ほか記述）家族（知人）から聞いた、新聞に載った図書館に来館して、通りがかりに看板を見て、トライやるウィーク、神大先生からの紹介、六甲祭、Garoon（学内グループウェア）		



- ポスター掲示場所
- ・海事図書館よこ
 - ・学内
 - ・図書館前
 - ・灘区役所
 - ・六甲学院
- チラシ配布場所
- ・兵庫区の図書館
 - ・実家（市内）
 - ・灘図書館
 - ・ジュンク堂三宮店

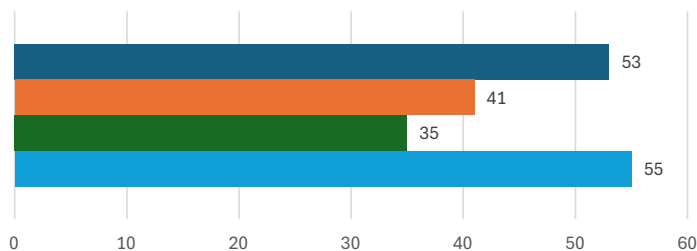
4 興味をひいたコーナーあるいは展示物（複数回答可）

4-1 コーナー

回答計

79

	回答数	割合
1. 江戸時代の本屋さんとは	53	67%
2. 京の本屋さん	41	52%
3. 大坂の本屋さん	35	44%
4. 江戸の本屋さん	55	70%



4-2 展示物（回答数2以上）

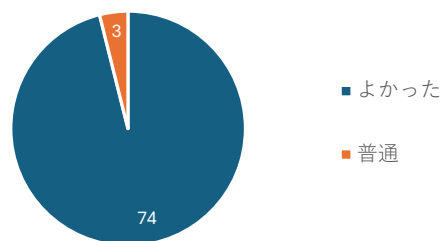
	回答数
解體新書	13
都名所圖會	6
一角纂考	4
修紫田舎源氏	4
江戸名所圖會	2
繪本通俗三國志	2
萬寶商賈往来	2

5 感想

回答計

77

	回答数	割合
よかった	74	96%
普通	3	4%



■実施結果 集計数値

() 内は1日あたりの平均値、[]内は令和6年度の数値

・会期中の開催日：61日[91日]

・学外者入館数（資料展覧学の入館申請の人数）：942名（15.44名）[1,169名(12.85名)]

うち六甲祭 708名

・ホームカミングデーでの見学者：55名

ホームカミングデー 40名、キャンパスツアー 15名

・建築ツアーでの見学者：3名

◎学外者見学総数 1,000名（16.39名）[1,296名(14.24名)]

・学内者の団体見学（授業等）

人文・菊地先生授業 13名

地域歴史遺産保全活用基礎論（人文・井上舞先生） 12名

計 25名

・目録配布枚数（展示会場での配布数） 206枚（3.38枚）

・アンケート回答人数 79名（1.30名）[145名（1.59名）]

アンケート（紙）：53名

所属 神戸大学 14名 学外 39名

アンケート（Web）：14名

所属 神戸大学 4名 学外 10名

アンケート（授業）：12名

「図書館冒険の旅」
参加者アンケート集計結果

集計: 選択項目 回答数: 18名

クイズの難易度はどうでしたか？	回答数	割合
1.難しかった	14	77.8%
2.まあまあ難しかった	4	22.2%
3.普通	0	0.0%
3.まあまあ易しかった	0	0.0%
4.易しかった	0	0.0%

集計: 自由記述 回答人数(延べ数): 14

分類の内容	回答数	割合*
1.全体的満足度・イベント評価	7	50%
2.学び・図書館資源への気づき	2	14%
3.体験性・難易度への評価	3	21%
4.改善要望・運営面への指摘	2	14%

*回答数に占める割合

附属図書館に関する自己点検・評価の実施について

「神戸大学における内部質保証の基本的な考え方」及び「神戸大学内部質保証指針」に基づき、附属図書館の施設・設備については毎年自己点検・評価を実施する。附属図書館においては、附属図書館における内部質保証実施要項（以下、実施要項）及び神戸大学附属図書館評価委員会設置要項に基づき附属図書館評価委員会が行い「令和 6 年度神戸大学附属図書館年次報告」を作成、それをもって自己点検・評価を実施し、その結果を「令和 6 年度神戸大学附属図書館年次報告」の概要とした。

実施方法

- ・令和 7 年度第 1 回附属図書館評価委員会（令和 7 年 8 月 20 日～9 月 5 日 メール審議開催）にて「令和 6 年度神戸大学附属図書館年次報告（案）」により自己点検・評価を実施
- ・令和 7 年度第 2 回附属図書館運営委員会（令和 7 年 9 月 11 日～9 月 26 日 メール審議開催）にて「令和 6 年度神戸大学附属図書館年次報告（案）」において自己点検・評価結果を承認（実施要項第 4 条第 1 項）。
- ・第 4 回附属図書館運営委員会（令和 7 年 11 月 18 日）にて改善事項の審議を実施（実施要項第 4 条第 2 項）。

附属図書館に関する自己点検・評価結果は、以下のとおりである。

【評価事項①】

- ・附属図書館において、教育研究上必要な資料が利用可能な状態に整備され、有効に活用されていること。

【評価結果①】

- ・学生用資料整備：

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。令和 6 年度の学生用資料費予算は 39,045 千円で、前年度（40,000 千円）から運営費交付金の削減率に合わせた減額を行った。一方で、外部資金であるネーミングライツ料収入の 1/4（300 千円）を学生用資料費に充て、学生用資料費の確保を図った。

前年度である令和 5 年度に整備した学生用図書の選定評価を従来どおり実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことを確認した。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、予算規模の維持に向けた取り組みと、より効率的な資料の収集との両面から適切な資料整備を行う必要がある。また、冊子と電子ブックの両方に配慮してコンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するような資料整備を進める必要がある。

- ・研究用資料の整備：

教育研究基盤資料整備費について、令和 6 年度は前年度の契約規模を維持することができたが、価格高騰と円安の影響により総額 418,957 千円と、前年度から 15,993 千円増となった。令和 6 年 5 月 9 日の部局長会議で令和 8 年度以降の整備方針を見直すことが一旦決定されたが、一部タイトルの契約期間の都合から令和 7 年 2 月 13 日の部局長会議で 1 年延期して令和 9 年度を対象に見直しを行うことが改めて決定された。本年度に実施した学内アンケートの結果を受けて、附属図書館運営委員会を中心に協議を進めている。

附属図書館運営経費は、令和 6 年度当初予算は 246,860 千円で前年度から 4,014 千円減（1.6%減）となった。附属図書館図書資料費の確保が困難となっているが、令和 6 年度は前年度から 2,223 千円減の 67,741 千円の当初予算を確保した。しかしながら、資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約 1 割とし、前年度から 1,000 千円減となったものの 24,000 千円を確保した。近年は予算抑制と円安の影響を受けて購入タイトルの見直しを進めており、ILL 受付件数も減少している。

今後も物価の高騰や雇用単価の値上げ等により経費負担が増える見込みのため、引き続き資料費の見直しを検討する必要がある。

・ 電子的情報基盤の整備：

令和 6 年度末における電子ジャーナル購読数は 38,267 タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約 150 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は前年度の規模を維持している。

円安や原価の上昇によって令和 7 年度の所要見込もタイトル減少の中で高水準を維持しており、今後の購読内容の検討は喫緊の課題である。

一方で、一部の出版社から「転換契約」という新しい契約形態が提案され、本学は、国内 10 大学によるパイロットプロジェクトに参加して令和 5 年 1 月から Springer Nature 社と、令和 6 年 4 月から Elsevier 社と転換契約を開始している。

・ 開館サービス：

令和 6 年度の時間外開館については、予算上の制約により、前年 5 月以降と同様に、実施時間を全体的に短縮して実施した。入館者数は前年度の約 1.1 倍だった。前年 4 月にリニューアルオープンした自然科学系図書館は引き続き高水準で、平日通常開館時間帯における 1 日あたりの入館者数はコロナ禍前の令和元年度と比較しても約 1.65 倍である。ただし図書館全体としては、平日通常開館時間帯の 1 日あたりの入館者数が令和元年度の 76%程度であることが示すように、平日夜間と土曜・日曜開館の実施規模の縮小に関わりなく、コロナ禍以前のレベルには入館者数が回復していないのが現状である。また令和 2 年 4 月 8 日以降休止していた医学分館の無人開館を、5 月 1 日から再開した。

・ 資料提供サービスと利用促進：

学部生・院生への貸出冊数は 275,731 冊で、前年度比約 1.2 倍、1 人あたりの貸出冊数共々、過去 20 年のうちでも最大となった。一日あたりの入館者数が前年度とほぼ同じであるのと比べても、貸出冊数の増加は注目される。利用促進においては、前年度の「読書マラソン」に代えて、参加者が図書館の開架書架のうちひと棚ずつを借り切り、附属図書館の蔵書や POP 等を期間限定で展示できるイベントである「シェア本棚」を初めて開催した。貸出冊数も一定の効果は見られ、利用促進という目的を果たしていると言える。

・ 資料の保存：

整理作業促進のため雑誌の保存館リストの刷新及び製本雑誌廃棄指針等簡略版を作成し、それらに基づき資料の除籍を実施し書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。また廃棄対象の調査や共同利用書庫移管対象の調査を自動化するためのベースとなるプログラムを完成させ、海科学分館から自然科学系図書館共同利用書庫への資料移管を行った。順次他館室での作業に着手することで、附属図書館全体における体系的な資料整備を進めている。また、除湿機の設置と適

切な運転、カビ発生の有無の確認などを日常的に実施し、書庫環境を良好に維持することに努めているが、被害発生時に速やかに対処できるよう、職員のカビ対策の知識及びクリーニング技術の習得は不可欠である。また、突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなどに備え、資料保存の適切な環境整備になお一層努めていく必要がある。

【評価事項②】

- ・附属図書館の施設・設備の整備が適切に行われていること。

【評価結果②】

- ・令和4年度までに、人文科学図書館・総合・国際文化学図書館・社会科学系図書館・保健科学図書室に、学修支援機能の強化を目的としたラーニングコモンズ（LC）を設置。令和5年度には自然科学系図書館に、LCに加え、資料収容力強化を目的とした共同利用書庫の増設を完了した。自然科学系図書館の入館者数は改修前に比べ大幅に増加、共創スペースとして設置した各施設での大学プロジェクト等での利用数は16件にのぼり、共創スペースとしての役割を果たしていると評価できる。また、空調機や除湿機の修繕・更新工事を計7件行い、各館室の閲覧室や書庫の環境改善に努めた。

・システムについては、学内予算措置により、人文科学図書館と保健科学図書室の入退館管理システム及び自動貸出返却装置1台の更新を実施した。そのほかオープンアクセス加速化事業の財源により、自動貸出返却装置や書庫入退館システム、無線AP等の整備、図書館システム（機関リポジトリ）の改修を行うことができた。図書館システムは令和4年9月のリプレイス以降概ね問題なく稼働しており、今後もシステムの安定した運用の維持と、改善を要する点への対応が課題である。また、令和7年度中に予定されている次期キャンパス情報ネットワークシステム（KHAN2025）への更新、令和8年度中に予定されている次期会計業務システムへの更新について、円滑に移行できるよう引き続き対応する必要がある。なお図書館ウェブサイトについては、実施に係る予算要求が採択され学内予算が措置されたことに伴い、9年ぶりとなるリニューアルを次年度に予定している。

・令和6年度、外部資金等による収入として、ネーミングライツ2社、「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業委託業務」、オープンアクセス加速化事業、学術情報流通活性化経費、国立大学経営改革促進事業などを得ることができた。今後も外部資金等の獲得に努めたい。

【評価事項③】

- ・附属図書館の活動を展開するために必要な職員が配置され、適切に活用されていること。

【評価結果③】

- ・令和7年3月時点で、附属図書館事務部は2課2グループ11係URAを含めて、定員48名、非常勤職員35名の83名であった。経済経営研究所図書係に定員3名、大学文書史料室に定員3名、非常勤職員3名を配置している。研修及び講演会はハイブリッドまたはオンライン開催が主流となっており、場所・時間の制約なく参加できるという利点から、令和6年度も積極的に職員が参加した。また、対面開催が再開した研修も増加したため、特に専門主題に関わる研修を中心に職員派遣を行った。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。業務改善は、特に時間外開館要員の学生アルバイトの勤務体制の見直しや館内連絡手段の見直しをおこなったことは業務の効率化に大きく貢献している。今後も、継続検討となった課題に新規事項も加え、引き続き取り組んでいく。

対応計画の実施状況一覧【附属図書館】

※「進捗状況」欄の色分けについて

赤	検討中
黄	対応中
青	対応済

担当 委員会	計画の 実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	令和7年度			
				令和7年12月（評価委員会） 令和7年12月（教育研究評議会）		令和8年4月（評価委員会） 令和8年4月（教育研究評議会）	
				進捗状 況	①対応計画（改善方案） ②進捗状況 ③今後の予定	進捗状 況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定
附属図書 館運営委 員会	附属図書 館事務部	電子ジャーナルの価格上昇及び円安の影響により電子ジャーナル購読数の維持が厳しくなっているなか、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画の立案・進捗を目指す。（電子的情報基盤の整備に関する事項）	令和4年 11月	対応中	①令和6年度に電子ジャーナルおよびデータベースの購読に関するアンケートを全学の教職員を対象に実施。令和6～8年度に見直しを行い、令和9年度新制度での全学利用可能となる電子ジャーナルおよびデータベースの利用開始。 ②令和6（2024）年の教育研究基盤資料については、第4期前半の教育研究基盤資料整備費の上限（令和2年10月部局長会議承認）を上回る金額となってしまったが、円安の影響によるものであるため、大学執行部の了承を得て令和6年度事業経費として配分された。第4期中期計画後半（2025-2027）の教育研究基盤資料の整備については、円安や資料の価格高騰により上限の見込が立たないことから、毎年必要額を要求することとなった。令和8（2026）年購読分の見直しに向けて令和6年8月～9月に全学的にアンケート調査を実施し、令和6年12月17日の附属図書館運営委員会にて検討案を提案して以降、その後の運営委員会で継続協議となっている。なお、購読誌の契約の都合や、各部局から見直しには十分な時間が必要であること、見直しに伴う部局購読タイトルの入替のための時間を確保すべきであること、などの意見が寄せられたことから、教育研究基盤資料の見直しの適用を1年延期し、令和9（2027）年購読分を対象とすることで令和7年2月13日の部局長会議で報告、附属図書館運営委員会にも報告した。その後、大学執行部との意見交換を行い、さらに検討を行っている。 令和7年11月現在、電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約（転換契約）は2社と締結している。 ③引き続き教育研究基盤資料の見直しを行い、令和9（2027）年購読分から適用する予定である。	対応中	②令和6(2024)年の教育研究基盤資料については、第4期前半の教育研究基盤資料整備費の上限（令和2年10月部局長会議承認）を上回る金額となってしまったが、円安の影響によるものであるため、大学執行部の了承を得て令和6年度事業経費として配分された。第4期中期計画後半（2025-2027）の教育研究基盤資料の整備については、円安や資料の価格高騰により上限の見込が立たないことから、毎年必要額を要求することとなった。 令和8（2026）年購読分の見直しに向けて令和6年8月～9月に全学的にアンケート調査を実施し、令和6年12月17日の附属図書館運営委員会にて検討案を提案して以降、その後の運営委員会で継続協議となっている。なお、購読誌の契約の都合や、各部局から見直しには十分な時間が必要であること、見直しに伴う部局購読タイトルの入替のための時間を確保すべきであること、などの意見が寄せられたことから、教育研究基盤資料の見直しの適用を1年延期し、令和9（2027）年購読分を対象とすることで令和7年2月13日の部局長会議で報告、附属図書館運営委員会にも報告した。その後、大学執行部との意見交換を行い、さらに検討を行っている。 令和7年11月現在、電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約（転換契約）は2社と締結している。 ③引き続き令和10（2028）年度に向けて協議を行う予定である。
附属図書 館運営委 員会	附属図書 館事務部	資料収容力強化を目的とした自然科学系図書館の増築により、共同利用書庫の新設にあわせ、附属図書館全体における体系的な資料整備を進める。 （資料の保存に関する事項）	令和4年 11月	対応中	①令和5年3月竣工の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に則して附属図書館全体での調査を行い、各館室ごとの候補リストおよび資料移動計画を作成し、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう順次資料移動等を行う。共同利用書庫にて保存する製本雑誌については、各館室重複分の廃棄を進め、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。 ②令和4年度に自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び方針を策定し、使用するスペースと収容冊数の確認を行った。自然科学系図書館は令和5年3月末に竣工し、改修工事に関わる資料等の引越し作業が終了した。図書館内資料の配架場所が確定したことにより、共同利用書庫として使用するスペースと収容冊数が確定した。令和6年度は、共同利用書庫への資料移管調査のため重複調査用のプログラムを作成し、候補リストを作成、令和7年3月までに資料移動の第1回目として、海事科学分館から製本雑誌2,158冊を移管した。また、共同利用書庫の運用方針を作成した。令和7年度中に総合・国際文化学図書館および人文科学図書館の該当資料の移管を実施することで準備を進めている。令和7年10月に共同利用書庫の運用を開始し、提供が可能となっている資料から利用に供している。 ③製本雑誌については、令和7年度中に総合・国際文化学図書館および人文科学図書館から共同利用書庫への移管を行う予定である。	対応中	②令和4年度に自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び方針を策定し、使用するスペースと収容冊数の確認を行った。自然科学系図書館は令和5年3月末に竣工し、改修工事に関わる資料等の引越し作業が終了した。図書館内資料の配架場所が確定したことにより、共同利用書庫として使用するスペースと収容冊数が確定した。 令和6年度は、共同利用書庫への資料移管調査のため重複調査用のプログラムを作成し、候補リストを作成、令和7年3月までに資料移動の第1回目として、海事科学分館から製本雑誌2,158冊を移管した。また、共同利用書庫の運用方針を作成した。 令和7年度中に総合・国際文化学図書館および人文科学図書館の該当資料の移管を実施することで準備を進めている。令和7年10月に共同利用書庫の運用を開始し、提供が可能となっている資料から利用に供している。 ③製本雑誌については、令和8年度には人間科学図書館から共同利用書庫への移管を行う予定である。

1

2

対応計画の実施状況一覧【附属図書館】

※「進捗状況」欄の色分けについて

赤	検討中
黄	対応中
青	対応済

担当 委員会	計画の 実施主体	改善・向上が必要とされた事項（課題）	年月	令和7年度			
				令和7年12月（評価委員会） 令和7年12月（教育研究評議会）		令和8年4月（評価委員会） 令和8年4月（教育研究評議会）	
				進捗状 況	①対応計画（改善方案） ②進捗状況 ③今後の予定	進捗状 況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定
3 附属図書 館運営委 員会	附属図書 館事務部	書庫内にて資料を保存するための適切な 環境を整備する （資料の保存に関する事項）	令和6年 10月	対応中	①令和6年度図書館環境整備WGを発足、各館室の書庫保存 環境整備のための活動として、継続的に書庫内の温湿度を 計測・記録および書庫内カビ調査を実施する。また、湿度 が高くカビ等の被害が予測される箇所には、除湿機を設置 する。 ②令和6年6月から図書館環境整備WGの活動を開始し、各 館室の書庫内環境を把握するため、温湿度を計測するデー タロガーの設置および書庫内カビ調査を実施。湿度が高く 緊急性の高い場所から順次除湿機を設置。令和6年9月～10 月に各館室書庫内のLEDライト照射による目視でのカビ調 査等を実施。程度の差があるがどの館室でもカビの被害は 発生しており、この調査結果をもとに令和6年12月～令和7 年1月に専門業者の現地調査を行い、カビ被害の程度や環境 整備に関する助言を受けた。また、業者による講習会を開 催し、WGメンバーを中心にカビ対策の知識習得と業者が 使用している装備や清掃用具を用いてのクリーニングの実 技講習を行った。令和7年3月までに、カビ被害が基大で あった資料約800冊は業者によるクリーニングを実施、別 の800冊は不用と判断し廃棄した。また、全館室でカビ清 掃のための専用掃除機、空気清浄機を導入、クリーニング 用品を揃えた。さらに、除湿機4台を設置した。クリーニ ングが有効であることから、日常的に専用掃除機やクリー ニング用品を用いて、資料ならびに書庫内の清掃を実施し ている。さらなる書庫環境改善のため、除湿機設置などの 営繕要求を行っている。 ③書庫環境改善のため、日常的に専用掃除機やクリー ニング用品を用いて、資料ならびに書庫内の清掃を実施する 予定である。また、さらなる書庫環境改善のため、令和8年度 営繕要求として除湿機設置などの要求を行っている。	対応中	②令和6年6月から図書館環境整備WGの活動を開始し、各 館室の書庫内環境を把握するため、温湿度を計測するデー タロガーの設置および書庫内カビ調査を実施。湿度が高く 緊急性の高い場所から順次除湿機を設置。 令和6年9月～10月に各館室書庫内のLEDライト照射による 目視でのカビ調査等を実施。程度の差があるがどの館室で もカビの被害は発生しており、この調査結果をもとに令和6 年12月～令和7年1月に専門業者の現地調査を行い、カビ被 害の程度や環境整備に関する助言を受けた。 また、業者による講習会を開催し、WGメンバーを中心 にカビ対策の知識習得と業者が使用している装備や清掃用 具を用いてのクリーニングの実技講習を行った。 令和7年3月までに、カビ被害が基大であった資料約800冊 は業者によるクリーニングを実施、別の800冊は不用と判 断し廃棄した。また、全館室でカビ清掃のための専用掃除 機、空気清浄機を導入、クリーニング用品を揃えた。さら に、除湿機4台を設置した。クリーニングが有効であること から、日常的に専用掃除機やクリーニング用品を用いて、 資料ならびに書庫内の清掃を実施している。 さらなる書庫環境改善のため、除湿機設置などの営繕要求 を行っている。 ③書庫環境改善のため、日常的に専用掃除機やクリー ニング用品を用いて、資料ならびに書庫内の清掃を実施する 予定である。また、さらなる書庫環境改善のため、令和8年度 営繕要求として除湿機設置などの要求を行っている。
4 附属図書 館運営委 員会	附属図書 館事務部	図書館ウェブサイトのリニューアルを行 い、DXへの対応、アクセシビリティの改 善・向上をはかる。（附属図書館の施 設・設備の整備に関すること）	令和7年 11月	対応中	①図書館アウトリーチWGを中心に、令和7年度中に図書 館ウェブサイトのリニューアルを行い、使いやすいWebサ イト構成（UI/UX）、利便性、アクセシビリティの改善・ 向上、DXへの対応を図る。令和8年度当初に公開する。 ②令和7年度学内予算が措置されたことから、改善点を踏ま えた仕様書の策定、図書館ウェブサイトの改修デザイン案 の作成・確認などリニューアル作業を実施中。 ③令和8年4月にリニューアルした図書館ウェブサイトを公 開する予定である。	対応済	②令和7年度学内予算が措置されたことから、改善点を踏ま えた仕様書の策定、図書館ウェブサイトの改修デザイン案 の作成・確認などリニューアル作業を実施中。 ③附属図書館内で納品されたリニューアル版の修正を行 い、できるだけ早い時期かつ学生への影響が少ない時期で ある令和8年9月1日に公開の予定である。

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた 対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	附属図書館運営委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題）	（記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）			
確認年月	令和 4 年 11 月			
対応計画の実施主体	附属図書館事務部			
課題の内容	電子ジャーナルの価格上昇及び円安の影響により電子ジャーナル購読数の維持が厳しくなっているなか、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画の立案・進行を目指す。（電子的情報基盤の整備に関する事項）			
課題とした根拠資料等	令和 3 年度神戸大学附属図書館年次報告			
対応計画 （改善方策） （時期も記載してください）	令和 6 年度に電子ジャーナルおよびデータベースの購読に関するアンケートを全学の教職員を対象に実施。令和 6～8 年度に見直しを行い、令和 9 年度新制度での全学利用可能となる電子ジャーナルおよびデータベースの利用開始。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 5 年度以前	令和 6 年度	令和 7 年度 （自己点検・評価時）	令和 7 年度 （進捗状況確認時）
	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☒ 対応中	☒ 対応中	☒ 対応中	☒ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 6 (2024) 年の教育研究基盤資料については、第 4 期前半の教育研究基盤資料整備費の上限（令和 2 年 10 月部局長会議承認）を上回る金額となってしまうが、円安の影響によるものであるため、大学執行部の了承を得て令和 6 年度事業経費として配分された。第 4 期中期計画後半（2025-2027）の教育研究基盤資料の整備については、円安や資料の価格高騰により上限の見込が立たないことから、毎年必要額を要求することとなった。 令和 8（2026）年購読分の見直しに向けて令和 6 年 8 月～9 月に全学的にアンケート調査を実施し、令和 6 年 12 月 17 日の附属図書館運営委員会にて検討案を提案して以降、その後の運営委員会で継続協議となっている。なお、購読誌の契約の都合や、各部局から見直しには十分な時間が必要であること、見直しに伴う部局購読タイトルの入替のための時間を確保すべきであること、などの意見が寄せられたことから、教育研究基盤資料の見直しの適用を 1 年延期し、令和 9（2027）年購読分を対象とすることで令和 7 年 2 月 13 日の部局長会議で報告、附属図書館運営委員会にも報告した。その後、大学執行部との意見交換を行い、さらに検討を行っている。 令和 7 年 11 月現在、電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約（転換契約）は 2 社と締結している。			
（「解決」の場合） 判断根拠	※課題に対するアウトカムの状況を記載してください。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	学長及び担当理事と附属図書館による協議の結果、現在「全学利用」としているパッケージの維持が望ましいこと、現在の「特定主題」のように何等かの部局負担の枠組みは必要であること、契約に伴う価格変動分を含め可能な限り大学として対応すること、所要総額が拠出可能か毎年確認が必要であることの結論を得たことから、令和 7 年第 4 回附属図書館運営委員会にて令和 9 年度については令和 8 年度の購読タイトルの維持と令和 10 年度に向けては引き続き協議を行うことの提案があり、第 5 回附属図書館運営委員会におけるメール審議にて、各部局の意向を確認した結果、承認された。			
今後の予定 （改善方策） （時期も記載してください） ※「解決」の場合記載不要	引き続き令和 10（2028）年度に向けて協議を行う予定である。			

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	附属図書館運営委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題） （記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）				
確認年月	令和 4 年 11 月			
対応計画の実施主体	附属図書館事務部			
課題の内容	資料収容力強化を目的とした自然科学系図書館の増築により、共同利用書庫の新設にあわせ、附属図書館全体における体系的な資料整備を進める。（資料の保存に関する事項）			
課題とした根拠資料等	令和 3 年度神戸大学附属図書館年次報告			
対応計画 （改善方策） （時期も記載してください）	令和 5 年 3 月竣工の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に則して附属図書館全体での調査を行い、各館室ごとの候補リストおよび資料移動計画を作成し、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう順次資料移動等を行う。共同利用書庫にて保存する製本雑誌については、各館室重複分の廃棄を進め、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 5 年度以前	令和 6 年度	令和 7 年度 （自己点検・評価時）	令和 7 年度 （進捗状況確認時）
	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☒ 対応中	☒ 対応中	☒ 対応中	☒ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 4 年度に自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び方針を策定し、使用するスペースと収容冊数の確認を行った。自然科学系図書館は令和 5 年 3 月末に竣工し、改修工事に関わる資料等の引越し作業が終了した。図書館内資料の配架場所が確定したことにより、共同利用書庫として使用するスペースと収容冊数が確定した。 令和 6 年度は、共同利用書庫への資料移管調査のため重複調査用のプログラムを作成し、候補リストを作成、令和 7 年 3 月までに資料移動の第 1 回目として、海事科学分館から製本雑誌 2,158 冊を移管した。また、共同利用書庫の運用方針を作成した。 令和 7 年度中に総合・国際文化学図書館および人文科学図書館の該当資料の移管を実施することで準備を進めている。 令和 7 年 10 月に共同利用書庫の運用を開始し、提供が可能となっている資料から利用に供している。			
（「解決」の場合） 判断根拠	※課題に対するアウトカムの状況を記載してください。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和 7 年度末までに総合・国際文化学図書館及び人文科学図書館から約 6,300 冊の製本雑誌を移管した。			
今後の予定 （改善方策） （時期も記載してください） ※「解決」の場合記載不要	製本雑誌については、令和 8 年度には人間科学図書館から共同利用書庫への移管を行う予定である。			

教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた 対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	附属図書館運営委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題） （記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p.37-43 をご参照ください）				
確認年月	令和 6 年 10 月			
対応計画の実施主体	附属図書館事務部			
課題の内容	書庫内にて資料を保存するための適切な環境を整備する （資料の保存に関する事項）			
課題とした根拠資料等	令和 5 年度神戸大学附属図書館年次報告			
対応計画 （改善方針） （時期も記載してください）	令和 6 年度図書館環境整備 WG を発足、各館室の書庫保存環境整備のための活動として、継続的に書庫内の温湿度を計測・記録および書庫内カビ調査を実施する。また、湿度が高くカビ等の被害が予測される箇所には、除湿機を設置する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にしてください。	令和 5 年度以前	令和 6 年度	令和 7 年度 （自己点検・評価時）	令和 7 年度 （進捗状況確認時）
	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☐ 対応中	☒ 対応中	☒ 対応中	☒ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 6 年 6 月から図書館環境整備 WG の活動を開始し、各館室の書庫内環境を把握するため、温湿度を計測するデータロガーの設置および書庫内カビ調査を実施。湿度が高く緊急性の高い場所から順次除湿機を設置。 令和 6 年 9 月～10 月に各館室書庫内の LED ライト照射による目視でのカビ調査等を実施。程度の差があるがどの館室でもカビの被害は発生しており、この調査結果をもとに令和 6 年 12 月～令和 7 年 1 月に専門業者の現地調査を行い、カビ被害の程度や環境整備に関する助言を受けた。 また、業者による講習会を開催し、WG メンバーを中心にカビ対策の知識習得と業者が使用している装備や清掃用具を用いてのクリーニングの実技講習を行った。 令和 7 年 3 月までに、カビ被害が甚大であった資料約 800 冊は業者によるクリーニングを実施、別の 800 冊は不用と判断し廃棄した。また、全館室でカビ清掃のための専用掃除機、空気清浄機を導入、クリーニング用品を揃えた。さらに、除湿機 4 台を設置した。クリーニングが有効であることから、日常的に専用掃除機やクリーニング用品を用いて、資料ならびに書庫内の清掃を実施している。 さらなる書庫環境改善のため、除湿機設置などの営繕要求を行っている。			
（「解決」の場合） 判断根拠	※課題に対するアウトカムの状況を記載してください。			
自己点検・評価時からの具体的な進捗状況	令和 7 年度はマイクロ室に除湿機 4 台を設置、また書庫等の除湿機 6 台を更新した。図書や書庫のクリーニングは、令和 6 年度の専門業者による現地調査の結果を踏まえて、優先順位の高い場所から業者によるクリーニングを行い、あわせて館員によるクリーニングも行っている。			
今後の予定 （改善方針） （時期も記載してください） ※「解決」の場合記載不要	書庫環境改善のため、日常的に専用掃除機やクリーニング用品を用いて、資料ならびに書庫内の清掃を実施する予定である。また、さらなる書庫環境改善のため、令和 8 年度営繕要求として除湿機設置などの要求を行っている。			

**教育課程、施設及び設備、学生支援、学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応計画（改善・向上が必要と確認された事項（課題）への対応計画）**

※ 「改善・向上が必要と確認された事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成ください。

※ 記載いただいた対応計画等については、自己評価書（別紙様式 2-3-1）に盛り込む予定です。

① 担当委員会	附属図書館運営委員会			
② 改善・向上が必要と確認された事項（課題） （記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」p. 37-43 をご参照ください）				
確認年月	令和 7 年 11 月			
対応計画の実施主体	附属図書館事務部			
課題の内容	図書館ウェブサイトのリニューアルを行い、DX への対応、アクセシビリティの改善・向上をはかる。（附属図書館の施設・設備の整備に関すること）			
課題とした根拠資料等	令和 6 年度神戸大学附属図書館年次報告			
対応計画 （改善方策） （時期も記載してください）	図書館アウトリーチ WG を中心に、令和 7 年度中に図書館ウェブサイトのリニューアルを行い、使いやすい Web サイト構成（UI/UX）、利便性、アクセシビリティの改善・向上、DX への対応を図る。令和 8 年度当初に公開する。			
進捗状況 ※該当する項目を☑にして ください。	令和 5 年度以前	令和 6 年度	令和 7 年度 （自己点検・評価時）	令和 7 年度 （進捗状況確認時）
	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中	☐ 検討中
	☐ 対応中	☐ 対応中	☒ 対応中	☐ 対応中
	☐ 対応済	☐ 対応済	☐ 対応済	☒ 対応済
	※上記の進捗状況について具体的に記載してください。 令和 7 年度学内予算が措置されたことから、改善点を踏まえた仕様書の策定、図書館ウェブサイトの改修デザイン案の作成・確認などリニューアル作業を実施中。			
（「解決」の場合） 判断根拠	※課題に対するアウトカム状況を記載してください。			
自己点検・評価時からの 具体的な進捗状況	仕様書に基づき業者に発注し、令和 7 年度末までにリニューアル版が納品されることとなっている。			
今後の予定 （改善方策） （時期も記載してください） ※「解決」の場合記載不要	附属図書館内で納品されたリニューアル版の修正を行い、できるだけ早い時期かつ学生への影響が少ない時期である令和 8 年 9 月 1 日に公開の予定である。			

附属図書館蔵書・受入等の現況（令和7年度）

			総合・国際		社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
蔵書	蔵書数（冊）		491,369		1,422,775	441,896	333,496	331,117	268,741	158,492	59,095	213,531	3,720,512
	和洋区分	和漢書	354,142		689,364	222,169	217,697	257,801	121,523	75,816	51,727	163,878	2,154,117
		洋書	137,227		733,411	219,727	115,799	73,316	147,218	82,676	7,368	49,653	1,566,395
	遊及状況	入力済	475,498		1,415,147	333,958	312,068	288,186	202,342	112,893	58,624	213,531	3,412,247
		未入力	15,871		7,628	107,938	21,428	42,931	66,399	45,599	471	0	308,265
	所蔵雑誌数（タイトル数）		2,063		18,513	4,590	3,737	3,459	6,812	3,040	960	2,052	45,226
和洋区分	国内雑誌	1,329		6,838	1,661	2,850	2,386	3,124	1,583	763	1,302	21,836	
	外国雑誌	734		11,675	2,929	887	1,073	3,688	1,457	197	750	23,390	
図書受入	受入図書数（冊）		2,071	1,733	4,832	8,217	4,262	1,989	752	961	802	1,010	26,629
	和洋区分	和漢書	2,038	1,219	3,800	4,031	3,717	1,811	713	868	787	896	19,880
		洋書	33	514	1,032	4,186	545	178	39	93	15	114	6,749
	取得手段	購入（一般財源）	1,960	826	2,340	1,230	1,017	1,241	175	566	428	668	10,451
		補助金による購入	5	680	1,337	278	1,647	284	18	84	106	53	4,492
		一般寄贈	0	203	452	272	1,248	358	504	202	182	173	3,594
		再受入	76	0	110	5	27	1	1	0	1	1	222
		製本編入	30	24	593	140	112	105	54	109	85	80	1,332
		所属換	0	0	0	6,292	211	0	0	0	0	35	6,538
	取得目的	学生用図書	1,825	258	1,608	976	365	456	35	530	380	614	7,047
		図書館備付	237	677	1,697	6,477	1,624	1,081	692	334	311	268	13,398
		研究室備付	9	798	1,527	764	2,273	452	25	97	111	93	6,149
	除却・移譲等による減（冊）		7,741		7,535	1,320	3,333	6,584	1,006	640	274	24,381	52,814
	和洋区分	和漢書	4,669		5,669	1,132	1,806	5,818	384	569	268	19,982	40,297
		洋書	3,072		1,866	188	1,527	766	622	71	6	4,399	12,517
	所属換による減（冊）		3,502		0	0	3,036	0	0	0	0	0	6,538
	和洋区分	和漢書	1,318		0	0	1,399	0	0	0	0	0	2,717
		洋書	2,184		0	0	1,637	0	0	0	0	0	3,821
	年間増加数（冊）		-7,439		-2,703	6,897	-2,107	-4,595	-254	321	528	-23,371	-32,723
	和洋区分	和漢書	-2,730		-1,869	2,899	512	-4,007	329	299	519	-19,086	-23,134
		洋書	-4,709		-834	3,998	-2,619	-588	-583	22	9	-4,285	-9,589
雑誌受入	受入雑誌数（タイトル数）		70	30	710	176	596	113	411	306	79	183	2,674
	和洋区分	国内雑誌	67	21	402	150	521	112	323	223	66	172	2,057
		外国雑誌	3	9	308	26	75	1	88	83	13	11	617
	取得手段	購入（一般財源）	70	20	507	131	174	82	106	105	47	56	1,298
		補助金による購入	0	2	21	11	5	0	0	36	0	1	76
		一般寄贈	0	8	182	34	417	31	305	165	32	126	1,300
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	取得目的	学生用雑誌	63	13	6	99	19	64	0	88	46	50	448
		図書館備付	3	10	634	28	577	31	406	167	32	126	2,014
		研究室備付	4	7	70	49	0	18	5	51	1	7	212
その他資料受入	受入新聞数（タイトル数）		8	0	13	10	6	9	0	0	0	8	54
	和洋区分	国内新聞	6	0	11	10	4	9	0	0	0	8	48
		外国新聞	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	6
	取得手段	購入	7	0	13	10	6	8	0	0	0	7	51
		寄贈	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
	データベース（年間契約点数）		12	0	8	2	0	0	1	4	2	0	29
電子ジャーナル（利用可能数）		38,586											
資料購入費	一般財源資料費		436,887,151	8,679,635	123,050,040	30,375,693	11,245,985	9,187,655	11,080,438	52,003,307	7,808,611	8,009,565	698,328,080
	図書館セグメント	学生用資料費	5,978,713	2,605,679	7,368,507	8,105,927	2,512,617	2,887,934	391,986	3,878,925	2,669,170	2,941,955	39,341,413
		その他資料費	430,243,432	0	26,035,598	0	0	0	0	0	0	0	456,279,030
	部局セグメント	館室備付	387,707	2,791,554	87,750,340	173,490	6,621,100	4,411,337	10,588,095	45,661,042	5,003,613	4,421,123	167,809,401
		研究室備付	277,299	3,282,402	1,895,595	22,096,276	2,112,268	1,888,384	100,357	2,463,340	135,828	646,487	34,898,236
	その他の財源 補助金等		5,789,621	12,251,951	23,822,759	13,837,124	13,232,852	6,178,912	192,464	3,649,008	349,172	868,999	80,172,862
	図書購入費		4,787,931	8,735,914	25,961,275	10,649,713	16,619,247	6,565,209	1,950,996	4,680,468	2,165,282	3,459,738	85,575,773
	和洋区分	和漢書	4,664,825	4,202,409	13,549,119	5,663,650	11,915,100	5,093,709	1,215,059	3,863,819	2,009,272	2,286,984	54,463,946
		洋書	123,106	4,533,505	12,412,156	4,986,063	4,704,147	1,471,500	735,937	816,649	156,010	1,172,754	31,111,827
	雑誌購入費		1,223,887	1,157,046	69,875,707	15,047,926	3,704,757	2,786,687	9,016,280	44,665,342	5,108,133	4,079,054	156,664,819
	和洋区分	国内雑誌	1,019,269	124,121	5,090,840	3,365,337	1,171,676	1,227,201	534,961	2,724,962	921,591	767,695	16,947,653
		外国雑誌	204,618	1,032,925	64,784,867	11,682,589	2,533,081	1,559,486	8,481,319	41,940,380	4,186,542	3,311,359	139,717,166
	新聞購入費		439,250	0	1,086,988	575,505	399,168	372,146	0	0	0	376,530	3,249,587
	電子資料費		436,091,389	270,778	38,238,450	13,743,499	380,197	329,033	245,895	6,213,034	884,368	274,164	496,670,807
	その他の資料購入費		134,315	10,767,848	11,710,379	4,196,174	3,375,468	5,313,492	59,731	93,471	0	689,078	36,339,956
	資料購入費 計		442,676,772	20,931,586	146,872,799	44,212,817	24,478,837	15,366,567	11,272,902	55,652,315	8,157,783	8,878,564	778,500,942
	電子コンテンツ作成費		3,475,786										
製本費		154,440		1,725,790	400,400	321,200	300,300	154,440	311,740	243,100	269,060	3,880,470	

* 所蔵雑誌数は雑誌包括所蔵数から誌名変遷数を引いた数値とする（平成23年度変更）

附属図書館サービス業務の現況(令和7年度)

			総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
施設	施設面積合計(㎡)		3,558	10,308	4,101	1,288	1,474	1,097	1,715	837	2,170	26,548
	現行用途別(㎡)	サービススペース	1,954	2,122	2,205	664	538	141	793	598	763	9,778
		書庫スペース	1,208	5,771	777	535	714	900	462	97	988	11,452
		事務スペース	130	627	432	48	89	27	141	48	103	1,645
		その他	266	1,788	687	41	133	29	319	94	316	3,673
	閲覧座席数	閲覧座席数	423	427	458	138	153	28	225	106	169	2,127
		上のうち、教員用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書架収容力	棚板延長(m)	12,285	49,040	13,732	8,028	7,939	6,873	6,268	1,920	7,258	113,343
		収容可能冊数	341,250	1,362,222	381,450	223,000	220,528	190,916	174,111	53,333	201,611	3,148,421
利用者端末台数			8	14	4	11	7	1	3	3	3	54
利用者	利用対象者総数		4,981	4,279	6,195	751	1,375	80	4,342	1,034	1,184	24,221
	利用者別	学部学生	4,129	2,188	2,589	332	677	0	594	504	710	11,723
		大学院生	207	1,211	1,852	228	297	0	644	299	222	4,960
		教職員	431	602	1,637	135	274	78	2,969	220	189	6,535
		その他	14	64	39	8	68	2	117	1	12	325
		学外登録者総数	200	214	78	48	59	0	18	10	51	678
		内訳:卒業生389、放送大学等82、一般市民207										
開館入館	開館日数	年間	270	332	303	270	272	237	288	268	269	2,509
		土曜(内数)	33	48	33	33	33	0	49	33	32	294
		休日(内数)	0	48	33	0	0	0	0	0	0	81
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	507	699	507	338	338	0	717	338	336	3780
		土曜開館	206	304	206	206	206	0	294	202	200	1824
		休日開館	0	304	206	0	0	0	0	0	0	510
	入館者数	年間入館者総数	134,028	125,676	153,085	47,557	29,773	932	46,361	30,154	21,635	589,201
		(内訳)時間内(含:土日)	127,145	115,799	137,464	43,094	27,715	932	36,260	28,413	20,534	537,356
		平日時間外	6,883	9,877	15,621	4,463	2,058	0	4,898	1,741	1,101	46,642
		閉館時(無人)	0	0	0	0	0	0	5,203	0	0	5,203
		土曜(内数)	1,259	6,391	5,106	1,013	499	0	1,657	420	1,507	17,852
		休日(内数)	0	5,107	4,915	0	0	0	0	0	0	10,022
		学外者(内数)	1,936	6,617	2,866	928	1,979	27	638	630	687	16,308
		(内訳)卒業生	628	1,343	592	505	1,265	2	217	103	65	4,720
		他大学生・研究者等	269	852	674	172	156	10	122	16	227	2,498
一般市民	1,039	4,422	1,600	251	558	15	299	511	395	9,090		
貸出	貸出総冊数		76,780	64,397	49,466	30,247	28,090	2,182	11,446	14,254	19,837	296,699
	利用者別	学生	37,481	19,303	27,766	10,836	9,907	437	5,583	8,670	11,048	131,031
		院生	26,894	36,583	17,767	14,961	14,649	1,401	2,527	4,600	5,638	125,020
		教員	7,259	5,284	2,271	3,263	1,947	256	642	579	1,636	23,137
		職員	3,656	2,206	1,344	1,012	992	66	2,502	328	1,025	13,131
		その他	84	221	20	3	9	0	13	0	5	355
		学外者総数	1,406	800	298	172	586	22	179	77	485	4,025
		卒業生(内数)	560	705	242	159	310	22	178	77	115	2,368
一般市民(内数)	791	0	0	0	0	0	0	0	110	901		
参考調査	参考調査件数		1,243	2,388	2,548	1,485	963	350	1,789	537	1,753	13,056
	利用者別	学生	999	1,409	2,160	1,088	613	97	394	422	1,021	8,203
		教職員	143	143	158	262	150	178	802	115	119	2,070
		学外者	101	836	230	135	200	75	593	0	613	2,783
チャットによる利用者相談			132									132
複写相互利用	来館複写件数		332	2,567	569	1,160	894	170	2,621	72	210	8,595
	利用者別	学内者	242	1,913	306	1,102	710	153	2,530	64	161	7,181
		学外者	90	654	263	58	184	17	91	8	49	1,414
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	0	36	11	22	21	4	37	20	2	153
		ILL文献複写 依頼	15	8	17	21	23	14	15	22	15	150
	図書配送	発送申込冊数	8,844	4,819	1,678	1,262	3,112	408	658	695	1,733	23,209
		受取申込冊数	2,724	2,739	3,798	9,486	1,766	243	1,213	475	765	
		申込者数	671	501	867	715	317	39	162	109	172	
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	152	1,949	171	308	266	64	600	212	72	3,794
		ILL文献複写 依頼	153	544	141	694	185	28	157	273	46	2,221
		ILL現物貸借 受付	440	502	72	382	181	20	19	9	50	1,675
		ILL現物貸借 依頼	119	119	69	435	56	3	3	3	27	834
	海外ILL	文献複写 受付	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		文献複写 依頼	0	0	2	5	0	0	0	0	0	7
		現物貸借 受付	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		現物貸借 依頼	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3

電子的情報サービスの現況 (R7・2025年度)

電子ジャーナルアクセス状況 ※基盤整備費にかかるもの

	2025.4	2025.5	2025.6	2025.7	2025.8	2025.9	2025.10	2025.11	2025.12	2026.1	2026.2	2026.3	合計
ACS	15,362	13,273	12,159	10,707	6,699	9,493	12,197	10,614	9,014	12,207	8,924	8,319	128,968
Cambridge UP	912	936	1,199	1,057	866	778	1,343	1,344	1,332	1,586	866	1,371	13,590
Elsevier ScienceDirect	45,263	47,281	47,988	45,905	30,833	34,997	44,278	43,967	41,070	47,023	33,470	28,261	490,336
HeinOnline	560	419	258	511	415	382	539	544	765	500	315	182	5,390
JSTOR	3,928	4,079	4,165	4,278	2,733	2,579	4,744	4,058	4,540	4,534	3,084	2,856	45,578
Nature	7,789	7,724	8,691	8,639	169,678	6,581	7,443	7,001	6,569	7,764	6,434	5,956	250,269
Ovid	1,612	1,348	1,687	1,210	1,250	1,061	1,465	1,103	1,413	1,085	989	955	15,178
Oxford UP	4,212	4,803	4,421	4,605	3,041	3,610	4,092	3,810	4,089	4,670	3,827	5,496	50,676
Project Euclid	7	10	7	32	10	21	21	18	9	16	9	81	241
Science Online	1,777	1,876	2,027	2,242	1,093	1,369	1,788	1,706	1,731	1,850	1,302	1,204	19,965
Springer Nature Link	18,123	19,859	18,216	17,844	15,482	14,387	17,077	18,259	18,293	20,754	15,238	18,509	212,041
Wiley Online Library	21,028	19,535	19,120	18,947	16,670	15,380	20,536	20,157	18,069	20,310	14,593	20,010	224,355

導入データベース数 ※図書館HP「データベース一覧」より(一般公開分を除く)

全学利用	60	WWWアクセス
キャンパス限定	7	医学4(医中誌、EBMR、MEDLINE、Up to date) 保健1(最新看護索引Web) 六甲台2(LEX/DB インターネット、日本建築学会論文等検索システム)

データベースアクセス状況 ※基盤整備費およびe-study資料費にかかるもの

	2025.4	2025.5	2025.6	2025.7	2025.8	2025.9	2025.10	2025.11	2025.12	2026.1	2026.2	2026.3	合計
Business Source Premier※	196 (196)	124 (139)	124 (134)	152 (257)	121 (162)	93 (101)	138 (126)	149 (135)	119 (138)	173 (159)	111 (152)	95 (98)	1,595 (1,797)
CINAHL	86 (136)	51 (128)	52 (111)	54 (214)	60 (329)	83 (467)	106 (196)	127 (147)	64 (128)	85 (144)	42 (133)	85 (111)	895 (2,244)
CiNii Research	6,541 (18,108)	7,957 (18,715)	7,194 (17,136)	6,415 (15,974)	2,628 (6,216)	2,890 (6,362)	5,349 (14,082)	4,587 (11,676)	5,543 (12,156)	4,394 (10,194)	1,998 (4,763)	1,518 (4,460)	57,014 (139,842)
Index to Legal Periodicals & Books(EBSCOhost)	78 (104)	31 (59)	31 (65)	33 (132)	29 (84)	21 (33)	25 (54)	32 (56)	26 (51)	63 (77)	26 (74)	21 (33)	416 (822)
JCR	386 (625)	358 (410)	478 (961)	367 (606)	200 (173)	266 (731)	340 (632)	222 (355)	258 (409)	286 (201)	213 (190)	454 (607)	3,828 (5,900)
JDreamIII	43 (103)	281 (643)	35 (66)	31 (103)	22 (42)	32 (77)	44 (90)	26 (78)	19 (20)	44 (63)	4 (4)	2 (2)	583 (1,291)
Lexis※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Academic OneFile	147 (228)	99 (337)	128 (207)	141 (213)	85 (284)	80 (150)	154 (270)	162 (370)	104 (202)	117 (114)	72 (152)	57 (139)	1,346 (2,666)
General OneFile	15 (30)	16 (41)	15 (22)	23 (35)	13 (25)	13 (43)	34 (60)	15 (56)	31 (70)	14 (23)	17 (60)	13 (66)	219 (531)
MathSciNet	(1,180)	(1,495)	(892)	(907)	(795)	(1,431)	(1,120)	(656)	(865)	(807)	(911)	(867)	(11,926)
PhycARTICLES	42 (80)	67 (184)	50 (106)	66 (71)	60 (59)	55 (80)	92 (208)	119 (226)	58 (114)	76 (98)	25 (42)	39 (78)	749 (1,346)
PhycINFO	40 (86)	53 (201)	45 (107)	29 (69)	25 (60)	37 (152)	75 (210)	95 (225)	51 (123)	65 (98)	23 (43)	37 (78)	575 (1,452)
Readers Guide to Periodical Literature(EBSCOhost)	80 (110)	30 (63)	30 (65)	35 (141)	30 (85)	21 (34)	25 (53)	33 (58)	26 (51)	63 (81)	26 (74)	20 (33)	419 (848)
SciFinder Discovery Platform for Academics	(6,126)	(6,857)	(11,160)	(9,318)	(3,007)	(4,519)	(6,479)	(4,118)	(3,211)	(4,564)	(3,793)	(3,134)	(66,286)
Web of Science Core Collection	(15,284)	(13,394)	(14,580)	(13,096)	(8,008)	(9,489)	(12,522)	(11,933)	(11,319)	(12,024)	(7,700)	(7,605)	(136,954)
Westlaw Next	184 (342)	255 (539)	276 (491)	226 (607)	123 (244)	116 (366)	228 (384)	223 (453)	365 (966)	315 (541)	244 (881)	208 (382)	2,763 (6,196)
医学中央雑誌	2,794 (7,252)	2,957 (6,607)	2,681 (5,758)	2,675 (5,829)	1,874 (3,787)	1,912 (4,387)	1,961 (4,494)	1,985 (4,192)	1,754 (3,660)	1,560 (2,985)	1,384 (2,746)	1,447 (2,830)	24,984 (54,527)
朝日新聞クロスサーチ	400 (3,580)	655 (8,180)	488 (5,403)	551 (9,561)	414 (8,975)	300 (9,419)	497 (14,907)	507 (96,824)	563 (156,682)	431 (11,029)	343 (4,089)	267 (3,823)	5,416 (332,472)
ジャパンナレッジLib	1,167 (10,597)	1,602 (15,106)	1,574 (14,382)	1,345 (12,271)	772 (6,433)	661 (4,377)	1,298 (13,193)	1,244 (10,805)	1,524 (14,382)	1,352 (12,559)	710 (6,164)	387 (2,599)	13,636 (122,868)
ナクソス・ミュージック・ライブラリー	87	65	101	41	58	42	102	22	39	33	58	35	683
日経テレコン	58,224	36,219	29,783	79,233	32,325	212,005	288,959	175,476	75,871	49,650	17,537	26,561	1,081,843
毎索	204 (11,446)	462 (48,591)	250 (13,711)	289 (31,853)	201 (27,543)	150 (16,709)	286 (10,147)	163 (5,704)	268 (18,613)	203 (5,492)	143 (5,403)	142 (3,352)	2,761 (198,564)
メディカルオンライン	4,877	6,666	5,868	6,065	3,694	3,675	3,996	3,695	4,000	3,541	2,621	2,871	51,569
ヨミダス(ヨミダス歴史館)	158 (1,706)	217 (3,000)	145 (1,446)	179 (3,020)	168 (1,827)	131 (1,567)	156 (1,818)	140 (1,693)	133 (2,505)	133 (1,993)	97 (1,519)	78 (1,489)	1,735 (23,583)

※官報は統計データ未公開

※Business Source Premierは2026年2月にBusiness Source Completeへアップグレード

※Lexisの利用統計はベンダー障害(復旧未定)のため不明

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計

	2025.4	2025.5	2025.6	2025.7	2025.8	2025.9	2025.10	2025.11	2025.12	2026.1	2026.2	2026.3	合計
図書館トップページ	50,966	54,323	50,002	54,274	32,614	27,715	51,269	43,822	43,131	45,195	32,855	25,837	512,003
OPAC延べ検索回数	371,531	365,964	340,041	539,955	446,426	330,130	505,771	640,473	561,201	1,107,321	383,240	404,749	5,996,802
ディスカバリー延べ検索回数	1,438	1,521	1,157	1,299	672	902	1,321	1,333	1,100	1,263	850	565	13,421
震災文庫トップページ	6,590	1,766	1,456	1,952	1,936	2,483	7,970	1,139	1,116	2,695	790	988	30,881
新聞記事文庫トップページ	14,197	8,072	6,764	6,668	5,720	6,600	12,057	7,037	6,351	6,227	4,134	4,769	88,596

リンクリゾルバ(SFX) 利用統計

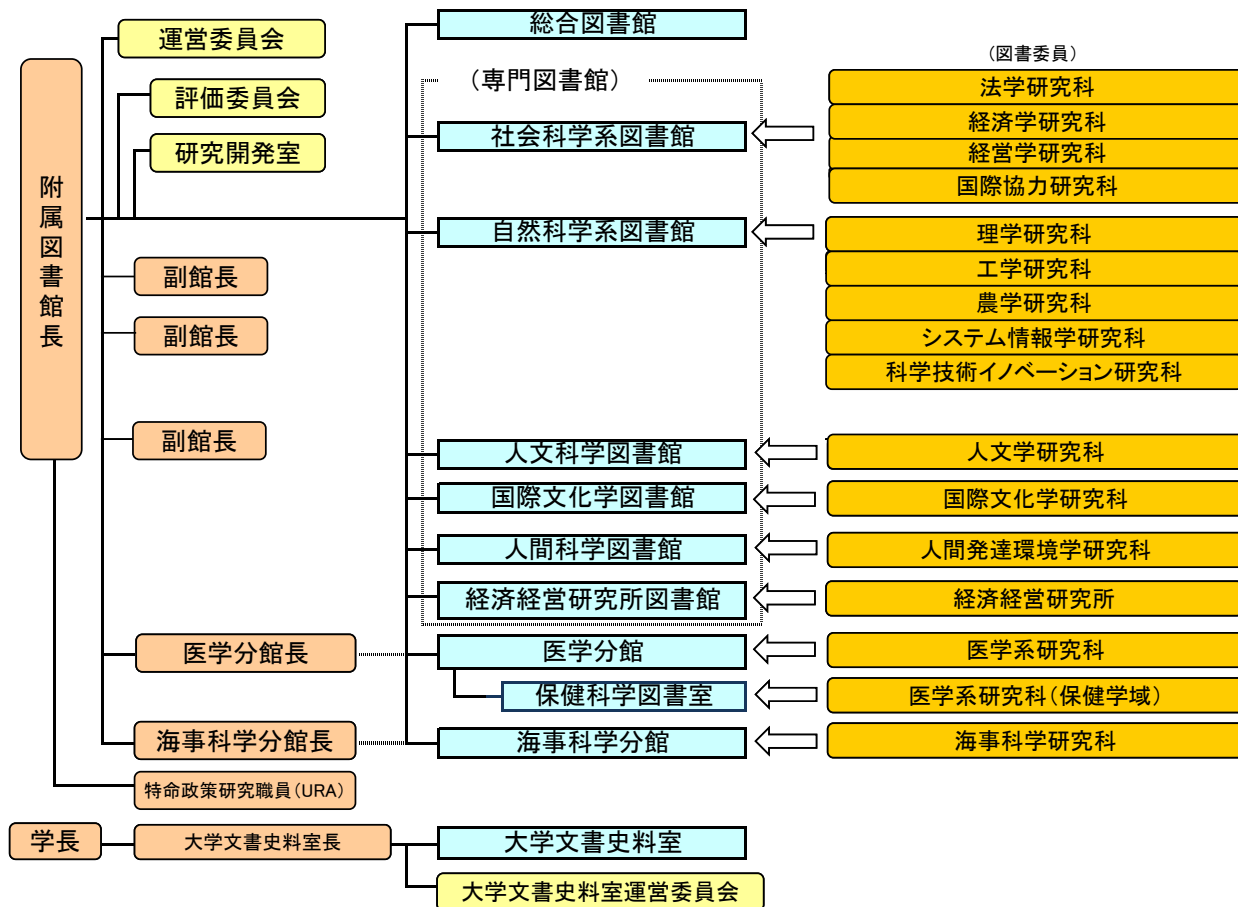
	2025.4	2025.5	2025.6	2025.7	2025.8	2025.9	2025.10	2025.11	2025.12	2026.1	2026.2	2026.3	合計
電子リソースアクセス数	14,516	14,961	17,996	43,300	49,694	21,275	24,671	10,567	12,503	10,912	6,263	7,110	233,768
電子リソースリスト	5,675	6,597	9,760	35,538	45,616	16,494	17,433	4,059	6,605	5,346	2,787	2,318	158,228
DBからのアクセス数	8,841	8,364	8,236	7,762	4,078	4,781	7,238	6,508	5,898	5,566	3,476	4,792	75,540
→ フルテキスト	8,644	8,732	10,720	28,481	34,532	13,434	14,447	5,889	7,147	7,001	3,862	3,494	146,383
→ 所蔵検索数	126	171	139	155	103	124	211	175	103	128	53	72	1,560
→ 文献複写依頼	566	710	684	506	274	287	630	468	464	387	249	194	5,419

※ アクセス数：電子リソースリストやDBからのSFXリンクアイコン総アクセス数、所蔵検索数：OPAC、Webcatのアクセス回数

各DB(CiNii、WoS、JDreamIII、PubMed、医中誌など)へのSFXのリンク設定

附属図書館組織

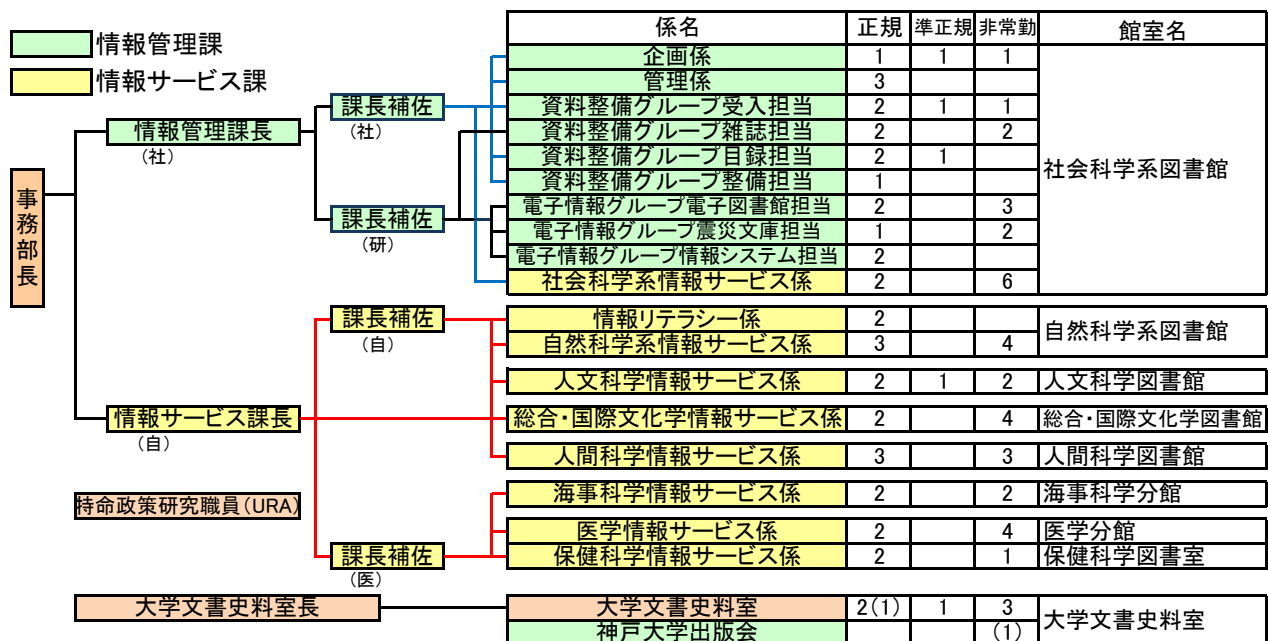
(令和8年7月現在)



各専門図書館、分館及び保健科学図書室に、各館(室)の図書委員会を置く。

事務組織と職員配置

(令和8年7月現在)



附属図書館 正規職員44名 準正規職員4名 非常勤職員35名
 大学文書史料室 教員1名 正規職員 2名 準正規職員1名 非常勤職員 3名
 * 非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

経済経営研究所事務長	経済経営研究所事務部図書係	2	1	0	経済経営研究所図書館
------------	---------------	---	---	---	------------

令和7年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回： 7月3日（木）13:20～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和6年度決算について
- （2） 令和8年度外国雑誌センターの予算について
- （3） 令和7年度電子図書館事業について
- （4） デジタルコンテンツ削除依頼について
- （5） 資料の不用決定について
- （6） 教育研究基盤資料に関する検討について
- （7） その他

報告事項

- （1） 学術論文・根拠データの即時公開義務化について
- （2） 令和8（2026）年外国雑誌購読調査について
- （3） 令和6事業年度に係る業務の実績について
- （4） 令和6年度 総合図書館学生用資料費執行結果について
- （5） 各図書館・室報告について
- （6） その他

第2回： 審議期間 9月11日（木）～ 9月26日（金） （メール回議）

審議事項

- （1） 令和6年度神戸大学附属図書館年次報告（評価委員会案）について

第3回： 11月18日（火）13:20～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 附属図書館に関する自己点検・評価の実施及び
自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画について
- （2） 令和8（2026）年度の時間外開館について
- （3） 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- （4） 神戸大学附属図書館文献複写規程の改正および文献複写料金等に係る内規の制定について
- （5） デジタルコンテンツ削除依頼について
- （6） 資料の不用決定について
- （7） その他

報告事項

- （1） 令和9（2027）年教育研究基盤資料に関する検討について
- （2） Springer Nature 社転換契約の更新について
- （3） 学術成果リポジトリ Kernel の改修について
- （4） 文献複写料金等のキャッシュレス決済について
- （5） 令和8（2026）年外国雑誌センター購読誌の契約について
- （6） 令和8（2026）年度施設関係事業（学内営繕費）要求について
- （7） 各図書館・室報告について
- （8） その他

第4回： 1月13日（火）9：00～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和9年度教育研究基盤資料に関する検討について
- （2） 令和8年度附属図書館開館日について
- （3） 諸規則の一部改正及び新規制定について
- （4） 資料の不用決定について
- （5） その他

報告事項

- （1） 令和8年度事業経費要求について
- （2） 令和8年度教育研究基盤資料整備費購読タイトルについて
- （3） 令和7年度選書ツアー実施報告
- （4） 各図書館・室報告について
- （5） その他

第5回： 審議期間 1月16日（金）～ 2月13日（金） （メール回議）

審議事項

- （1） 令和9年度教育研究基盤資料に関する検討について

第6回： 3月24日（火）10：40～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和8年度学生用資料費について
- （2） 令和8年度 E-Study 資料について
- （3） 令和6年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- （4） 令和8年度総合図書館学生用資料整備計画について
- （5） 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- （6） 自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について
- （7） 神戸大学附属図書館運営委員会規程の一部改正について
- （8） 資料の不用決定について
- （9） その他

報告事項

- （1） 令和7年度読書推進イベント「読書マラソン」実施報告について
- （2） R7年度情報リテラシー事業実施報告およびR8年度事業計画について
- （3） 各図書館・室報告について
- （4） その他

<附属図書館長・副館長・分館長懇談会>

第1回： 5月9日（金）13:20～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 附属図書館運営委員会委員長代理及び副館長の分担について

報告事項

- （1） 附属図書館の概要・課題について
- （2） その他

第2回： 6月25日（水）8:50～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和6年度決算について
- （2） 令和8年度外国雑誌センターの予算について
- （3） 令和7年度電子図書館事業について
- （4） 教育研究基盤資料に関する検討について
- （5） その他

第3回： 11月11日（火）10:40～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 附属図書館に関する自己点検・評価の実施及び
自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画について
- （2） 令和8（2026）年度の時間外開館について
- （3） 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- （4） 神戸大学附属図書館文献複写規程の改正および文献複写料金等に係る内規の制定について
- （5） その他

報告事項

- （1） 令和9（2027）年教育研究基盤資料に関する検討について
- （2） その他

第4回： 12月18日（木）9:00～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和9年度教育研究基盤資料に関する検討について
- （2） 令和8年度附属図書館開館日について
- （3） 諸規則の一部改正及び新規制定について
- （4） その他

第5回： 3月18日（水）10:40～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和8年度学生用資料費について
- （2） 令和8年度 E-Study 資料について
- （3） 令和6年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- （4） 令和8年度総合図書館学生用資料整備計画について
- （5） 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- （6） 自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について
- （7） 神戸大学附属図書館運営委員会規程の一部改正について
- （8） その他

<附属図書館評価委員会>

第1回： 8月20日（水）～ 9月5日（金） （メール回議）

議題

- （1） 令和6年度神戸大学附属図書館年次報告案について

<附属図書館研究開発室会議>

電子化部会 第1回： 5月22日（木）～ 30日（金） （メール回議）

報告事項

- （1） 令和6年度電子図書館事業報告
- （2） 令和6年度学術成果リポジトリ事業報告

協議事項

- （1） 令和7年度電子図書館事業計画（案）について

教育研究支援部会 懇談会： 3月11日（水）15：00～ （Web 会議）

議題

- （1） 令和7年度情報リテラシー事業実施報告
- （2） 令和8年度情報リテラシー事業計画

<情報サービス課連絡会議>

第1回： 4月2日（水） 10：20～ （Web 会議）

議題 （各館室報告、会議報告に続き）

- （1） 卒業生登録 更新切れの ID 削除について
- （2） 「～（延滞者）」で全資料返却後の ID 処理について
- （3） 令和6年度サービス現況表作成のお願い・予告
- （4） R7（2025）年度開催日程案について

第2回： 5月14日（水） 10：20～ （Web 会議）

議題 （各館室報告、会議報告に続き）

- （1） キャッシュレス決済の試行について
- （2） 館内設置の生協コイン式コピー機の新紙幣（千円）・新硬貨（500円）非対応について
- （3） 卒業予定者の貸出期限について
- （4） 生涯番号による付け替えでの問題点
- （5） ULiCS 活動報告へのご協力お願い
- （6） 毎月の延滞冊数集計の中止について
- （7） （7から始まる）卒業生扱いの業務用 ID の利用と利用期限について
- （8） 第1クォーター試験期間中の開館時間延長の掲示・周知について

第3回： 6月4日（水） 10：20～ （Web 会議）

議題 （各館室報告、会議報告に続き）

- （1） キャッシュレス決済の試行について
- （2） 学生証図書 ID バースコードチェック及び通知文等の加筆について
- （3） 夏季休業貸出について
- （4） 図書の不用決定手順について
- （5） 附属中等教育学校への不用図書譲渡照会について

第4回： 7月2日（火） 10：20～ （Web 会議）

議題 （各館室報告、会議報告に続き）

- （1） 不用図書の作業手順の変更について

- (2) 第2クォーター試験期間中の開館時間延長の掲示・周知について
- (3) 夏季休業貸出について掲示、人文書庫の件追記
- (4) 卒業生延滞図書督促発送作業について
- 第5回： 8月6日(水) 10:20～ (Web 会議)
- 議題 (各館室報告、会議報告に続き)
- (1) 図書の館室の移動について
- (2) 学生証のレイアウト変更について
- (3) 「学長と教職員の集い」の開催について
- 第6回： 9月3日(水) 10:20～ (Web 会議)
- 議題 (各館室報告、会議報告に続き)
- (1) キャッシュレス決済について
- (2) 図書館ウェブサイト「図書館利用証・図書館利用証の発行について」中、「教職員」の記載内容について
- (3) 令和8(2026)年度の時間外開館について
- 第7回： 10月7日(火) 10:20～ (Web 会議)
- 議題 (各館室報告、会議報告に続き)
- (1) 令和8(2026)年度の時間外開館について
- (2) 鶴甲第1キャンパスのラーニングコモンズについて
- (3) データベース専用端末(研究所図書館)の設置・運用について
- (4) 令和7年度監事と中堅職員との懇談会について
- 第8回： 11月5日(水) 10:20～ (Web 会議)
- 議題 (各館室報告、会議報告に続き)
- (1) 第3クォーター試験期間中の開館時間延長の掲示・周知について
- (2) 冬季利用案内・長期貸出について
- (3) 全学ネットワーク停止日(12/21, 1/25, 2, 8)について
- (4) 訪問利用の回答を利用者へメールで送付する場合の対応について
- (5) 施設キャラバン(10/29)
- 第9回： 12月3日(水) 10:20～ (Web 会議)
- 議題 (各館室報告、会議報告に続き)
- (1) 令和8(2026)年度学生アルバイト募集について
- (2) アルバイト横断勤務照会表(翌月シフト欠員用)の廃止について
- (3) 訪問利用の回答を利用者へメールで送付する場合の対応について
- (4) 海事科学分館の改修について
- (5) 令和8(2026)年度附属図書館開館日について(案)
- (6) 不用図書の研究室貸出等手続きフローの修正について
- 第10回： 1月7日(水) 10:20～ (Web 会議)
- 議題 (各館室報告、会議報告に続き)
- (1) 「卒業生等の延滞資料の不用決定および督促に関する申合せ」について
- (2) 文献複写/現物貸借申込画面のメッセージ(USW0419)について
- (3) 第4クォーター試験期間中の開館時間延長の掲示・周知について
- (4) 春季利用案内の掲示・周知について
- (5) 令和8(2026)年度学生アルバイト募集について(現状確認)
- (6) 学生用図書選定結果と評価の方法について
- (7) 令和8(2026)年度E-Study資料について
- (8) 時間外開館に関する財務部予算ヒアリング(12/23)

第11回： 2月4日（水） 10：20～ （Web 会議）

議題 （各館室報告、会議報告に続き）

- （1） 学生アルバイト用 Teams グループ設置について
- （2） 卒業予定者利用者区分について
- （3） 入学試験に伴う休館・開館時間変更のお知らせについて
- （4） 令和8年度附属図書館開館日について（各館室会館スケジュール確認）
- （5） 医学分館書庫用雑誌クリーニング期間中の ILL 対応について
- （6） キャッシュレス決済について
- （7） 文献複写／現物貸借申込画面のメッセージ（USW0419）について
- （8） E-Cats コメント欄について
- （9） 学内ヒアリングに関連して OPAC 端末の必要台数について
- （10） オンラインポッド設置に係る整備の必要性について
- （11） 学生用図書選定結果と評価について

第12回： 3月4日（水） 10：20～ （Web 会議）

議題 （各館室報告、会議報告に続き）

- （1） アルバイト用 Teams について
- （2） 卒業予定者利用者区分について
- （3） 卒業生・学外者の利用登録に関する WEB ページ修正について
- （4） 「交通機関の運休、気象警報の発表等による臨時休館の判断基準」の改正について
- （5） ウェブサイトのお知らせ「卒業生貸出サービス登録受付について」
- （6） 複写料金の改定等について

<附属図書館運営委員会委員名簿>

	職 名	氏 名	任 期 等
附属図書館長	発達・教授	近藤 徳彦	R7.4.1～R9.3.31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	経営・教授	清水 泰洋	R7.4.1～R9.3.31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	理・教授	福山 克司 山崎 祐司	R7.4.1～R7.4.30 R7.5.1～R9.3.31
副館長 (附属図書館評価委員長)	人文・教授	佐藤 昇	R7.4.1～R9.3.31
医学分館長	医・教授	中村 誠	R7.4.1～R9.3.31
海事科学分館長	海・教授	竹林 幹雄	R7.4.1～R9.3.31
大学教育推進機構	教 授	柏木 治美	R6.4.1～R8.3.31
人文学研究科	教 授	樋口 大祐	R7.4.1～R9.3.31
国際文化学研究科	教 授	昆野 伸幸	R7.4.1～R9.3.31
人間発達環境学研究科	教 授	長ヶ原 誠	R6.4.1～R8.3.31
法学研究科	教 授	興津 征雄 安井 宏樹	R7.4.1～R7.9.30 R7.10.1～R9.3.31
経済学研究科	教 授	芦谷 政浩	R6.4.1～R8.3.31
経営学研究科	教 授	鈴木 竜太	R6.4.1～R8.3.31
理学研究科	教 授	深城 英弘	R6.4.1～R8.3.31
保健学研究科	教 授	古和 久朋	R6.4.1～R8.3.31
工学研究科	教 授	小野 倫也	R7.4.1～R9.3.31
システム情報学研究科	教 授	BRENDLE JOERG DIETMAR	R6.4.1～R8.3.31
農学研究科 (バイオシグナル総合研究センター)	教 授	坂本 克彦	R6.4.1～R8.3.31
国際協力研究科	教 授	柴田 明穂	R6.4.1～R8.3.31
科学技術イノベーション研究科	教 授	蔭山 広明	R7.1.1～R8.3.31
経済経営研究所	教 授	北野 重人	R7.4.1～R9.3.31
情報基盤センター	教 授	鳩野 逸生	R6.4.1～R8.3.31
附属図書館	事務部長	篠栗 伸一	-----

<附属図書館評価委員会委員名簿>

職 名 (委員は全て官職指定)	氏 名	備 考
附属図書館長	近藤 徳彦	
副館長	清水 泰洋	
副館長	山崎 祐司	
副館長	佐藤 昇	委員長
医学分館長	中村 誠	
海事科学分館長	竹林 幹雄	
事務部長	篠栗 伸一	
情報管理課長	竹下 啓行	
情報サービス課長	岡田 高志	

<附属図書館研究開発室室員名簿>

令和7年4月1日現在

所 属	職 名	氏 名	任期・関連する事業
総括	附属図書館長	近藤 徳彦	室長
電子化部会	文・講師	吉川 圭太	R7.4.1～R9.3.31 (震災関連資料電子化)
	文・助教	有澤 知世	R6.4.1～R8.3.31 (古典資料電子化)
	研究所・准教授	高槻 泰郎	R6.4.1～R8.3.31 (新聞記事文庫電子化)
	図・電子図書館 担当専門職員	鳥谷 和世	R5.7.1～R7.6.30
	図・震災文庫担 当専門職員	守本 瞬	R7.4.1～R9.3.31
教育研究支援部会	大教・国際コミュニ ケーションセンター・教 授	石川慎一郎	R7.4.1～R9.3.31
	国文・准教授	清光 英成	R6.4.1～R8.3.31
	国協・教授	木村 幹	R6.4.1～R8.3.31
	医学研究科医 療創成工学専 攻・特命教授	祇園 景子	R6.4.1～R8.3.31
	図・情報サービ ス課課長補佐	笠原 夕美	R6.8.1～R8.7.31
	図・情報リテラ シー係長	大場 健二	R6.8.1～R8.7.31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	R6.4.1～R8.3.31 (情報システム)

<附属図書館研究開発室 電子化部会震災関係資料小委員会委員名簿>

令和7年4月1日現在

所属	職名	氏 名	任期
委員長 人文学研究科	講師	吉川 圭太	※R7.4.1～R9.3.31
委員 附属図書館	専門職員	鳥谷 和世	※R5.7.1～R7.6.30
委員 附属図書館	専門職員	守本 瞬	※R7.4.1～R9.3.31
専門委員 人文学研究科	特命助教	跡部 史浩	R7.1.1～R8.12.31
専門委員 人文学研究科	学術研究員	佐々木 和子	R7.1.1～R8.12.31

※研究開発室室員の任期とする

令和7年度 附属図書館決算

1. 既定経費

(単位:円)

事 項	令和7年度 予算配分額 (当初) (A)	令和7年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和7年度 予算配分総額 (C)	令和7年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要 適要欄()内 単位:千円
A. 経常運営費						
(1) 備品・消耗品費	998,000	2,860,035	3,858,035	5,326,036	△ 1,468,001	什器類(3,955)、情報関連機器(1,050)
(2) 事務用図書費	200,000		200,000	247,622	△ 47,622	事務用図書、事務用雑誌
(3) 印刷製本費	100,000		100,000	56,210	43,790	利用案内等
(4) 光熱水料	31,600,000	2,252,517	33,852,517	23,318,182	10,534,335	【予算】令和6年度課外活動施設維持費配分(28) 【執行】電気料(18,729)、ガス料(2,811)、上下水道料(1,778)
(5) 通信運搬費	5,500,000		5,500,000	5,449,433	50,567	書籍等運送業務(3,327)、宅配便(1,306)、郵便料(481)、電話料(330)
(6) 借料及び損料	1,000,000		1,000,000	905,880	94,120	複写機保守費等
(7) 雑役務等諸経費	31,000,000	△ 1,069,002	29,930,998	37,098,558	△ 7,167,560	日常清掃(10,299)、昇降機修繕保守(3,177)、警備委託(4,023)、受変電設備修繕保守(1,882)、機器等修繕保守(4,569)、空調修繕保守(1,161)、蔵書点検業務(624)、消防設備保守(720)、廃棄物処理(1,120)、電話交換機修繕保守(224)、諸会費(460)、建物修繕(951)、給排水設備修繕保守(187)、緑地管理(338)、水槽設備清掃(148)
(8) 非常勤職員給与等	82,000,000	658,536	82,658,536	80,139,137	2,519,399	
(9) 電子計算機維持経費	210,000		210,000	278,000	△ 68,000	情報基盤センター利用負担金
(10) 職員旅費	200,000	4,390	204,390	587,664	△ 383,274	会議・研修会・講習会等旅費(551)、バス・地下鉄・私鉄カード(36)
(1)～(10)小 計	152,808,000	4,706,476	157,514,476	153,406,722	4,107,754	
B. 経常事業費						
(1) 時間外開館経費	10,000,000		10,000,000	8,188,682	1,811,318	職員雇用、学生雇用、消耗品等
(2) 電子図書館事業	625,000		625,000	596,680	28,320	研究開発室会議電子化部会へ決算報告
(3) 電子図書館事業人件費	5,000,000		5,000,000	4,812,147	187,853	研究開発室会議電子化部会へ決算報告
(4) その他事業費(展示会経費)	50,000		50,000	113,720	△ 63,720	資料展経費
(5) 図書館資料費	67,499,000	5,930,625	73,429,625	72,548,517	881,108	
学生用資料費	39,045,000	5,930,625	44,975,625	44,972,038	3,587	SciFinder受益者負担金(5,630)
e-study資料費	4,159,000		4,159,000	4,158,714	286	
震災文庫資料費	295,000		295,000	263,563	31,437	
外国雑誌センター館経費	24,000,000		24,000,000	23,154,202	845,798	
(6) 製本費	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,997,380	2,620	
(7) 附属図書館長裁量経費	100,000	14,200,000	14,300,000	16,675,268	△ 2,375,268	【予算】OA出版受益者負担(14,200)を含む 【執行】 ・什器類(1,152)、書籍用タグ(3,485) ・Ebook(2,532) ・Springer Nature転換契約に伴う追加料金(993) ・Elsevier転換契約に伴う追加料金(1,498) ・総合・国際文化学図書館机上ライトLED交換作業(878) ・総合・国際文化学図書館・人文科学図書館・医学分館図書クリーニング業務(5,720) ・空調フィルター清掃(338)
(1)～(7)小 計	84,274,000	21,130,625	105,404,625	104,932,394	472,231	
附属図書館(運営費+事業費) 計	237,082,000	25,837,101	262,919,101	258,339,116	4,579,985	
C. 大学文書史料室						
運営経費	5,828,000		5,828,000	5,286,894	541,106	
D. 出版会						
管理運営経費	△ 1,790,782	3,809,250	2,018,468	3,886,993	△ 1,868,525	
既定経費 (附属図書館+大学文書史料室+神戸大学出版会) 計	241,119,218	29,646,351	270,765,569	267,513,003	3,252,566	

2. 収入確保インセンティブ経費等から繰入

事 項	令和7年度 予算配分額 (当初) (A)	令和7年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和7年度 予算配分総額 (C)	令和7年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要 適要欄()内 単位:千円
E. 収入確保インセンティブ経費等		6,838,145	6,838,145		6,838,145	【予算】ILL等収入(5,296)、ネーミングライツ(1,320)
(1) 建物老朽劣化対策経費		△ 4,337,000	△ 4,337,000		△ 4,337,000	施設部予算へ
(2) ILL管理運営経費		1,533,475	1,533,475		1,533,475	文献複写等 他大学へ依頼分(999)
(3) 複写機使用料 管理運営経費		156,709	156,709		156,709	
(4) 学生用資料費他へ配分		△ 4,191,329	△ 4,191,329		△ 4,191,329	
収入確保インセンティブ経費等 計	0	0	0	0	0	

1. 既定経費+2. 収入確保インセンティブ経費等 計	241,119,218	29,646,351	270,765,569	267,513,003	3,252,566	【予算】前年度繰越(2,000) 残額は令和7年度への繰越(上廻2,000)
-----------------------------	-------------	------------	-------------	-------------	-----------	---

3. 臨時的経費

事 項	令和7年度 予算配分額 (当初) (A)	令和7年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和7年度 予算配分総額 (C)	令和7年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要 適要欄()内 単位:千円
F. 電算機借料						
情報化推進経費(図書館システム)	44,297,000		44,297,000	44,296,080	920	リース料、機器等保守費
小 計	44,297,000	0	44,297,000	44,296,080	920	
G. 臨時的経費						
教育研究基盤資料整備費	426,084,718		426,084,718	426,084,718	0	
図書館時間外開館経費	13,547,000		13,547,000	13,547,000	0	
管理運営経費(防災管理点検)		68,200	68,200	68,200	0	防災管理点検
施設整備費補助金 ライフライン(給排)施設整備		13,557,249	13,557,249	13,557,249	0	受変電設備改修工事
附属図書館HPリニューアル		4,150,000	4,150,000	4,150,000	0	
環境・安全推進事業		91,583	91,583	91,583	0	衛生管理者受検、用務員経費
社会科学系図書館						
施設部目的積立金長寿命		1,636,800	1,636,800	1,636,800	0	空調設備改修工事
建物老朽化対策経費		627,000	627,000	627,000	0	玄関前防水補修工事
災害復旧・施設整備R7		5,558,666	5,558,666	5,558,666	0	火災報知設備改修工事
建物等修繕		3,300,000	3,300,000	3,300,000	0	空調設備改修工事
人文図書館						
電動書架改修等		35,295,000	35,295,000	33,075,900	2,219,100	電動密集書架改修工事
施設部営繕事業		398,954	398,954	398,954	0	便所改修工事
人間科学図書館						
施設整備費補助金		2,539,306	2,539,306	2,539,306	0	受変電設備改修工事
施設費交付金		3,677,779	3,677,779	3,677,779	0	エレベーター工事、便所給水管工事
小 計	439,631,718	70,900,537	510,532,255	508,313,155	2,219,100	
臨時的経費 計	483,928,718	70,900,537	554,829,255	552,609,235	2,220,020	

1. 既定経費+2. 収入確保インセンティブ経費等 +3. 臨時的経費 計	725,047,936	100,546,888	825,594,824	820,122,238	5,472,586	
--	-------------	-------------	-------------	-------------	-----------	--

4. 外部資金

事 項	令和7年度 予算配分額 (当初) (A)	令和7年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和7年度 予算配分総額 (C)	令和7年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要 適要欄()内 単位:千円
H. 外部資金						
日本学術振興会委託業務	18,955,200		18,955,200	18,955,200	0	人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業(間接経費2,976、外部資金獲得インセンティブ56を含む)
学術情報流通活性化経費	9,850,000		9,850,000	9,850,000	0	URA(図書館担当)人件費、旅費、リーフレット印刷
誓子基金	661,104	100,000	761,104	49,847	711,257	【予算】前年度繰越(661) 山口文庫関連書籍購入費、残額は令和8年度へ繰越
神戸大学出版会出版基金	1,475,500		1,475,500	649,000	826,500	【予算】前年度繰越(476) 残額は令和8年度へ繰越
120年史編集刊行事業	7,720,330		7,720,330	7,720,330	0	【予算】前年度繰越(748)
厚生補導奨学寄附金	582,000	194,000	776,000	0	776,000	【予算】前年度繰越(582) 生協食堂ホール光熱費負担還元(総合・国際文化学図書館、令和4-7年度分) 残額は令和8年度へ繰越
外部資金 計	39,244,134	294,000	39,538,134	37,224,377	2,313,757	

令和7年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:円

館 室 名	学生用資料				震災文庫 資料費	外国雑誌 センター	e-study 事業費	** その他	*** 教育研究基盤 資料整備費	計 ****
	予算額 *	決算額 *	比較増減	図書購入冊数						
総合図書館	5,979,000	5,978,713	287	1,825			4,158,714		426,084,718	436,222,145
社会科学系図書館	7,369,000	7,368,507	493	1,608	263,563	23,154,202		2,617,833		33,404,105
自然科学系図書館	8,107,000	8,105,927	1,073	976						8,105,927
人文科学図書館	2,513,000	2,512,617	383	365						2,512,617
国際文化学図書館	2,606,000	2,605,679	321	258						2,605,679
人間科学図書館	2,888,000	2,887,934	66	456						2,887,934
経済経営研究所図書館	392,000	391,986	14	35						391,986
医学分館	3,879,000	3,878,925	75	530						3,878,925
保健科学図書室	2,670,000	2,669,170	830	380						2,669,170
海事科学分館	2,942,000	2,941,955	45	614						2,941,955
小 計	39,345,000	39,341,413	3,587	7,047	263,563	23,154,202	4,158,714	2,617,833	426,084,718	495,620,443

注* 図書の他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

注** 電子図書館事業費の複写費、消耗品

注*** 電子ジャーナル経費

注**** これ以外に、電子コンテンツ作成費3,475,786円がある

(部局セグメント)

単位:円

館 室 名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	387,707	277,299	665,006
社会科学系図書館	87,750,340	1,895,595	89,645,935
自然科学系図書館	173,490	22,096,276	22,269,766
人文科学図書館	6,621,100	2,112,268	8,733,368
国際文化学図書館	2,791,554	3,282,402	6,073,956
人間科学図書館	4,411,337	1,888,384	6,299,721
経済経営研究所図書館	10,588,095	100,357	10,688,452
医学分館	45,661,042	2,463,340	48,124,382
保健科学図書室	5,003,613	135,828	5,139,441
海事科学分館	4,421,123	646,487	5,067,610
計	167,809,401	34,898,236	202,707,637

(部局セグメント)

単位:円

館 室 名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他	計
総合図書館	46,287	64,078	0	5,679,256	5,789,621
社会科学系図書館	16,446,533	4,249,022	1,100,585	2,026,619	23,822,759
自然科学系図書館	9,737,779	2,846,578	1,111,898	140,869	13,837,124
人文科学図書館	10,958,066	0	1,017,566	1,257,220	13,232,852
国際文化学図書館	10,915,869	133,800	167,515	1,034,767	12,251,951
人間科学図書館	4,681,100	274,209	177,809	1,045,794	6,178,912
経済経営研究所図書館	173,951	0	0	18,513	192,464
医学分館	96,505	3,126,527	333,030	92,946	3,649,008
保健科学図書室	280,611	51,335	0	17,226	349,172
海事科学分館	723,843	49,517	19,032	76,607	868,999
計	54,060,544	10,795,066	3,927,435	11,389,817	80,172,862

単位:円

合計
442,676,772
146,872,799
44,212,817
24,478,837
20,931,586
15,366,567
11,272,902
55,652,315
8,157,783
8,878,564
778,500,942

2025（令和7）年度 附属図書館活動日誌

<4月>

- 2（水） 令和7年度神戸大学新任教職員研修
 <於：出光佐三記念六甲台講堂 参加：サビース課長、係員2名>
 【オンライン】サビース課連絡会議
- 4（金） 入学式
- 8（火） 第1回オープンサイエンス推進WG <於：社会系図書館6階会議室>
- 9（水） オダーガ・イダンス（農）<於：自然系コラボレーションルーム2 説明：リテラシーWG>
- 10（木） オダーガ・イダンス（人文）<於：人文科学図書館 説明：人文サビース係>
- 15（火） オダーガ・イダンス（人文）<於：人文C362 共同談話室 説明：リテラシーWG>
 医学分館 第1回図書委員会 <於：研究棟B 共同会議室>
 オダーガ・イダンス（国協）
 <於：第5学舎4Fプレゼンテーションルーム 説明：リテラシーWG>
 オダーガ・イダンス（国人）<於：人間科学図書館 説明：リテラシーWG>
 初年次セミナー <於：人間科学図書館>
- 17（木） オダーガ・イダンス（保健）<於：名谷C601 大会議室 説明：リテラシーWG>
 オダーガ・イダンス（経営）<於：第三学舎206教室 説明：リテラシーWG>
 初年次セミナー <於：海事科学分館>
 初年次セミナー <於：総合国際文化学図書館>
 初年次セミナー <於：人文科学図書館>
 経済学部初年次セミナー <於：社会系図書館 説明：社系サビース係>
 オダーガ・イダンス（人文）<於：人文科学図書館 説明：リテラシーWG>
 オダーガ・イダンス（保健）<於：名谷B202 説明：リテラシーWG>
- 21（月） 理学部初年次セミナー <於：理学部Y棟202号室 説明：自然サビース係>
- 22（火） オダーガ・イダンス（人文）<於：人文科学図書館 説明：リテラシーWG>
 経営学部初年次セミナー <於：社会系図書館 説明：社系サビース係、管理課長補佐、係員1名>
 【オンライン】Web of Science 講習会
- 23（水） 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会
 <於：大阪大学附属図書館 出席：部長、管理課長>
 国立大学図書館協会近畿地区加盟館図書系人事担当課長・事務部長懇談会
 <於：大阪大学附属図書館 出席：管理課長>
 国立大学図書館協会近畿地区協会 総会
 <於：大阪大学附属図書館 出席：館長、部長、管理課長、サビース課長>
 【オンライン】第1回アウトリーチWG <於：自然系図書館コラボレーションルーム1>
- 24（木） RDA 24th Plenary Meeting 参加報告会(オンライン) <参加：係長1名>
 オダーガ・イダンス（保健）<於：名谷キャンパスB棟202 説明：リテラシーWG>
 図書館ア-（附属中等学校）<於：社会系図書館 説明：社系サビース係>
 震災文庫見学（附属中等学校）
- 25（金） 理学部生物学科安全講習会 <於：理学部Z棟201、202 説明：リテラシーWG>
 図書館ア-（社系）<於：社会系図書館 説明：社系サビース係>
 初年次セミナー <於：海事科学分館>
 初年次セミナー <於：人文科学図書館>
 初年次セミナー <於：総合国際文化学図書館>
- 30（水） 人文科学図書館 第1回図書委員会 <於：人文学研究科C462>

<5月>

- 1（木） 図書館ア-（社系）<於：社会系図書館 説明：社系サビース係>
- 2（金） 経済学部初年次セミナー <於：社会系図書館 説明：社系サビース係>
 初年次セミナー <於：人間科学図書館>
 初年次セミナー <於：自然系図書館>
- 7（水） 法学部初年次セミナー <於：六甲台講堂 説明：社系サビース係>
- 8（木） オダーガ・イダンス（人文）<於：人文科学図書館 説明：リテラシーWG>
- 9（金） 【オンライン】第1回館長・副館長・分館長懇談会

	第1回将来構想検討WG <於：社会系図書館6階会議室>
	初年次セミナー <於：海事科学分館>
	経済学部基礎演習 <於：自然系図書館>
12(月)～14(水)	COAR Annual Conference 2025 <於：一橋講堂、オンライン 運営：係員1名 参加：係員3名>
12(月)	オーダーガイダンス(理学) <於：自然系図書館 説明：リテラーWG>
	法学部初年次セミナー <於：社会系図書館 説明：社系サービス係>
13(火)	附属図書館職員初任者研修 <於：社会系図書館会議室 説明：部長、係長6名 参加：係員3名>
14(水)	【オンライン】サービス課連絡会議
16(金)	オーダーガイダンス(情基) <於：自然系図書館 説明：リテラーWG>
19(月)	法学部初年次セミナー <於：社会系図書館 説明：社系サービス係>
21(水)	第1回ULiCS定例会 <於：総合国際文化学図書館グループ学習室E>
22(木)	海事科学分館 第1回図書委員会 <於：事務棟4階第二会議室>
22(木)～6月5(木)	保健科学図書室 第1回図書委員会(メール回議)
22(木)～30(金)	附属図書館研究開発室会議電子化部会(メール回議)
23(金)	オーダーガイダンス(国文) <於：国際文化学研究科L棟202 説明：リテラーWG> 【オンライン】公文書管理研修I<参加：事務補佐員1名>
26(月)	【オンライン】兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会合同会議 <出席：部長、課長2名、補佐1名、係長1名>
28(水)	【オンライン】セミナー「マイクロフィルム 今、やるべきこと」<参加：係長1名、係員1名>
29(木)	オーダーガイダンス(理) <於：自然系図書館 説明：リテラーWG>
30(金)	オーダーガイダンス(国人) <於：人間発達環境学研究科F158 説明：リテラーWG> 経済学部初年次セミナー <於：社会系図書館 説明：社系サービス係> 第14回DXプレイグラウンド『生成AIによる議事要旨作成の自動化』 <参加：係長2名>
<6月>	
2(月)～6(金)	トライやるウィーク(筒井台中学校)
	2025年度漢籍整理長期研修 <於：東京大学東洋文化研究所 参加：係員1名>
3(火)	第1回大学文書史料室運営委員会 <於：自然系図書館4階職員会議室> 医学分館 第2回図書委員会 <於：研究棟B階共同会議室>
4(水)	【オンライン】サービス課連絡会議
5(木)～11(水)	国際文化学図書館 第1回図書委員会(メール回議)
6(金)	【オンライン】国大図協・資料委員会 第1回パブリカル <登壇：係長1名> 【オンライン】学術情報流通に関する連続セミナー第8回「科学技術政策の中のオープンアクセス: 遥かなるEBPMへの道」<参加：係長1名>
10(火)	パネル展「阪神・淡路大震災30年「あの日の神戸」—記憶の継承—」 <於：自然系図書館4階オープンスペース>
11(水)	自然科学系図書館 第1回図書委員会 <於：自然系図書館4階大会議室> 第1回展示WG <於：社会系図書館6階会議室>
11(水)～17(火)	人間科学図書館 第1回図書委員会(メール回議)
12(木)～13(金)	令和7年度兵庫県下教育機関事務系職員(新規採用者)研修 <於：瀧川記念学術交流会館 参加：係員2名>
13(金)～18(水)	第1回選書WG(Teamsチャネル回議)
15(日)	電気設備定期点検に伴う停電 <於：鶴二キャンパスを除く六甲台地区全域>
16(月)	法学部初年次セミナー <於：社会系図書館 説明：社系サービス係> 初年次セミナー <於：人間科学図書館 説明：人間サービス係> 初年次セミナー <於：国際文化学研究科L棟204室 説明：リテラーWG> 【オンライン】経済経営研究所図書館 第1回図書委員会
16(月)～23(月)	社会科学系図書館 第1回図書委員会(メール回議)
18(水)	【オンライン】NIIオープンフォーラム「何する?何が出来る?これからの大学図書館」<参加：係員1名>
19(木)	第2回将来構想検討WG <於：社会系図書館6階会議室、オンライン>
19(木)～20(金)	第72回国立大学図書館協会総会 <於：東北大学川内萩ホール、オンライン 出席：部長、管理課長、サービス課長>

23 (月)	初年次セミナー <於：国際文化科学研究科 L 棟 204 室 説明：リテラー WG>
23 (月)～25 (水)	第 42 回西洋社会科学古典資料講習会 <於：一橋大学社会科学古典資料センター 参加：係員 1 名>
23 (月)～27 (金)	自然科学系図書館 第 2 回図書委員会(メール回議)
24 (火)	【オンライン】英語論文セミナー「アクトされやすい英語論文とは？～出版社の立場から～」<担当：エム・ビ・ア・ジ・ヤ・ン株式会社>
25 (水)	【オンライン】第 2 回館長・副館長・分館長懇談会 第 1 回情報リテラー教育支援 WG <於：自然系図書館コラボレーションルーム 1>
26 (木)	【オンライン】第 2 回選書 WG (JOSS2025)「AI×文学研究の可能性を探る」 <参加：係員 1 名>
27 (金)	第 1 回神戸大学出版会運営委員会 <於：理事室、オンライン> 神戸大学システム情報学部設置記念式典・祝賀会 <於：記念式典：六甲ホール、瀧川記念館 出席：館長、部長>
30 (月)	第 1 回オープンアクセス推進チーム会議 <於：本部棟 4 階特別会議室 出席：館長、部長、管理課長、URA> 【オンライン】令和 6 年度国立大学図書館協会システム委員会 勉強会企画 「生成 AI との向き合い方」<参加：係長 1 名、係員 1 名>
30 (月)～7月9 (水)	初年次セミナー <於：国際文化科学研究科 L 棟 204 室 説明：リテラー WG>
7月16 (水)～18 (金)	大学図書館職員長期研修 <前半オンライン、後半 於：筑波大学中央図書館 参加：係長 1 名>
<7月>	
1 (火)	神戸大学医学部医療創成工学科設置記念式典・記念講演・祝賀会 <於：神戸大学医学部会館シメックホール、神緑会館記念ホール 出席：館長>
2 (水)	【オンライン】サービス課連絡会議
3 (木)	【オンライン】第 1 回附属図書館運営委員会
8 (火)	オーダーガイダンス (国人) <於：国際文化科学研究科 F102 説明：リテラー WG>
11 (金)、16 (水)	管理監督者研修 <参加：課長 1 名、課長補佐 1 名>
15 (火)	人文科学・社会科学デザインファクトリー強化事業現地調査 <於：社会系図書館 6 階会議室>
17 (木)	幹部職員セミナー「障害共生と障害者雇用の新たな段階」 <於：本部棟 6 階大会議室、オンライン参加：管理課長、サービス課長、課長補佐 1 名、係長 1 名>
22 (火)	第 1 回神戸大学出版会出版委員会 <於：理事室、オンライン> 第 2 回展示 WG <於：社会系図書館 6 階会議室>
25 (金)	【オンライン】第 124 回兵庫県大学図書館協議会総会 機関訪問 <対応：部長、課長 2 名、課長補佐 1 名、係員 2 名> 令和 7 年度神戸大学スウェッチ研修「未来洞察・アイデアソン (デザイン思考) 職員研修」 <参加：係員 1 名>
26 (土)	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験 <於：京都大学附属図書館 要員：部課長>
28 (月)	資金管理に関する内部監査 (人間科学図書館)
29 (火)	日本史研究会主催シンポジウム「大学と戦争 -京都帝国大学の場合-」 <於：立命館大学国際平和ミュージアム 大学文書史料室長補佐、教員 1 名、係員 1 名>
30 (水)～8月1 (金)	第 3 回将来構想検討 WG <於：社会系図書館 6 階会議室>
31 (木)～8月4 (月)	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験 (二次) <於：社会系図書館会議室> 社会科学系図書館 第 2 回図書委員会(メール回議)
<8月>	
1 (金)～21 (木)	【オンライン】第 9 回 JMLA コア研修 <参加：係員 1 名>
4 (月)～5 (火)	【オンライン】「学術情報流通活性化経費」中間ヒアリング
6 (水)	人文科学図書館 第 2 回図書委員会 <於：人文科学研究科小会議室> 【オンライン】サービス課連絡会議 機関訪問説明会プロジェクト振り返り会議 <於：楠キャンパス厚生施設 会議室 2 参加：係員 1 名>
6 (水)～8 (金)	オープンキャンパスツアーによる見学 <於：社会系図書館 引率：ベ・ル・ン>
8 (金)	DX ハズ・オンイベント 「業務に役立つ！M365 で申請受付・申請リスト作成を自動化！」

	<参加：係員 1 名>
12 (火)～14 (木)	令和7年度一斉休業 ※図書館は全館室閉館
18 (月)～22 (金)	【オンライン】アーカイブズ研修Ⅰ <参加：係員 1 名>
20 (水)～22 (金)	【オンライン】大学図書館員のための IT 総合研修 <参加：係長 1 名>
20 (水)～9月5 (金)	附属図書館評価委員会 (メール回議)
22 (金)	第2回情報リテラシー教育支援WG <於：自然系図書館コラボレーションルーム1>
27 (木)	第4回将来構想検討WG <於：社会系図書館6階会議室>
28 (木)	令和7年度人事評価に係る研修会 (評価者対象) <於：理学研究科棟 201・202 教室 参加：課長 1 名>
	令和7年度ハラスメント防止対策研修会 <於：理学研究科棟 201・202 教室 参加：課長 1 名>
	令和7年度ハラスメント相談員研修会 <於：理学研究科棟 201・202 教室 参加：係長 1 名>
29 (金)	【オンライン】学術情報流通に関する連続セミナー第10回「人文学のためのオープンサイエンス・ドイツでの体験から」<参加：係員 1 名>
<9月>	
1 (月)～3 (水)	第一種衛生管理者試験準備講習会 <於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室参加：係員 4 名、係長 1 名>
1 (月)～5 (金)	2025 年度漢籍整理長期研修 <於：東京大学東洋文化研究所 参加：係員 1 名>
3 (水)	【オンライン】サービス課連絡会議
8 (月)～12 (金)	御影中学トライやるウィーク <於：自然系図書館 来館：2 名>
	海事科学分館 第2回図書委員会 (メール回議)
	令和7年度漢籍担当職員講習会 (初級) <於：京都大学人文科学研究所 附属人文情報学創新センター 参加：係員 1 名>
8 (月)～17 (水)	国大図協海外派遣事業 (ドイツ、ルクセンブルク) <参加：係員 1 名>
9 (火)～17 (水)	保健科学図書室 第2回図書委員会 (メール回議)
10 (水)	令和7年度神戸大学主任・中堅職員研修 <於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室 参加：係員 1 名>
	【オンライン】第1回図書館環境整備WG
10 (水)～11 (木)	大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 2025 年度版元提案説明会 <於：一橋講堂 中会議場 参加：係長 1 名>
11 (木)～26 (金)	第2回附属図書館運営委員会 (メール回議)
12 (金)	DX 推進担当研修 <於：情報基盤センター本館3階会議室 参加：係員 1 名>
	JMLA JPLA コンソーシアム説明会 <於：全水道会館会議室 出席：係長 1 名>
17 (水)	兵庫県大学図書館協議会施設見学会「大阪大学外国学図書館」 <実施担当 課長補佐 1 名、係長 1 名、係員 4 名>
18 (木)～19 (金)	目録システム書誌作成研修 <於：国立情報学研究所 参加：係員 1 名>
19 (金)	令和7年度神戸大学主任・中堅職員研修 <於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室 参加：係員 1 名>
	国大図協近畿地区協会「キタガミ」第1回WG <於：大阪大学附属図書館外国学図書館 出席：管理課長、係員 3 名>
	資金管理に関する内部監査 (医学分館)
22 (月)	社会科学系図書館 終日臨時休館 (LC 補修工事のため)
24 (水)	【オンライン】みんなでござらい COAR2025 第3回「一発でまるわかり、世界のオープンアクセスの状況」 <登壇：係員 1 名>
24 (水)～25 (木)	車いすアクセシビリティ調査 <於：総合国際文化学図書館>
25 (木)	【オンライン】第5回みらいコミュニティ勉強会「研究の未来を拓く！オープンアクセス・オープンサイエンスの展望」 <参加：係員 1 名>
25 (木)～26 (金)	保健科学図書室 臨時閉館 (大学院入試準備のため 25 日 13 時～)
26 (金)	DX 推進担当研修 <於：情報基盤センター本館3階会議室 参加：係員 2 名>
29 (月)～30 (火)	車いすアクセシビリティ調査 <於：総合国際文化学図書館>
30 (火)～10月6 (月)	医学分館 第3回図書委員会 (メール回議)
30 (火)～10月7 (火)	国際文化学図書館 第2回図書委員会 (メール回議)

< 10月>	
3 (金)	SMBC ビジネスセミナー <於：中之島セントラルタワー 17 階 参加：係員 1 名> 【オンライン】国大図協「インクルーシブ」<インクルー対応：課長補佐 1 名、アウトリーチ WG>
7 (火)	【オンライン】サビース課連絡会議
7 (火) ~ 11月13 (木)	非常時参集訓練 <於：社系、自然、人文、医学、海事 参加者：15 名>
8 (水)	面接官研修 <於：理学 Z 棟 201・202 多目的室 参加：部長、管理課長、サビース課長>
9 (木)	【オンライン】国際文化学図書館 第 2 回図書委員会
10 (金)	DX 推進担当研修 <於：情報基盤センター本館 3 階会議室 参加：係員 2 名> 令和 7 年度大学経営人材育成セミナー <於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室 参加：係長 1 名>
14 (火)	学内会計監査 <於：社会系図書館 6 階会議室> オーダーガイダンス (国文) <於：総合国際文化学図書館ラウンジ・エモンズ 説明：リテラシー WG>
15 (水)	令和 7 年度多様な働き方推進研修「時短勤務者研修」 <於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室 参加：係長 1 名>
16 (木)	名誉教授の会・懇親会 <於：出光佐三記念六甲台講堂、BEL BOX カフェテリア 出席：館長>
17 (金)	資金管理内部監査 <於：保健科学図書館>
20 (月)	令和 7 年度大学経営人材育成セミナー <理学研究科 Z 棟 201・202 教室 参加：係長 1 名> 【オンライン】120 年史編集委員会 <出席：館長、部長、大学文書史料室員>
20 (月) ~ 27 (月)	人間科学図書館 第 2 回図書委員会 (メール回議)
21 (火) ~ 27 (月)	医学分館 第 4 回図書委員会 (メール回議)
21 (火) ~ 12月22 (月)	令和 7 年度資料展「江戸・上方の本屋さん」<於：社会系図書館 2 階展示ホール>
22 (水)	オーダーガイダンス (国人) <会場：E 棟 3 階教員談話室 説明：リテラシー WG> 【オンライン】国会図書館令和 7 年度アジア資料書誌作成セミナー (ビジュアル) 初級編 <参加：係長 1 名、係員 2 名>
22 (水) ~ 28 (火)	自然科学系図書館 第 3 回図書委員会 (メール回議)
23 (木)	オーダーガイダンス (国協) <於：第五学舎 6 階 GNP ハイブリッドミーティングルーム 説明：リテラシー WG>
24 (金)	DX 推進担当研修 <於：情報基盤センター本館 3 階会議室 参加：係員 2 名> 【オンライン】図書館総合展「図書館の課題 × 生成 AI を体験」<参加：係員 1 名> 【オンライン】図書館総合展「CiNii Research の統合と展開—文理を超えた研究支援に向けて」 <参加：係員 1 名>
25 (土)	第 2 回 ULiCS 定例会 <於：総合国際文化学図書館グループ学習室 E>
27 (月)	ホームカミングデー <出席：館長、展示会対応：課長補佐 1 名、係長 2 名、係員 1 名> 被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会 <於：文学部 C 棟 5 階大会議室 出席：館長、部長、管理課長、課長補佐 1 名、係長 1 名> 令和 7 年度大学経営人材育成セミナー <於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室 参加：係長 1 名>
27 (月) ~ 31 (金)	令和 7 年度漢籍担当職員講習会 (中級) <於：京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター 参加：係員 1 名>
28 (火)	施設キャラバン <於：自然系図書館教職員会議室、出席：館長、部長、管理課長、サビース課長、 大学文書史料室長補佐、管理係長>
28 (火) ~ 31 (金)	【オンライン】大学図書館職員短期研修 <参加：係員 2 名>
28 (火) ~ 11月4 (火)	経済経営研究所図書館 第 2 回図書委員会 (メール回議)
29 (水)	救急講習会 <於：瀧川記念学術交流会館 2 階大会議室 参加：係員 1 名、事務補佐員 2 名>
31 (金)	救急講習会 <於：瀧川記念学術交流会館 2 階大会議室 参加：事務補佐員 1 名>
< 11月>	
5 (水)	【オンライン】サビース課連絡会議 【オンライン】国会図書館レファレンスサビース研修「科学技術情報の調べ方 基礎編」 <参加：係長 1 名>

6 (木)	第5回将来構想検討WG <於：社会系図書館6階会議室>
7 (金)	DX推進担当研修 <於：情報基盤センター本館3階会議室 参加：係員2名>
10 (月)～14 (金)	トライやるウィーク(上野中学校) <於：社会系図書館>
11 (火)	【オンライン】第3回館長副館長分館長懇談会 アークファースト研修Ⅲ(専門職員養成コース) <於：国立公文書館東京本館 派遣：講師1名>
12 (水)	第6回将来構想検討WG <於：社会系図書館6階会議室>
14 (金)	OA加速化事業実地調査 <於：社会系図書館6階会議室 対応：部長、管理課長、補佐、係長3名、URA> 令和7年度防災訓練
18 (火)	【オンライン】第3回附属図書館運営委員会 令和7年度アプリケーションソフトウェア研修 <於：情報基盤センター分館1階研修室 参加：事務補佐員1名>
19 (水)～26 (水)	医学分館 第5回図書委員会(メール回議)
20 (木)	オーダーガイダンス(国人) <於：総合国際文化学図書館グループ学習室E 説明：リテラシーWG>
21 (金)	DX推進担当研修 <於：情報基盤センター本館3階会議室 参加：係員2名> 令和7年度「図書館等職員著作権実務講習会」 <於：TKPガーデンシティ京都ターミナル八間 参加：係員1名>
25 (火)	第2回オープンアクセス推進チーム会議 <於：自然系図書館4階 教職員会議室 出席：館長、部長、管理課長、URA、補佐1名、係長2名>
26 (水)	第17回DXブレイクラウンド「AIエージェントの夜明け」 <於：V.School1階セミナー室 参加：係長1名>
27 (木)	令和7年度国立大学図書館協会地区協会助成事業「貴重資料オープンアクセス促進化ワークショップ」(国際日本文化研究センター) <準備：係員1名、参加：課長補佐1名、係長1名>
28 (金)	【オンライン】目録システム書誌作成研修 <係員1名>
<12月>	
1 (月)～8 (月)	第2回業務改善WG(メール回議)
2 (火)	令和7年度国大図協近畿地区協会人事担当課長・事務長懇談会 <於：京都教育大学 出席：管理課長> 令和7年度国大図協近畿地区協会事務連絡会 <於：京都教育大学、出席：部長、管理課長、サービス課長>
3 (水)	【オンライン】サービス課連絡会議
3 (水)～4 (木)	【オンライン】障害者サービス担当職員向け講座(国立国会図書館) <参加：係員1名>
4 (木)	資金管理に関する内部監査(総合国際文化学図書館)
5 (金)	DX推進担当研修 <於：情報基盤センター本館3階会議室 参加：係員2名>
6 (土)	深江キャンパス計画停電実施のため海事科学分館臨時休館
11 (木)	【オンライン】2025年度大学業務ソリューションセミナー <参加：係長1名>
12 (金)	令和7年度附属図書館職員研修(各種報告会) <於：社会系図書館6階会議室、オンライン> 【オンライン】令和7年度第9回JMLA学術集会CEコース <参加：係長1名> 附属図書館忘年会
15 (月)	【オンライン】令和7年度国立大学図書館協会助成事業(中国四国地区)「大学図書館と防災(資料の災害対策編)」 <参加：係員1名>
15 (月)～19 (金)	国際文化学図書館 第3回図書委員会(メール回議) 人間科学図書館 第3回図書委員会(メール回議)
15 (月)～22 (月)	人文科学図書館 第3回図書委員会(メール回議)
17 (水)	【オンライン】社会科学系図書館 第3回図書委員会 <於：社会系図書館6階会議室、オンライン> 【オンライン】海外派遣事業セミナー「経験者に聞く海外派遣」 <登壇：係員1名> 【オンライン】国大図協資料委員会セミナー「研究活動における生成AIツールの活用」 <参加：係長1名>
18 (木)	【オンライン】第4回館長・副館長・分館長懇談会 幹部職員セミナー <於：本部棟6階大会議室、オンライン 出席：館長、部長、管理課長、サービス課長>

19 (金)	DX 推進担当研修 <於：情報基盤センター本館 3 階会議室 参加：係員 2 名>
22 (月)	【オンライン】国立大学図書館協会シンポジウム「国立大学図書館協会の新たなビジョンへの展開：「新世代の大学知」創出の場としての大学図書館に向けて」<参加：課長補佐 1 名、係長 3 名>
24 (水)	資金管理に関する内部監査（海事科学分館）
<1 月>	
7 (水)	【オンライン】サービス課連絡会議
13 (火)	【オンライン】第 4 回附属図書館運営委員会
14 (水)	大学院講義「アーカイブズ 情報管理特殊研究」 <於：社系 6 階会議室、震災文庫 講義担当：震災担当係長>
15 (木)	資金管理に関する内部監査（自然系、人文、大学文書史料室） 令和 7 年度トップマネジメントセミナー <参加：管理課長、サービス課長>
16 (金)	大学入試共通テストに伴い 13 時で臨時閉館（保健科学図書館） 大学入試共通テストに伴い 17 時で臨時閉館（研究所、医学図、保健図を除く）
16 (金)～2 月 13 (金)	第 5 回附属図書館運営委員会（メール回議）
17 (土)	大学入試共通テストに伴い臨時休館（研究所、医学図を除く）
18 (日)	大学入試共通テストに伴い臨時休館（社会科学系図書館）
26 (月)	【オンライン】D プロジェクト事前説明会 <於：理学研究科 Z201、202、参加：係員 2 名> 【オンライン】キタが懇話会「多様な視点で考える図書系職員のこれから」 <参加：係長 1 名、係員 1 名>
27 (火)	第 2 回神戸大学出版会出版委員会 <於：奥村理事室、オンライン 出席：部長、陪席：管理課長、課長補佐、係長 2 名、補佐員 1 名>
29 (木)	第 6 回 DX ラウンドテーブルミーティング <於：ダイセル OI ホール 参加：係員 2 名>
30 (金)	令和 7 年度予算ヒアリング <於：本部 6F 会議室 出席：館長、部長、管理課長、サービス課長、課長補佐 1 名、係長 1 名> 【オンライン】人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業フォーラム <於：東京大学福武ホール、報告：係長 1 名>
30 (金)～2 月 12 (木)	人文科学図書館 第 4 回図書委員会（メール回議）
31 (土)	人文学・社会科学データインフラストラクチャー連絡会議・第 2 回実務者ミーティング <於：東京大学史料編纂所大会議室 出席：係長 1 名>
<2 月>	
2 (月)～3 (火)	令和 7 年度国立大学協会近畿地区支部研修「係長研修」 <於：大阪大学箕面キャンパス 大阪外国語大学記念ホール（1 階）参加：係長 1 名>
4 (水)	【オンライン】サービス課連絡会議 オープンサイエンス・研究データ管理に関するインビュ（三菱総研） <対応：管理課長、課長補佐 1 名、URA、係長 2 名>
5 (木)～6 (金)	【オンライン】国立公文書館「アーカイブズ 研修 II」<出席：係員 1 名> 【オンライン】「2030 デジタルライブラリー」推進に関する検討会（第 12 回）<傍聴：係長 3 名>
6 (金)	第 3 回展示 WG <於：社会系図書館 6 階会議室> 【オンライン】国会図書館レファレンスサービス研修「人文情報の調べ方一応用編一」 <参加：係長 1 名、係員 2 名>
6 (金)～13 (金)	医学分館 第 6 回図書委員会（メール回議）
13 (金)	【オンライン】令和 7 年度大阪大学職員研修「研究での利活用に向けたデジタルアーカイブの構築・運営：デジタル人文学を中心として」<於：大阪大学総合図書館 6F 図書館ホール、報告：係員 1 名>
16 (月)	資金管理に関する内部監査（社会系図書館）
17 (火)	防火防災訓練 <於：大学文書史料室> 【オンライン】第 3 回情報リテラシー教育支援 WG <於：社会系図書館 6 階会議室> 【オンライン】第 2 回ハロリガトル <登壇：係員 1 名> 【オンライン】第 1 回多言語目録勉強会 <参加：係長 1 名、係員 2 名>
18 (水)	【オンライン】社会科学系図書館 第 4 回図書委員会 <於：社会系図書館 6 階会議室>
18 (水)～25 (水)	海事科学分館 第 4 回図書委員会（メール回議） 保健科学図書室 第 3 回図書委員会（メール回議）

20 (金)～26 (木)	人間科学図書館 第4回図書委員会 (メール回議)
20 (金)～27 (金)	医学分館 第7回図書委員会 (メール回議)
24 (火)	前期入学試験に伴い13時で閉館 (保健科学図書室) 前期入学試験に伴い17時で閉館 (社会科学系図書館)
25 (水)	前期入学試験に伴い休館 (人間図、医学図を除く) 防火・防災訓練 <於：社会系図、人文図、総合図、保健図、海事図>
25 (水)～26 (水)	前期入学試験に伴い休館 (保健科学図書室)
25 (水)～3月4 (水)	人文科学図書館 第5回図書委員会 (メール回議)
26 (木)	防火・防災訓練 <於：医学分館>
26 (木)～3月5 (木)	経済経営研究所図書館 第3回図書委員会 (メール回議)
<3月>	
2 (月)	情報価値創造教育棟竣工記念式典 <出席：館長、部長>
3 (火)～9 (月)	国際文化学図書館 第4回図書委員会 (メール回議)
4 (水)	【オンライン】サービスマ課連絡会議
5 (木)	【オンライン】Charleston Conference Asia 2026 参加報告会 <参加：係員1名>
5 (木)～10 (火)	自然科学系図書館 第4回図書委員会 (メール回議)
6 (金)	【オンライン】2025年度 JUSTICE 総会 <出席：係長1名> 【オンライン】国大図協助成事業 (関東甲信越地区) 研修会「生成AI時代の図書館職員の学び方」 <参加：係長2名、係員1名>
10 (火)	第6回大学文書史料室運営委員会 <於：社系図書館6階会議室 出席：部長、大学文書史料室員> 【オンライン】第2回認証7-キビスタ養成に係る教育・研究機関連絡会 <出席：大学文書史料室長、室長補佐>
11 (水)	【オンライン】研究開発室教育研究支援作業部会懇談会 <出席：課長補佐1名、係長1名> 後期入学試験に伴い13時で閉館 (保健科学図書室) 後期入学試験に伴い17時で閉館 (社会科学系図書館)
12 (木)	後期入学試験に伴い休館 (人間図、医学図を除く) 防火防災訓練<研究所図、自然系図> 【オンライン】2025年度 JPCOAR 総会 <出席：部長、管理課長>
13 (金)	第2回大学文化遺産活用等検討ワーキンググループ <於：本部棟5階第2会議室 出席：課長補佐1名> 出光興産社史・理念研究所主催セミナー <於：出光ヒューマンギャラリー 講演：大学文書史料室長補佐> 第7回将来構想検討WG <於：社会系図書館6階会議室>
14 (土)	KOBE BOOK FAIR & MARKET 2026 (六甲アイランド 神戸ファッションマート) <参加：出版会事務補佐員1名>
16 (月)	【オンライン】第2回図書館環境整備WG
18 (水)	【オンライン】第5回館長・副館長・分館長懇談会
24 (火)	【オンライン】第6回附属図書館運営委員会
27 (金)	附属図書館送別会